

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

【警告】 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同様もしくは類似した名前のボタンやつまみが本体にある場合は、本体でも同様に操作できます。



このマークは「高温注意（Hot Surface）」を意味します。動作中に、この面をさわると熱く感じことがあります。

商標について

本機はドルビー *デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx、IIz）、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**（DTS-ES および DTS 96/24）デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号 5,956,674、5,974,380、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567、その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、および DTS-HD とシンボルの組み合わせは登録商標です。また DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI™) 技術を搭載しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

AirPlay、iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、and iPod touch は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、™、® マークは明記していません。

「Made for iPod」「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品を iPod または iPhone と共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。

DLNA™, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED™ are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.

“Sony Entertainment Network” ロゴおよび “Sony Entertainment Network” は、ソニー株式会社の商標です。

Wake-on-LAN は、米国の International Business Machines Corporation の商標です。

Windows および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、Microsoft Corporation が有する特定の知的財産権によって保護されています。Microsoft および Microsoft 関連会社から使用許諾を得ることなく、本製品に使われている技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

MPEG Layer-3 オーディオコーディング技術とその特許は、Fraunhofer IIS および Thomson から許諾されています。

“x.v.Color” および “x.v.Color” ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

“ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

VAIO および VAIO Media はソニー株式会社の登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。

Bluetooth® とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。その他すべての商標および商号は各社の所有物です。

POCKET BIT、ポケットビットはソニー株式会社の商標です。

“InstaPrevue™” は、米国およびその他の国における Silicon Image, Inc. の商標または登録商標です。

FLAC デコーダー

Copyright (C)

2000,2001,2002,2003,2004,2005,

2006,2007

Josh Coalson

改変の有無に問わらず、以下の条件を満たした場合、ソースとバイナリ形式での再配布と使用が許可されます。

- ソースコードの再配布に、上記の著作権表示、本条件項目の一覧、以下の免責条項が含まれていること。
- バイナリ形式での再配布の場合、上記の著作権表示、本条件項目の一覧、以下の免責条項を書類、および／または本配布付属の資材の形式で複製すること。
- 事前に書面による許可を得ない限り、本ソフトウェアから派生した製品の保証や販売促進に、Xiph.org Foundation および作者の氏名を使用してはならない。

本ソフトウェアは「そのままの状態」で提供され、できる限りの明示された、または暗黙の保証を含んでいますが、それに制限されることはなく、市場向けの暗黙的な保証や特別な目的への適用は拒否されます。本ソフトウェアの利用によって発生した責任の理由、契約の有無、絶対的な義務、または不正行為（過失またはそうでない場合を含む）の程度にかかわらず、基金またはその貢献者たちは、直接的、間接的、付隨的、特別な、懲戒的、または派生的損害（代替商品または代替サービスの調達、利用・データ・利益の損失、業務の中断を含みますが、それだけではありません）について何ら責任を負わないものとします。これは、当該損害の可能性について知らされた場合でも同様とします。

目次

この取扱説明書について	2
同梱品	6
各部の名前と働き	7
はじめに	16
接続	
1 : スピーカーを設置する ...	18
2 : スピーカーを接続する ...	20
3 : テレビを接続する	22
4a : 映像機器を接続する ...	23
4b : オーディオ機器を 接続する	27
5 : アンテナを接続する	28
6 : ネットワークに 接続する	28
本機の準備をする	
電源コードを接続する	31
本機の電源を入れる	31
Easy Setup (かんたん設定) を使って本機を設定 する	31
本機のネットワーク設定を 行う	34
オンスクリーン表示 (OSD) の操作方法	38
基本操作	
入力ソース機器を 再生する	39
iPod/iPhone を再生する ...	41
USB 機器を再生する	43
チューナーの操作	
FM/AM ラジオを聞く	46
FM/AM ラジオ放送局を プリセットする (プリセットメモリー) ...	48

音響効果を楽しむ

サウンドフィールドを 選ぶ	49
Sound Optimizer 機能を 使う	52
補正タイプを選ぶ	52
イコライザーを調整する	53
ピュアダイレクト機能を 使う	53
サウンドフィールドを 初期設定状態に戻す	54

ネットワーク機能を使う

本機のネットワーク機能に について	54
サーバーを設定する	55
サーバーの音声コンテンツを 楽しむ	60
Sony Entertainment Network (SEN) を 楽しむ	64
AirPlay で iTunes から音楽 をストリーミングする	66
ソフトウェアをアップデート する	68
キーワードを使ってアイテム を検索する	70

Bluetooth 機能を使う

Bluetooth 無線技術に について	71
本機の Bluetooth 機能に について	72
Bluetooth 機器の音楽を 聞く	72

“ブラビアリンク”機能

“ブラビアリンク”機能 とは？	75
“ブラビアリンク”の 準備をする	76
ワンタッチプレイ	77
電源オフ連動	77
システムオーディオ コントロール	78
オートジャンル セレクター	78
シーンセレクト	80
オーディオ機器 コントロール	80
テレビリモコンからの メニュー操作	80

その他の操作

デジタル音声とアナログ音声を 切り換える (Input Mode)	81
他の音声入力端子を使う (Audio Input Assign)	81
バイアンプ接続する	83
お買い上げ時の設定に戻す	83

設定を調節する

Settings メニューを使う	84
かんたん設定 (Easy Setup)	86
スピーカー設定 (Speaker Settings)	86
音声設定 (Audio Settings)	91
HDMI 設定 (HDMI Settings)	93
入力設定 (Input Settings)	94
ネットワーク設定 (Network Settings)	94
システム設定 (System Settings)	95
OSD を使わずに 操作する	96

リモコンを使う

入力切り換え用ボタンの 割り当てを変更する	102
入力切り換え用ボタンを 初期設定に戻す	103

その他

使用上のご注意	104
故障かな？と思ったら	106
保証書とアフター サービス	118
主な仕様	119
索引	123

同梱品

- 取扱説明書（本書）（1）
- 接続・設定ガイド（1）
- 安全のために（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）
- 製品登録のおすすめ（1）
- リモコン（RM-AAU177）（1）
- 単3形マンガン乾電池（2）
- FMアンテナ線（1）



- AMループアンテナ（1）

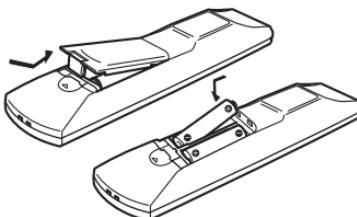


- 測定用マイク（ECM-AC2）（1）



リモコンに電池を入れる

リモコンに単3形マンガン乾電池（付属）2個を入れます。乾電池を入れる際には \oplus と \ominus の向きを正しく入れてください。

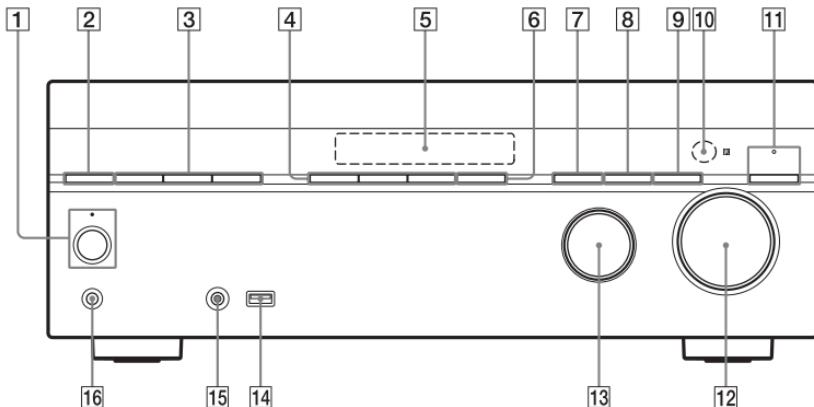


ご注意

- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と他の種類の乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。誤動作の原因となります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液もれや腐食を避けるために乾電池を取り出してください。
- 電池交換時に、リモコンのボタンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、入力切り換え用ボタンを再登録してください（102ページ）。
- リモコンが本機に認識されなくなったら、乾電池をすべて交換してください。

各部の名前と働き

本体前面



① I/O (電源オン／スタンバイ) (31、54 ページ)

ボタンの上のランプは次のように点灯します。

緑：本機の電源が入っている状態
オレンジ色：本機がスタンバイ状態で

– 「Control for HDMI」(93 ページ)、「Network Standby」(95 ページ) または「BT Standby」(74 ページ) が、「On」に設定されているとき。

– 「Pass Through」(93 ページ) が「On」または「Auto」に設定されている場合。

本機がスタンバイ状態で「Control for HDMI」、「Pass Through」、「Network Standby」および「BT Standby」が「Off」に設定されているときは、消灯します。

ご注意

ランプがゆっくり点滅しているときは、ソフトウェアのアップデート中です(68 ページ)。ランプが速く点滅しているときは、ソフトウェアのアップデートでエラーが発生しています。

② SPEAKERS (33 ページ)

③ TUNING MODE、TUNING +/-
TUNING MODE を押してチューナー(FM/AM)を操作します。
TUNING +/- を押して放送局を選局します。

④ A.F.D./2CH、MOVIE、MUSIC (49、50 ページ)

⑤ 表示窓 (9 ページ)

⑥ SOUND OPTIMIZER (52 ページ)

⑦ BLUETOOTH (72 ページ) Bluetooth 機能を操作します。

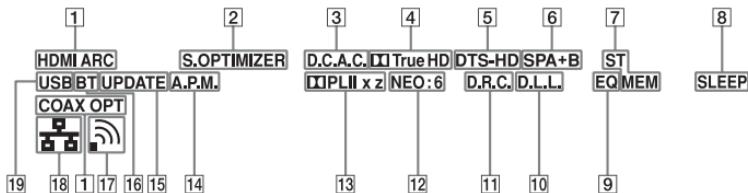
⑧ DIMMER

表示窓の明るさを 3 段階で調整します。

⑨ DISPLAY (102 ページ)

- ⑩ **リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。
- ⑪ **PURE DIRECT (53 ページ)**
PURE DIRECT が働いているときは、ボタンの上のランプが点灯します。
- ⑫ **MASTER VOLUME つまみ (40 ページ)**
- ⑬ **INPUT SELECTOR つまみ (40 ページ)**
- ⑭ **USB ポート (27 ページ)**
- ⑮ **AUTO CAL MIC 端子 (32 ページ)**
- ⑯ **PHONES 端子**
ヘッドホンをつなぎます。

表示窓上のインジケーター



① 入力表示

現在本機に入力されている信号を点灯表示します。

HDMI

HDMI IN 端子につないだ機器を本機が認識しています。

ARC

テレビ入力が選択され、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が検出されています。

COAX

デジタル信号が COAXIAL 端子から入力されています (81 ページ)。

OPT

デジタル信号が OPTICAL 端子から入力されています (81 ページ)。

② S.OPTIMIZER

Sound Optimizer 機能が働いているときに点灯します (52 ページ)。

③ D.C.A.C.

自動音場補正機能の測定結果が適用されているときに点灯します。

④ DPL II*

本機が Dolby True HD 信号をデコードしているときに点灯します。

⑤ DTS(-HD) 表示 *

対応する DTS フォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

DTS

DTS-HD

DTS

DTS-HD

⑥ スピーカーシステム表示 (33 ページ)

⑦ チューニング表示

ST

ステレオ放送局を受信すると点灯します。

MEM

プリセットメモリー (48 ページ) などのメモリー機能が働いているときに点灯します。

⑧ SLEEP

スリープタイマーが働いているときに点灯します (13 ページ)。

⑨ EQ

イコライザーが働いているときに点灯します。

⑩ D.L.L.

D.L.L. (Digital Legato Linear) 機能が働いているときに点灯します (91 ページ)。

⑪ D.R.C.

ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します (92 ページ)。

⑫ NEO:6

DTS Neo:6 Cinema/Music デコーダーが働いているときに点灯します (50 ページ)。

⑬ ドルビープロロジック表示

ドルビープロロジック処理をしているときに、該当する表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張することができます。

- **PL** Dolby Pro Logic
- **PL II** Dolby Pro Logic II
- **PL IIx** Dolby Pro Logic IIx
- **PL IIz** Dolby Pro Logic IIz

ご注意

スピーカーパターンの設定によっては、点灯しない場合があります。

⑭ A.P.M.

A.P.M. (Automatic Phase Matching) 機能が働いているときに点灯します。
DCAC (Digital Cinema Auto Calibration) 機能では、A.P.M. 機能のみを設定できます (89 ページ)。

⑮ UPDATE

新しいソフトウェアをダウンロード可能なときに点灯します (68 ページ)。

⑯ BT

Bluetooth 機器がつながれているときに点灯します。

⑰ 無線 LAN 信号強度表示

無線 LAN 信号の強度を示します (36、37 ページ)。

- 信号がありません。
- 弱い信号強度です。
- 適度な信号強度です。
- 強い信号強度です。

⑱ 有線 LAN 表示



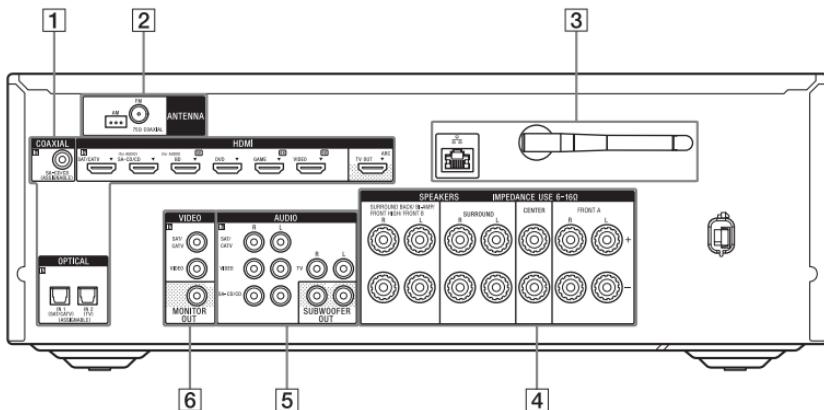
LAN ケーブルがつながれているときに点灯します。

⑲ USB

iPod/iPhone または USB 機器が検出されると点灯します。

* ドルビーデジタルもしくは DTS フォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続が完了していること、および「Input Mode」が「Analog」(81 ページ) に設定されていないか、または「Analog Direct」が選択されていないかを確認してください。

本体後面



① デジタル入／出力部

- HDMI 入／出力 * 端子 (22, 25, 27 ページ)
- 光デジタル入力端子 (22, 26 ページ)
- 同軸デジタル入力 端子 (27 ページ)

② チューナー部

- FM アンテナ 端子 (28 ページ)
- AM アンテナ 端子 (28 ページ)

③ NETWORK部

- LAN ポート (30 ページ)
- 無線 LAN アンテナ (30 ページ)

④ スピーカー出力部 (20 ページ)



⑤ 音声入／出力部

- 白 (L) AUDIO IN 端子 (22, 26, 27 ページ)
- 赤 (R) AUDIO IN 端子 (22, 26, 27 ページ)
- 黒 SUBWOOFER OUT 端子 (20 ページ)

⑥ 映像入／出力部 (22, 26 ページ)

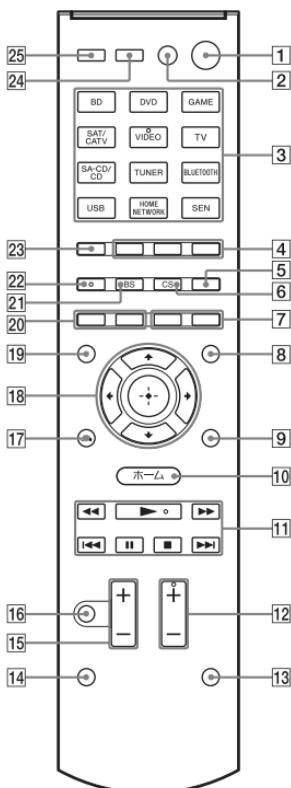
- 黄 映像入／出力 * 端子

* 選んだ入力の映像を見るには、お使いのテレビを HDMI TV OUT 端子または MONITOR OUT 端子につないでください (22 ページ)。

リモコン

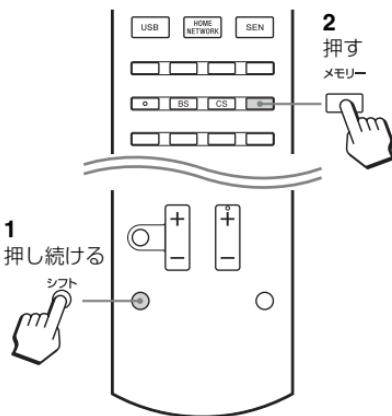
付属のリモコンを使って、本機や他の機器の操作ができます。リモコンのボタンには、ソニー製のオーディオ／映像機器用の操作があらかじめ登録されています。入力切り替え用ボタンを再登録すれば、本機に接続している他の機器を操作することができます（102ページ）。

RM-AAU177



ピンク色で表記されたボタンを使うには

シフト（14）を長押しして、使用したいピンク色表記のボタンを押します。
例：シフト（14）を長押しして、メモリー（5）を押します。



本機を操作するには

① $\text{I} \text{ / } \text{O}^1$ (電源オン／スタンバイ)

本体の電源をオン／スタンバイ状態にします。

スタンバイ状態にして電力消費を抑えるには

「Control for HDMI」、「Network Standby」、「Pass Through」、「BT Standby」を「Off」にします。

② $\text{TV } \text{I} \text{ / } \text{O}^1$ (電源オン／スタンバイ)

テレビの電源をオン／スタンバイ状態にします。

③ 入力切り替え用ボタン

使用する機器を選びます。入力切り替え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。各ボタンはソニー製の機器を操作できるように設定されています。

数字／テキストボタン¹⁾²⁾

- シフト ([14]) を長押しして、数字／テキストボタンを押して、
 - プリセットした放送局をプリセット／選局します (48 ページ)。
 - トランク番号を選びます。トランク 10 を選択するときは、0/10/= を押します。
 - チャンネル番号を選びます。
 - 文字を選びます (ABC、DEF など)。
 - ネットワーク機能の文字を入力する際に、! や ? のような句読点、または他の #、% のようなシンボルの場合は、@ を選びます。
- ([3]) で TV を押して、シフト ([14]) を長押しして、数字ボタンでテレビのチャンネルを選びます。

文字切換

- シフト ([14]) を長押しして、文字切換を押してネットワーク機能の文字タイプを選びます。
- 文字切換を押すたびに、文字タイプが次のように順に切り換わります。
「abc」(小文字) → 「ABC」(大文字) → 「123」(数字)

クリア¹⁾

- シフト ([14]) を長押しして、クリアを押して、
 - ネットワーク機能の文字を消します。
 - 間違った数字／テキストボタンを押したとき、不要な文字を消します。

④ アルファベットサーチ

キーワードを使って項目を検索します (70 ページ)。

アルファベット前

前の項目を検索します。

アルファベット次

次の項目を検索します。

⑤ スリープ

アンプ ([25]) を押してから、指定した時間に本機の電源が自動的に切れるようにスリープを押します。スリープを押すたびに表示が次のように切り換わります。
0:30:00 → 1:00:00 → 1:30:00
→ 2:00:00 → OFF

ちょっと一言

- 本機の電源が切れるまでの残り時間を確認するには、スリープを押してください。残り時間が表示窓に表示されます。
- 以下の操作を行うと、スリープマークが解除されます。
 - スリープをもう一度押す。
 - 本機のソフトウェアをアップデートする。
 - I/Off を押す。

メモリー

シフト ([14]) を長押しして、選局操作中にメモリーを押して放送局を保存します。

⑥ CS

110°CS デジタル放送に切り替えます (CS を押して CS1/CS2 に切り替えます)。

iPhone コントロール

iPod/iPhone 使用時に、iPod/iPhone 操作モードに入ります。

⑦ ポップアップ／メニュー¹⁾

BD-ROM のポップアップメニューまたは DVD のメニューを開いたり閉じたりします。

トップメニュー¹⁾

BD-ROM または DVD のトップメニューを開いたり閉じたりします。

⑧ アンプメニュー

本機を操作するためのメニューを表示します (96 ページ)。

⑨ オプション¹⁾

オプションメニューで項目を表示させて選びます。

⑩ ホーム¹⁾

ホームメニューを表示させて、オーディオ／映像機器を操作します。

⑪ ◀◀/▶▶¹⁾、◀◀/▶▶¹⁾、▶¹⁾、 ■¹⁾、■¹⁾

早戻し／早送り、スキップ、再生、一時停止、停止の操作。

選局 +/-¹⁾

放送局をスキャンします。

ダイレクト選局²⁾

ダイレクト選局モードに入ります。

プリセット +/-¹⁾

プリセットした放送局やチャンネルを選びます。

⑫ サウンドフィールド +/-²⁾

サウンドフィールドを選びます (49 ページ)。

⑬ PURE DIRECT (53 ページ)

ピュアダイレクトモードに入ります。

⑭ シフト

リモコンのボタン機能を切り換えて、ピンク表記のボタンを有効にします。

⑮ 音量 +/-

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

⑯ 消音

一時的に音を消します。消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

⑰ 戻る ↺¹⁾

メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻る、またはメニューを閉じます。

⑯ ⊕¹⁾、↑/↓/↔/↔¹⁾

↑/↓/↔/↔ を押してメニュー項目を選び、⊕を押して選択を決定します。

⑯ 画面表示¹⁾

表示窓に情報を表示します。

⑯ シャッフル¹⁾

一つのトラックやフォルダーをランダムに再生します。

リピート¹⁾

一つのトラックやフォルダーをくり返し再生します。

⑯ BS

BS デジタル放送に切り替えます。

⑯ 地デジ

地上デジタル放送に切り替えます。

⑯ PREVIEW (HDMI)

HDMI 入力端子に接続した機器の映像を PIP (小窓) 画面にプレビュー表示します。一度に最大 4 つまでのプレビュー画面が表示できます。

PIP (小窓) 画面に表示している HDMI 入力をリモコンで選択する事で入力切替ができます。↑/↓ をくり返し押して PIP (小窓) 画面を選び、⊕を押して選択を決定します。(この機能は、Silicon Image 社の InstaPrevue™ の技術を使用しています。)

ご注意

「Preview for HDMI」機能は、HDMI BD、DVD、GAME および VIDEO 入力に使えます。

ちょっと一言

- Preview for HDMI 機能は以下の場合、働きません。
 - HDMI 機器が接続されていない。
 - ある特定の HDMI 機器が、電源が入っていない状態で接続されている。
 - サポートしていない HDMI 信号が入力された。(VGA、480i、576i、4K、一部の 3D 信号、ビデオカメラからの信号など)
 - HDMI 入力以外の入力が選択されている。
 - 「Fast View」が「Off」に設定されている。
- HDMI のプレビュー機能の PIP (小窓) 画面は下記の場合、黒画になります。
 - サポートしていない HDMI 信号が入力された。(4K、一部の 3D 信号)

24 TV 入力切換¹⁾

入力信号（テレビ入力または映像入力）を選びます。

25 アンプ

本機の操作ができるようになります。

- 1) それぞれの機器を操作するときに使うボタンについて詳しくは、15ページの表を確認してください。
- 2) 5/JKL/VIDEO、DTB、ダイレクト選局/▶、サウンドフィールド+ボタンには、凸点（突起）が付いています。本機を操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

他のソニー製機器を操作するには

ボタン名	テレビ	ビデオ デッキ	DVD プレーヤー/ レコーダー	ブルーレイ ディスク	CD プレーヤー/ レコーダー
2 TV I/○	●				
3 数字ボタン クリア	●	●	●	●	●
7 ポップアップ/メニュー トップメニュー		●	●	●	
9 オプション	●		●	●	
10 ホーム	●	●	●	●	
11 I◀◀/▶▶I ◀◀/▶▶	●	●	●	●	●
▶▶、II、■	●	●	●	●	●
17 戻る ↲	●		●	●	
18 ↑/↓/◀/▶、⊕	●	●	●	●	
19 画面表示	●	●	●	●	●
20 シャッフル リピート			●	●	●
24 TV 入力切換	●				

はじめに

以下の手順にしたがって簡単に本機につないだオーディオ／映像機器を再生できます。

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。

**スピーカーを設置／接続する（18、20
ページ）**

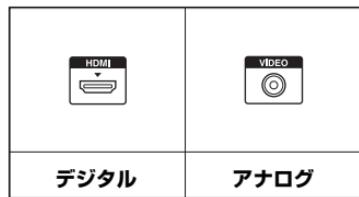


機器に合った接続を確認する

**テレビおよび映像機器を接続する
(22、23ページ)**

画質は接続する端子によって異なります。下の図を確認してください。お使いの機器の端子に応じて接続方法を選んでください。

お使いの映像機器に HDMI 端子がある場合は、HDMI 端子経由で接続することをおすすめします。



オーディオ機器を接続する（27 ページ）



本機の準備をする

「電源コードを接続する」（31 ページ）および「本機の電源を入れる」（31 ページ）をご覧ください。



本機を設置する

「Easy Setup（かんたん設定）を使って本機を設定する」（31 ページ）をご覧ください。



接続機器の音声出力を設定する

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、接続機器のデジタル音声の出力設定を確認してください。

ソニー製ブルーレイディスクレコーダーでは、「HDMI 音声出力」が「自動」、「ドルビーデジタル」が「ドルビーデジタル」、「DTS」が「DTS」に設定されていることを確認してください。（2013 年 6 月 1 日現在）。

PlayStation 3 の場合は、HDMI ケーブルで本機とつないでから、「サウンド設定」の「音声出力設定」を選び、「HDMI」および「自動」を選んでください（システムソフトウェア 4.21 の場合）。

詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書を参照してください。

本機が再生できるデジタル音声フォーマット

本機がデコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。本機は以下の音声フォーマットに対応しています。

音声フォーマット [表示]	最大チャンネル数	本機と再生機との接続	
		COAXIAL/ OPTICAL	HDMI
Dolby Digital [DOLBY D]	5.1	○	○
Dolby Digital EX [DOLBY D EX]	6.1	○	○
Dolby Digital Plus ^{a)} [DOLBY D +]	7.1	×	○
Dolby TrueHD ^{a)} [DOLBY HD]	7.1	×	○
DTS [DTS]	5.1	○	○
DTS-ES [DTS-ES]	6.1	○	○
DTS 96/24 [DTS 96/24]	5.1	○	○
DTS-HD High Resolution Audio ^{a)} [DTS-HD HR]	7.1	×	○
DTS-HD Master Audio ^{a)b)} [DTS-HD MA]	7.1	×	○
DSD ^{a)} [DSD]	5.1	×	○
MPEG-2 AAC (LC)	5.1	○	○
マルチチャンネルリニア PCM ^{a)} [PCM]	7.1	×	○

a)再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。

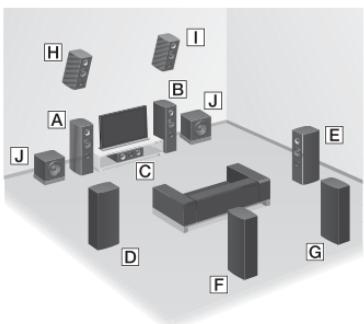
b)サンプリング周波数が 96 kHz より大きい信号は、96 kHz または 88.2 kHz で再生されます。

接続

1：スピーカーを設置する

本機では、最大 7.2 チャンネルのスピーカーシステム（スピーカー 7 本とアクティブサブウーファー 2 本）を構成できます。

スピーカーシステムの設置例



- A フロントスピーカー（左）
- B フロントスピーカー（右）
- C センタースピーカー
- D サラウンドスピーカー（左）
- E サラウンドスピーカー（右）
- F サラウンドバックスピーカー（左）*
- G サラウンドバックスピーカー（右）*
- H フロントハイスピーカー（左）*
- I フロントハイスピーカー（右）*
- J アクティブサブウーファー

* サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを同時に使用することはできません。

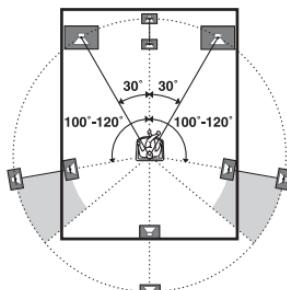
5.1 チャンネルスピーカーシステム

映画館のようなマルチチャンネルのサラウンド音声を充分に楽しむには、5 本のスピーカー（フロントスピーカー 2 本、センタースピーカー 1 本、サラウンドスピーカー 2 本）および 1 本のアクティブサブウーファーが必要です。

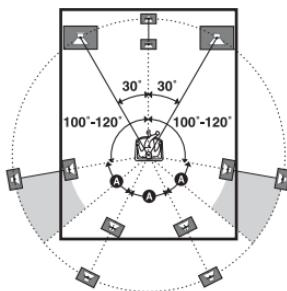
7.1 チャンネルスピーカーシステム（サラウンドバックスピーカー接続）

DVD やブルーレイディスクソフトウェアに記録された 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルフォーマットの音声を忠実に再現することができます。

- 6.1 チャンネルスピーカーの配置
サラウンドバックスピーカーを視聴位置の真後ろに配置します。



- 7.1 チャンネルスピーカーの配置
サラウンドバックスピーカーを下の図のように配置します。A の角度が等しくなるように配置します。

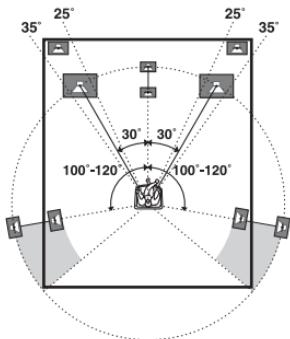


7.1 チャンネルスピーカーシステム(フロントハイスピーカー接続)

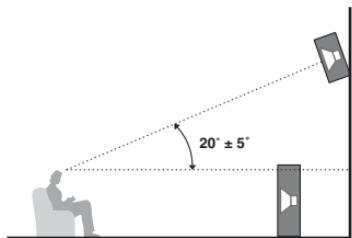
フロントハイスピーカーをさらに2本接続することで、垂直方向のサウンド効果を楽しむことができます。

以下の位置にフロントハイスピーカーを配置します。

–横間隔: $25^{\circ} \sim 35^{\circ}$



–高さ: $20^{\circ} \pm 5^{\circ}$

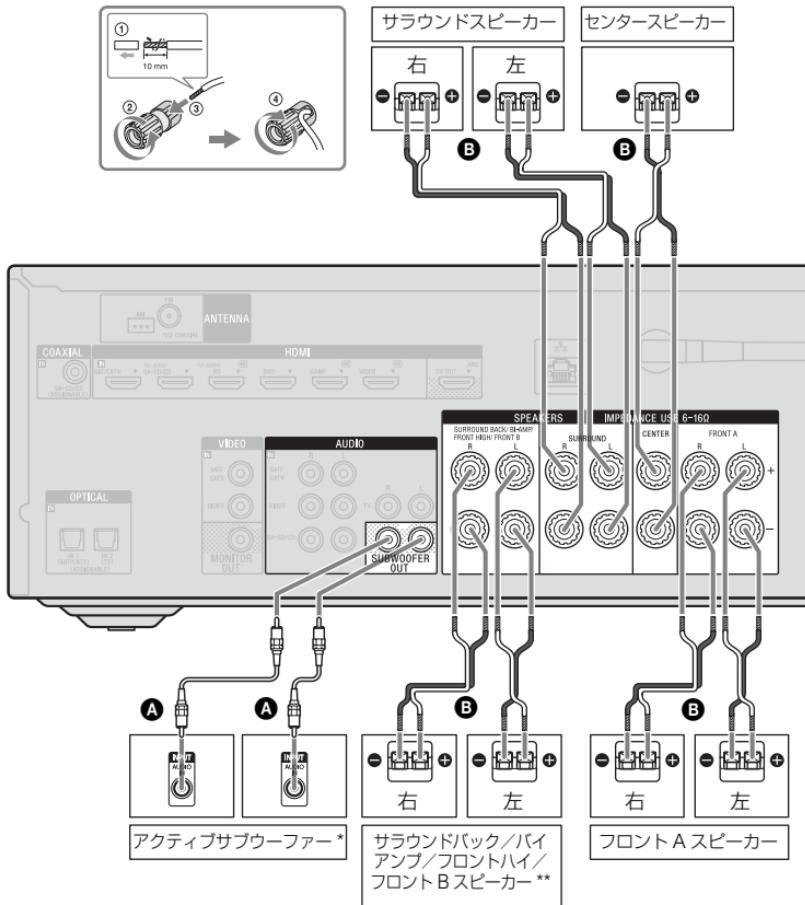


ちょっと一言

アクティブサブウーファーが発する信号には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

2：スピーカーを接続する

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。



- Ⓐ モノラル音声コード（別売）
 - Ⓑ スピーカーコード（別売）

* オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイ状態になり、音が出なくなることがあります。

** SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子接続についてご注意。

- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用するときは、この端子のL側につないでください。
- フロントスピーカーシステムを追加するときは、この端子につないでください。

Speaker Settings メニューで「SB Assign」を「Speaker B」に設定してください(89ページ)。本機の SPEAKERS ボタンで、ご希望のフロントスピーカーシステムを選べます(33ページ)。

- バイアンプ接続でこの端子にフロントスピーカーをつなぐことができます(21ページ)。

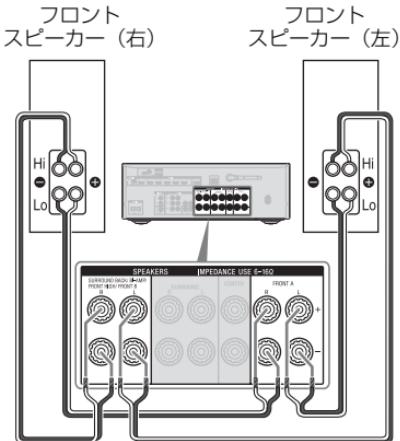
Speaker Settings メニューで「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定してください(89ページ)。

ご注意

スピーカーの設置および接続後は、必ず Speaker Settings メニューからスピーカーパターンを選んでください(86ページ)。

バイアンプ接続

サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを使用していない場合は、バイアンプ接続でフロントスピーカーを SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につなぐことができます。



フロントスピーカーの Lo (もしくは Hi) 側の端子を SPEAKERS FRONT A 端子につなぎ、フロントスピーカーの Hi (もしくは Lo) 側の端子を SPEAKERS SURROUND BACK/ BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につなぎます。

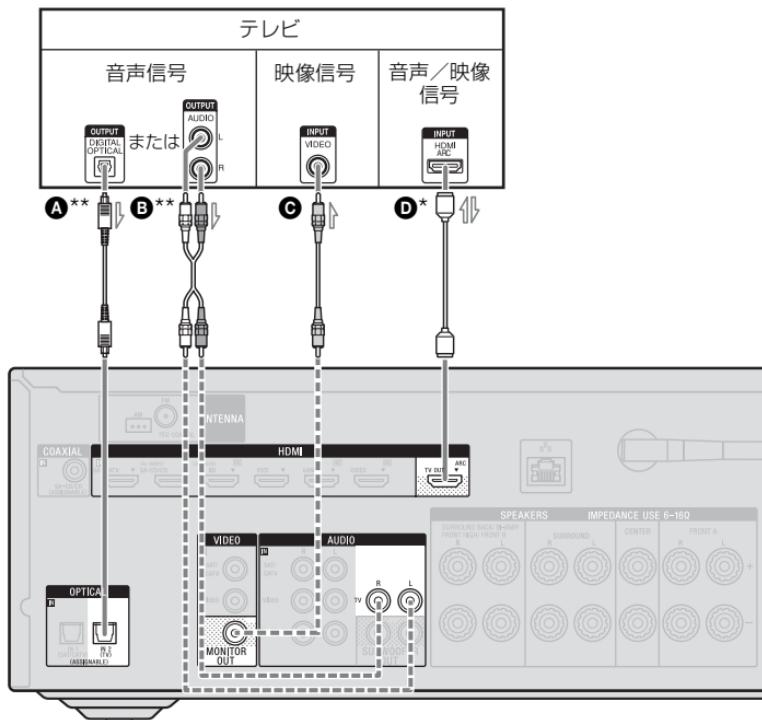
本機の故障を防ぐため、それぞれのスピーカーに付いている Hi/Lo のショート金具を必ずはずしてください。

バイアンプ接続を設定したら、 Speaker Settings メニューの「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定します(89ページ)。

3：テレビを接続する

HDMI TV OUT 端子や MONITOR OUT 端子をテレビにつなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます。HDMI TV OUT 端子をテレビにつなぐと、OSD（オンスクリーン表示）で本機を操作できます。

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。



Ⓐ 光デジタルコード（別売）

Ⓑ 音声コード（別売）

Ⓒ 映像コード（別売）

Ⓓ HDMI ケーブル（別売）

HDMI 認証ケーブルまたはソニー製
の HDMI ケーブルの使用をおすすめ
します。

—— 推奨接続

- - - 代替接続

本機からマルチチャンネルサラウンド音声でテレビ放送を楽しむには

- * お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応している場合は、❶をつないでください。
必ず HDMI Settings メニューで「Control for HDMI」を「On」に設定してください（76 ページ）。HDMI ケーブル以外のケーブル（光デジタルコードまたは音声コードなど）を使用して音声信号を選択する場合は、INPUT MODE で音声入力モードを切り換えてください（81 ページ）。
- ** お使いのテレビが ARC 機能に対応していない場合は、❶または❷をつないでください。

必ず事前にテレビの音量をオフにするか、または消音機能を有効にしてください。

ご注意

- テレビとアンテナの接続状態によっては、テレビ画面の映像が乱れることがあります。このような場合は、アンテナを本機からさらに離れたところに設置してください。
- 音デジタルコードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 音デジタルコードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、および 96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。
- テレビの音声出力端子を本機の TV IN 端子につないで、テレビの音声を本機につないだスピーカーから出力するときは、テレビの音声出力端子が「Fixed」または「Variable」で切り替え可能な場合は、テレビの音声出力端子を「Fixed」に設定してください。

テレビからの音声を聞くには

お使いのテレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMI Settings メニューで「HDMI Audio Out」を「TV+AMP」に設定してください（93 ページ）。

4a：映像機器を接続する

HDMI 接続を使用する

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。

ソニーの「ブラビアリンク」対応機器を HDMI ケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。「「ブラビアリンク」機能」（75 ページ）をご覧ください。

HDMI の特長

- HDMI で転送されたデジタル音声信号を本機につないだスピーカーから出力できます。この信号はドルビーデジタル、DTS、DSD、リニア PCM と AAC に対応しています。詳しくは、「本機が再生できるデジタル音声フォーマット」（17 ページ）をご覧ください。
- 本機は、HDMI 接続により、マルチチャンネルリニア PCM（最大 8 チャンネル）を 192 kHz 以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- 本機は High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD)、Deep Color、"x.v.Color" および 4K または 3D 伝送に対応しています。
- 3D 映像を楽しむには、3D に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクプレーヤー／レコーダー、PlayStation 3 など）と本機をハイスピード HDMI ケーブルでつなぎ、3D メガネを装着したうえで、3D 対応のコンテンツを再生してください。

- 4K (HDMI BD、GAME および VIDEO 入力) 映像を楽しむには、4K 対応したテレビおよび映像機器 (ブルーレイディスクプレーヤー / レコーダーなど) と本機をハイスピード HDMI ケーブルでつなぎ、4K 対応のコンテンツを再生してください。
- HDMI BD、DVD、GAME および VIDEO の入力をプレビュー PIP (小窓) 画面で見ることが可能です。

HDMI 接続についてのご注意

- テレビまたは映像機器によっては、4K または 3D の映像が表示されないことがあります。本機が対応している HDMI 映像フォーマットを確認してください (120 ページ)。
- 詳しくは、各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz および 96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

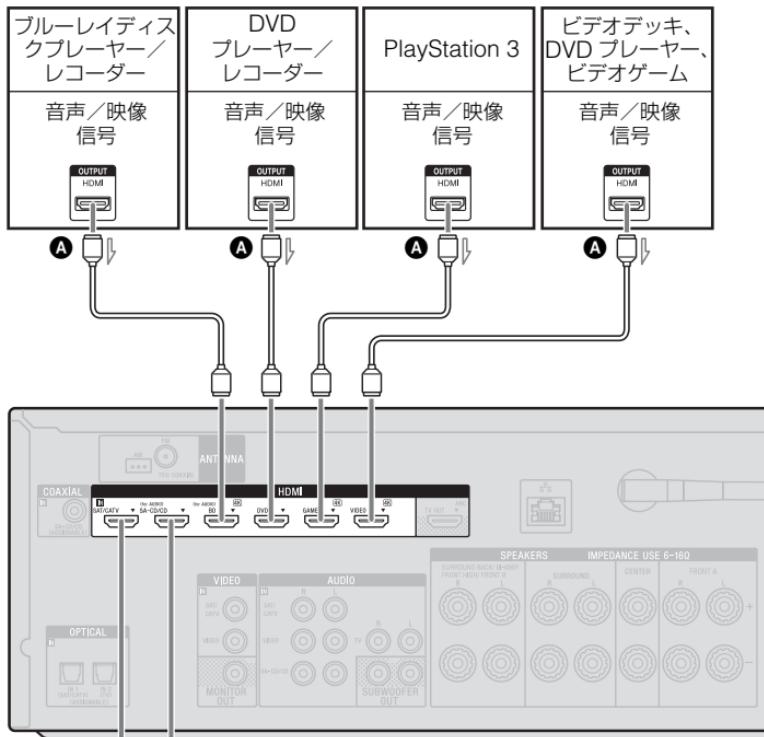
「他の音声入力端子を使う (Audio Input Assign)」(81 ページ) をご覧ください。

コード類を接続するときは

- 必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。
- すべてのコードをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。スタンダード HDMI ケーブルの場合、1080p、Deep Color、4K または 3D の映像が正しく表示できない場合があります。
- HDMI-DVI 変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI 変換ケーブルを DVI-D 機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声が正しく出力されない場合は、セパレート音声コードやデジタル接続コードをつなぎ、Input Settings メニュー (81 ページ) にある「Audio Input Assign」を設定してください。
- 光デジタルコードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルコードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

HDMI 端子で機器をつなぐ

お使いの機器に HDMI 端子がない場合は、26 ページを参照してください。

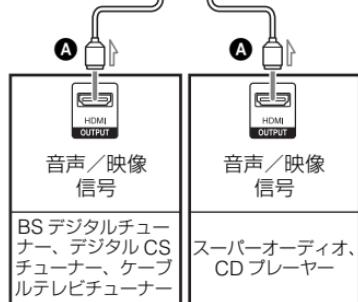


A HDMI ケーブル (別売)

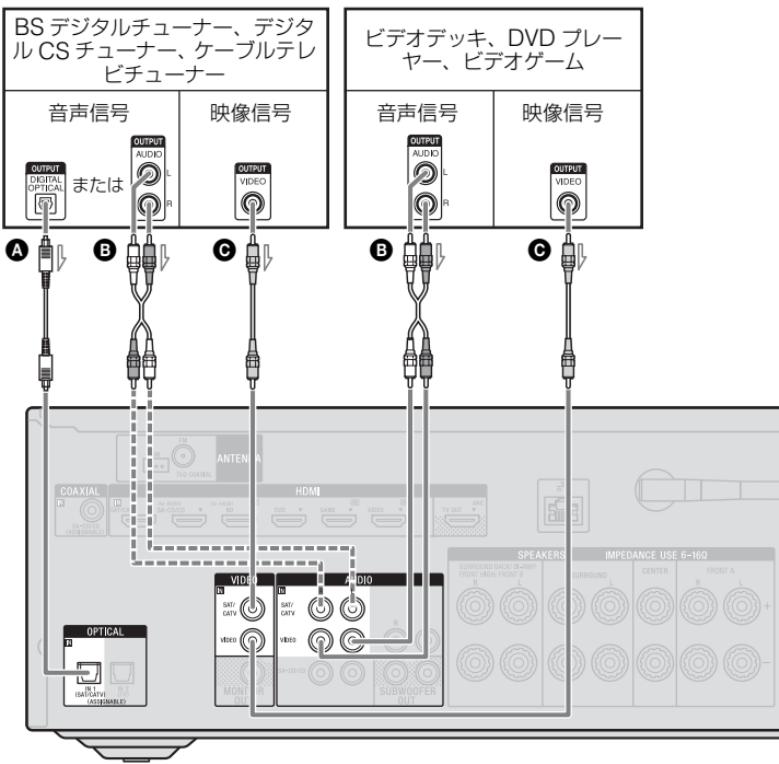
HDMI 認証ケーブルまたはソニー製の HDMI ケーブルの使用をおすすめします。

ご注意

- BD 入力でより良い音質を得られます。より高品質な音声を楽しむには、機器を BD (AUDIO 用) 端子につなぎ、入力に BD を選びます。
- 必ずリモコンの BD および DVD 入力切り換える用ボタンの初期設定を変更し、お使いのブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーをボタンで操作できるようにしてください。詳しくは、「入力切り換える用ボタンの割り当てを変更する」(102 ページ) をご覧ください。
- 本機の表示窓に表示できるように、BD または DVD 入力の名前を変えることもできます。詳しくは、Input Settings メニューの「Name In」をご覧ください (94 ページ)。



HDMI 端子以外の端子で機器をつなぐ



- Ⓐ 光デジタルコード（別売）
- Ⓑ 音声コード（別売）
- Ⓒ 映像コード（別売）

— 推奨接続
- - - - 代替接続

ご注意

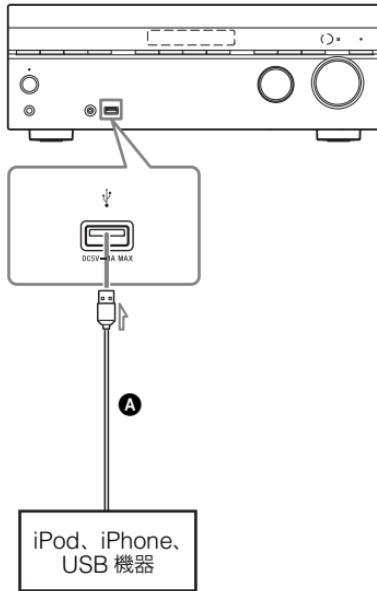
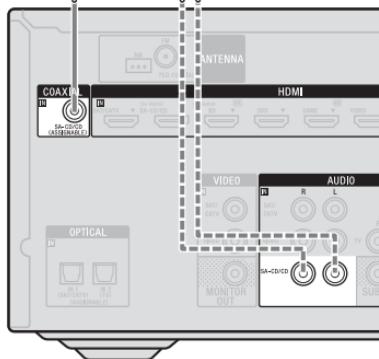
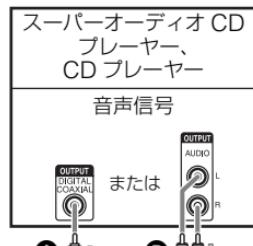
必ずリモコンの VIDEO 入力切り替え用ボタンの初期設定を変更し、お使いの DVD プレーヤーをボタンで操作できるようにしてください。詳しくは「入力切り替え用ボタンの割り当てを変更する」(102 ページ)をご覧ください。

4b：オーディオ機器を接続する

iPod、iPhone、USB 機器をつなぐ

スーパー・オーディオ CD プレーヤー、CD プレーヤーをつなぐ

必ず電源コードを抜いた状態で、コード類をつないでください。



Ⓐ USB ケーブル (別売)

Ⓐ 同軸デジタルコード (別売)

Ⓑ 音声コード (別売)

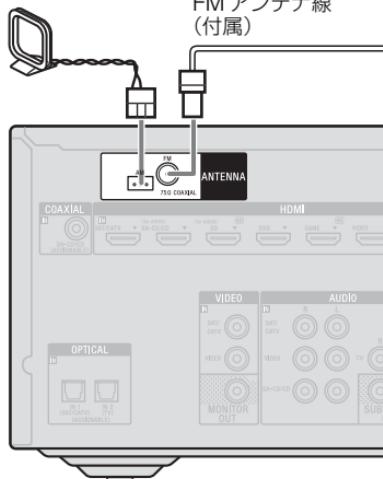
— 推奨接続

---- 代替接続

5：アンテナを接続する

必ず電源コードを抜いた状態で、アンテナをつないでください。

AM ループアンテナ
(付属)



FM アンテナ線
(付属)

ご注意

- ノイズが入らないよう、AM ループアンテナは本機および他の機器から離して設置してください。
- FM アンテナ線は必ず完全に伸ばしてください。
- FM アンテナ線を接続したら、できるだけ水平になるように設置してください。

6：ネットワークに接続する

インターネット接続環境がある場合は、本機もインターネットに接続することができます。無線または有線 LAN で接続できます。

必要なシステム構成

本機のネットワーク機能を使うには、以下のシステム環境が必要です。

ブロードバンド回線

Sony Entertainment Network (SEN) を楽しんだり、本機のソフトウェアアップデート機能を使ったりするためには、インターネットに接続できるブロードバンド回線が必要です。

モデム

ブロードバンド回線に接続し、インターネットで通信するための機器です。ルーターと一体型のモデムもあります。

ルーター

- ホームネットワーク上のコンテンツを楽しむためには、100 Mbps 以上の通信速度に対応したルーターを使ってください。
- DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバー内蔵のルーターの使用をおすすめします。この機能は、LAN 上の IP アドレスを自動的に割り当てます。
- 無線 LAN 接続をする場合は、無線 LAN ルーター、アクセスポイントを使ってください。

LAN ケーブル (CAT5) (有線 LAN 接続のみ)

- 有線 LAN には、カテゴリー 5 準拠のケーブルをおすすめします。フラットタイプの LAN ケーブルにはノイズの影響を受けやすいものがあります。ノーマルタイプの LAN ケーブルをおすすめします。
- 電気機器からの電源ノイズのある環境やノイズの多いネットワーク環境で本機をお使いの場合は、シールドタイプの LAN ケーブルをお使いください。

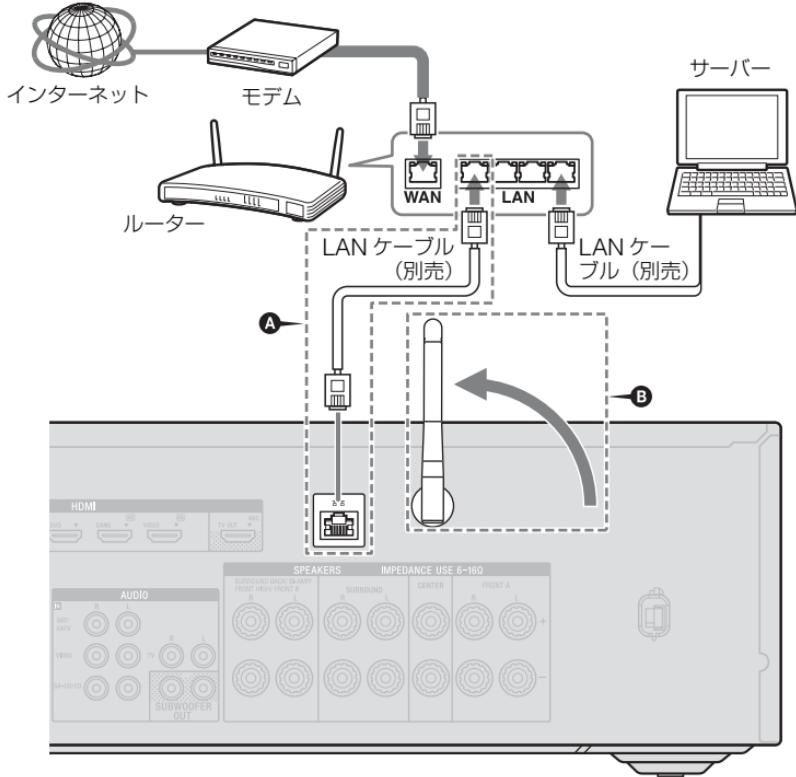
サーバー

サーバーとは、ホームネットワーク上の DLNA 機器へコンテンツ（音楽、写真、映像）を送信する機器です。サーバーとして使用する機器（パソコンなど）は、ホームネットワーク上の無線 LAN または有線 LAN につながっている必要があります*。

* 本機に対応しているサーバーについて詳しくは、55 ページをご覧ください。

構成例

下の図は、レシーバーとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。



- Ⓐ 有線 LAN 接続の場合のみ。
- Ⓑ 無線 LAN 接続の場合のみ。
必ず無線 LAN ルーター、アクセスポイントを使ってください。

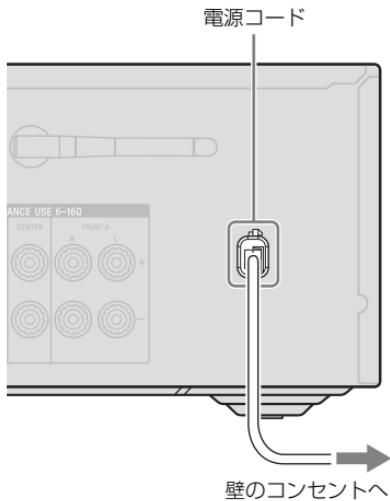
ご注意

無線接続の場合は、サーバー上の音声再生
が時折途切れることができます。

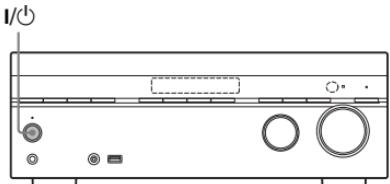
本機の準備をする

電源コードを接続する

電源コードを壁のコンセントにつなぎます。



本機の電源を入れる



I/待（電源オン／スタンバイ）を押して本機の電源を入れる。

リモコンの I/待で本機の電源を入れることもできます。本機の電源を切るときは、もう一度 I/待を押します。表示窓上の「STANDBY」が点滅します。「STANDBY」が点滅しているときは、電源コードを抜かないでください。故障の原因となります。

Easy Setup（かんたん設定）を使って本機を設定する

テレビ画面の指示にしたがって本機を操作することで、簡単に本機の基本設定ができます。

テレビの入力を本機がつながれている入力に切り替えます。

初めて本機の電源を入れるとき、または本機を初期化したあとにお使いになるときは、テレビ画面に Easy Setup（かんたん設定）画面が表示されます。画面の指示にしたがって、本機を設定します。

Easy Setup（かんたん設定）では以下の機能を設定できます。

- Language
- Speaker Settings
- Network Settings

Speaker Settingsについてご注意（自動音場補正）

本機には、DCAC（デジタルシネマ自動音場補正）機能が搭載されているため、以下のような自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーと本機の接続の確認
- スピーカーレベルの調整
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定¹⁾
- スピーカーサイズの測定¹⁾
- 周波数特性の測定（EQ）¹⁾
- 周波数特性の測定（フェーズ）^{1,2)}

- 1) 「Analog Direct」が選ばれているときは、測定結果は使用できません。
- 2) 48 kHz より大きいサンプリング周波数の Dolby TrueHD または DTS-HD 信号が受信されているときは、測定結果は使用できません。

DCAC は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。スピーカーのレベルはお好みに合わせて手動で調節できます。詳しくは、「Test Tone」(91 ページ) をご覧ください。

自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に以下の項目を実行してください。

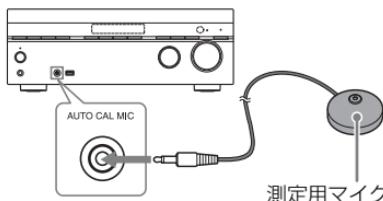
- スピーカーを設定および接続する (18、20 ページ)。
- AUTO CAL MIC 端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には上記以外のマイクをつなぐないでください。
- バイアンプ接続をしている場合は、Speaker Settings メニューで「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定する (89 ページ)。
- フロント B 接続のスピーカーを使用している場合は、Speaker Settings メニューで「SB Assign」を「Speaker B」に設定する (89 ページ)。
- スピーカー出力が「SPK OFF」に設定されていないことを確認してください (33 ページ)。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間に障害物を取り除く。
- 測定を正確に行うために、必ず静かな場所で測定する。

ご注意

- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲の子供に充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。

- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

自動音場補正を設定するには

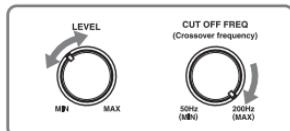


測定用マイク

- 1 AUTO CAL MIC 端子に付属の測定用マイクをつなぐ。
- 2 測定用マイクを設定する。
視聴位置に測定用マイクを設置して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

アクティブサブウーファーの設定を確認する

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、事前に電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、LEVEL を中間よりや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能があるアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、最大に設定してください。
- オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをつなぐ場合は、オートスタンバイ機能をオフ(無効)にしてください。



ご注意

お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

サラウンドバックスピーカーを設定するには

SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につながれたスピーカーの用途を、使用目的に応じて切り換えることができます。

ご注意

この設定は、サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーのない「Speaker Pattern」に設定している場合のみ有効です（88 ページ）。

1 ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「Settings」を選び、 \oplus を押す。

3 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「Speaker Settings」を選び、 \oplus を押す。

4 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「SB Assign」を選び、 \oplus を押す。

5 設定したいスピーカーを選んで、 \oplus を押す。

- Speaker B : SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子にフロントスピーカースистемを追加する場合は、「Speaker B」を選んでください。

- Bi-Amp: バイアンプ接続で SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子にフロントスピーカーをつなぐ場合は、「Bi-Amp」を選んでください。

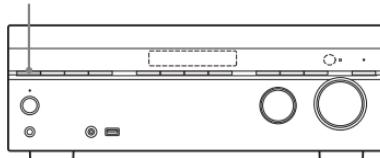
- Off : SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子にサラウンドバックスピーカーもしくはフロントハイスピーカーをつなぐ場合は、「Off」を選んでください。

フロントスピーカーを選ぶには

使用するフロントスピーカーを選びます。

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

SPEAKERS



SPEAKERS をくり返し押して、使用したいフロントスピーカーシステムを選ぶ。

選んだスピーカー端子を表示窓の表示で確認できます。

表示	選んだスピーカー
SP A	SPEAKERS FRONT A 端子につないだスピーカー
SP B*	SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につないだスピーカー
SP A+B*	SPEAKERS FRONT A と SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子の両方につないだスピーカー（パラレル接続）

表示窓に「SPK OFF」が表示されます。
どのスピーカー端子からも音声信号が出力されません。

*「SP B」または「SP A+B」を選ぶには、Speaker Settings メニューで「SB Assign」を「Speaker B」に設定してください（89 ページ）。

ご注意

ヘッドホンがつながっていると、この設定はできません。

自動音場補正を中止するには

- 測定中に以下の操作を行うと自動音場補正機能がキャンセルされます。
- I/O を押す。
 - リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本機の INPUT SELECTOR つまみを回す。
 - 消音を押す。
 - 本機の SPEAKERS を押す。
 - 音量を調節する。
 - ヘッドホンをつなぐ。

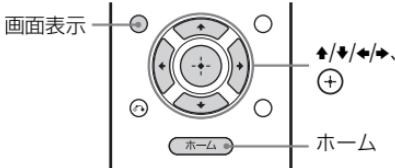
本機を手動で設定するには

「設定を調節する」(84 ページ) をご覧ください。

本機のネットワーク設定を行う

ホームネットワーク、SEN および AirPlay 設定を使うには、本機のネットワーク設定を正しく行う必要があります。

有線 LAN 接続を使う



1 ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 $\text{↑}/\text{↓}$ をくり返し押して「Settings」を選び、 + を押す。

3 $\text{↑}/\text{↓}$ をくり返し押して「Network Settings」を選び、 + を押す。

4 $\text{↑}/\text{↓}$ をくり返し押して「Internet Settings」を選び、 + を押す。

5 $\text{↑}/\text{↓}$ をくり返し押して、「Wired Setup」を選び、 + を押す。

テレビ画面に「Change Settings?」が表示された場合は、「OK」を選んでから、 + を押す。

6 $\text{↑}/\text{↓}$ をくり返し押して「Auto」を選び、 + を押す。

IP 設定情報がテレビ画面に表示されます。

固定 IP アドレスを使用するときは

「Custom」を選んで、 + を押す。テレビ画面に IP Address Setting が表示されます。

+ を押す。 $\text{↑}/\text{↓}$ をくり返し押して、「IP Address」の値を選ぶ。 \blacktriangleright を押して、次の位置の値を入力する。 + を押して、カーソルを抜ける。

次に、「Subnet Mask」と「Default Gateway」の値を入力する。 \blacktriangleright を押して DNS Settings ページへ移動する。そして、「Primary DNS」と「Secondary DNS」の値を入力する。

7 \blacktriangleright を押す。

テレビ画面に「Connecting to the Internet」が表示されます。ネットワーク設定が完了すると、「Network setup is completed」が表示されます。Network Settings メニューに戻るには、 + を押します。(ネットワーク環境によっては、ネットワーク設定に時間がかかることがあります。)

8 サーバー設定を行う。

サーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、サーバーの設定をする必要があります (55 ページ)。

ちょっと一言

ネットワーク設定を確認するときは、「Information」(94 ページ) をご覧ください。

無線 LAN 接続を使う

無線ネットワークの設定には、いくつかの接続方法があります。アクセスポイントを検索して接続、WPS 接続（プッシュボタン式または PIN コード式）、または手動設定で接続します。

ご注意

- ペースメーカーなどの医療機器が使用されている場所や、無線通信が禁止されている場所では、無線 LAN 機能を絶対に使用しないでください。
- ホームネットワークに接続する前に、無線 LAN ルーター、アクセスポイントの準備が必要です。詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。
- ホームネットワークの環境によっては、無線 LAN ルーター、アクセスポイントが、WPS 対応であっても WPS を使って接続できないように設定されていることがあります。無線 LAN ルーター、アクセスポイントが WPS に対応しているか否かについて、および WPS 接続の設定について詳しくは、無線 LAN ルーター、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
- 本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを離れた場所に設置すると、設定が難しい場合があります。うまく設定できない場合は、本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて設置してください。

アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する（アクセスポイントスキャン方式）

アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定できます。この接続方法でネットワークを設定するには、次の情報を選択して入力する必要があります。次の情報をあらかじめ確認し、下の余白に書きとめてください。

- **ネットワークを特定するネットワーク名 (SSID*) ** (手順 7 で必要です。)**

- **無線ホームネットワークが暗号化によって保護されている場合は、ネットワークのセキュリティーキー (WEP キー、WPA/WPA2 キー) ** (手順 8 で必要です。)**

* SSID (Service Set Identifier) は、アクセスポイントを特定化するための名前です。

** この情報は、無線 LAN ルーター、アクセスポイントのラベル、取扱説明書、無線ネットワークの設定者、またはインターネットサービスプロバイダーから提供された資料から得てください。

1 「有線 LAN 接続を使う」(34 ページ) の手順 5 で「Wireless Setup」を選択する。

テレビ画面に「Change Settings?」が表示された場合は、「OK」を選んでから、④を押す。

2 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「Access Point Scan」を選び、④を押す。

本機がアクセスポイントの検索を始めて、最大 30 の利用可能なネットワーク名 (SSID) のリストを表示します。

3 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、ネットワーク名 (SSID) を選び、④を押す。

テレビ画面にセキュリティ設定画面が表示されます。

4 セキュリティキー (WEP キー、WPA/WPA2 キー) を入力して、④を押す。

お買い上げ時は、セキュリティキーは「*****」と表示されます。画面表示をくり返し押して、セキュリティキーを伏字にしたり表示したりできます。

テレビ画面に「IP Settings」が表示されます。

5 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「Auto」を選び、 \oplus を押す。

固定 IP アドレスを使用するときは
「Custom」を選んで、 \oplus を押す。
テレビ画面に IP Address Setting が表示されます。
 \oplus を押す。 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「IP Address」の値を選ぶ。
 \blacktriangleright を押して、次の位置の値を入力する。 \oplus を押して、カーソルを抜ける。

次に、「Subnet Mask」と「Default Gateway」の値を入力します。 \blacktriangleright を押して DNS Settings ページへ移動する。そして、「Primary DNS」と「Secondary DNS」の値を入力する。

6 \blacktriangleright を押す。

テレビ画面に「Connecting to the internet」が表示されます。ネットワーク設定が完了すると「Network setup is completed」が表示され、表示窓に「」が点灯します。Network Settings メニューに戻るには、 \oplus を押します。

(ネットワーク環境によっては、ネットワーク設定に時間がかかることがあります。)

7 サーバー設定を行う。

サーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、サーバーの設定をする必要があります(55ページ)。

ご注意

お使いのネットワークが暗号化によって(セキュリティキーで)保護されていない場合は、手順8でセキュリティ設定画面は表示されません。

ちょっと一言

ネットワーク設定を確認するときは、「Information」(94ページ)をご覧ください。

WPS 対応のアクセスポイントを使って無線ネットワークを設定する

WPS 対応のアクセスポイントを使って、無線ネットワークを簡単に設定できます。WPS 設定は、プッシュボタン式、PIN (Personal Identification Number) コード式のどちらを使っても設定できます。

WPS (Wi-Fi Protected Setup) とは？

WPS とは Wi-Fi Alliance によって策定された規格で、WPS によって無線ネットワークを簡単且つ安全に設定できます。

プッシュボタン式の WPS を使って無線ネットワークを設定する

指定のボタンをワンプッシュするだけで、WPS 無線接続を簡単に設定できます。

1 「アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する(アクセスポイントスキヤン方式)」(35ページ)の手順2で「WPS Push」を選択する。

2 画面の指示にしたがって、アクセスポイントの WPS ボタンを押す。

メッセージ：Push WPS button on access point within 2 minutes



ネットワーク設定が完了すると「Setup with WPS Push Button is completed」が表示され、表示窓に「」が点灯します。Network Settings メニューに戻るには、 \oplus を押します。

(ネットワーク環境によっては、ネットワーク設定に時間がかかることがあります。)

3 サーバー設定を行う。

サーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、サーバーの設定をする必要があります (55 ページ)。

ちょっと一言

ネットワーク設定を確認するときは、「Information」(94 ページ) をご覧ください。

PIN コード式の WPS を使って無線ネットワークを設定する

アクセスポイントが WPS PIN (Personal Identification Number) コード接続に対応している場合は、無線 LAN ルーター、アクセスポイントに本機の PIN コードを入力して、WPS 無線接続を設定できます。

1 「アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する (アクセスポイントスキャン方式)」(35 ページ) の手順 2 で「Manual Registration」を選択する。

2 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「WPS PIN」を選び、 \oplus を押す。

利用可能な SSID (アクセスポイント) リストが表示されます。

3 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、ネットワーク名 (SSID) を選び、 \oplus を押す。本機の 8 衔の PIN コードがテレビ画面に表示されます。接続が完了するまで、PIN コードは表示したままにしてください。(この操作を行ったびに、別の PIN コードが表示されます。)

4 無線 LAN ルーター、アクセスポイントに本機の PIN コードを入力する。

本機がネットワーク設定を始めます。ネットワーク設定が完了すると、「Completed」が表示され、表示窓に「」が点灯します。Network Settings メニューに戻るには、 \oplus を押します。(ネットワーク環境によっては、ネットワーク設定に時間がかかることがあります。)

5 サーバー設定を行う。

サーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、サーバーの設定をする必要があります (55 ページ)。

ちょっと一言

- ネットワーク設定を確認するときは、「Information」(94 ページ) をご覧ください。
- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントへの PIN コードの入力について詳しくは、無線 LAN ルーター、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク名 (SSID) が見つからないときは (手動設定)

リスト上に設定したいネットワーク名が表示されないときは、ネットワーク名 (SSID) を手動で入力できます。

1 「アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する (アクセスポイントスキャン方式)」(35 ページ) の手順 2 で「Manual Registration」を選択する。

2 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、「Direct Input」を選び、 \oplus を押す。

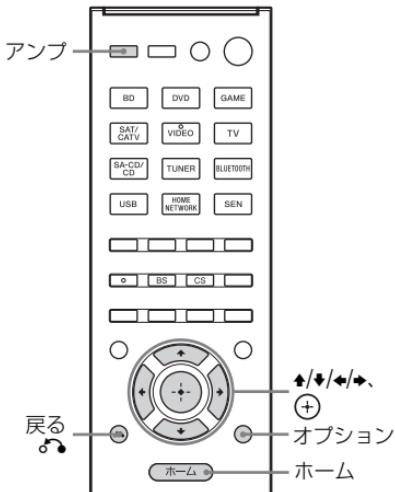
3 ネットワーク名 (SSID) を入力して、 \oplus を押す。

4 \uparrow/\downarrow をくり返し押して、セキュリティ設定を選び、 \oplus を押す。

5 「アクセスポイントを検索して無線ネットワークを設定する (アクセスポイントスキャン方式)」(35 ページ) の手順 4 から 7 にしたがって操作する。

オンスクリーン表示 (OSD) の操作方法

テレビ画面に本機のメニューを表示して、リモコンの $\uparrow/\downarrow/\leftarrow/\rightarrow$ および \oplus を押して、テレビ画面上で使いたい機能を選ぶことができます。
本機を操作をするときは、あらかじめリモコンのアンプを押してください。
本機を操作できないことがあります。



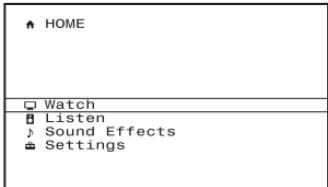
メニューを使う

1 テレビの入力を本機がつながっている入力に切り替えます。

2 アンプを押してから、ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



3 \uparrow/\downarrow をくり返し押してお好みのメニューを選び、 \oplus で決定する。

テレビ画面にメニュー項目リストが表示されます。

例：「Watch」を選んだ場合



4 \uparrow/\downarrow をくり返し押して調整したいメニュー項目を選び、 \oplus で決定する。

ちょっと一言

OSDの右下に「OPTIONS」が表示されているときは、オプションを押して機能リストを表示させて、関連した機能を選べます。

前の画面に戻るには

戻る  を押す。

メニューを閉じるには

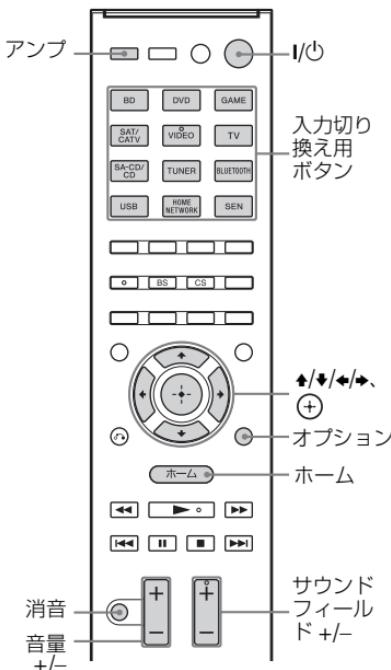
ホームを押してホームメニューを表示させて、もう一度ホームを押す。

ホームメニュー一覧

メニュー アイコン	説明
Watch	本機に入力されている映像ソースを選びます (39 ページ)。
Listen	SA-CD/CD、USB 機器、Bluetooth 機器、ホームネットワークまたは SEN から音楽を選びます (39 ページ)。内蔵チューナーの FM/AM ラジオも楽しめます。
Sound Effects	ソニー独自のさまざまな音響技術や機能を楽しめます (49 ページ)。
Settings	本機の設定を調節します (84 ページ)。

基本操作

入力ソース機器を再生する



脚本編集

1 テレビの入力を本機がつながっている入力に切り替えます。

2 アンプを押してから、ホームを押す。テレビ画面にホームメニューが表示されます。

テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

3 「Watch」または「Listen」を選んで、を押す。

テレビ画面にメニュー項目リストが表示されます。

- 4 使用する機器を選んで、⊕を押す。**
- 5 機器の電源を入れて再生を開始する。**
- 6 音量 +/- を押して、音量を調節する。**
本体の MASTER VOLUME つまみでも操作できます。
- 7 サラウンド音声を楽しむ場合は、
サウンドフィールド +/- を押す。**
本体の A.F.D./2CH、MOVIE または MUSIC でも操作できます。
詳しくは、49 ページをご覧ください。

ちょっと一言

- 本機の INPUT SELECTOR つまみを回して、またはリモコンの入力切り替え用ボタンを押して、お好みの機器を選べます。
- 本体の MASTER VOLUME つまみまたはリモコンの音量 +/- ボタンを使うと、音声の調整速度や調節量を変えられます。
音量を素早く上げ／下げするには
 - 本体の MASTER VOLUME つまみを速く回す。
 - リモコンの音量 +/- を長押しする。音量を微調整するには
 - 本体の MASTER VOLUME つまみをゆっくり回す。
 - リモコンの音量 +/- を短く押す。

音を一時的に消すには

消音を押す。

以下の操作を行うと、消音機能が解除されます。

- 消音をもう一度押す。
- 音量を変える。
- 本機の電源を切る。
- 自動音場補正を実行する。

スピーカーの破損を防ぐために

本機の電源を切る前に音量を下げておいてください。

iPod/iPhone を再生する

本機の専用（USB）ポートにつないで、iPod/iPhone の音楽コンテンツを楽しめます。

iPod/iPhone の接続に関して詳しくは、27 ページをご覧ください。

対応 iPod/iPhone モデル

本機が対応している iPod/iPhone モデルは下記のとおりです。本機につないで使用する前に iPod/iPhone を最新のソフトウェアにアップデートしてください。



iPod touch
第四世代



iPod touch
第三世代



iPod touch
第二世代



iPod nano
第六世代



iPod nano
第五世代
(ビデオカメラ)



iPod nano
第四世代
(ビデオ)



iPod nano
第三世代
(ビデオ)



iPod classic



iPhone 4S



iPhone 4



iPhone 3GS



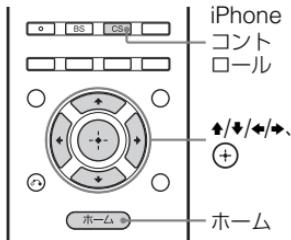
iPhone 3G

ご注意

- 本機につないだ iPod/iPhone を使用中に、iPod/iPhone に保存されたデータが消失、破損しても、弊社では一切の責任を負いません。
- 本製品は iPod/iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定されています。

iPod/iPhone 操作モードを選ぶ

リモコンの iPhone コントロールを使って iPod/iPhone 操作モードを選べます。テレビ画面の電源が切れているときは、表示窓の表示を見ながらすべての操作を行うこともできます。



1 ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

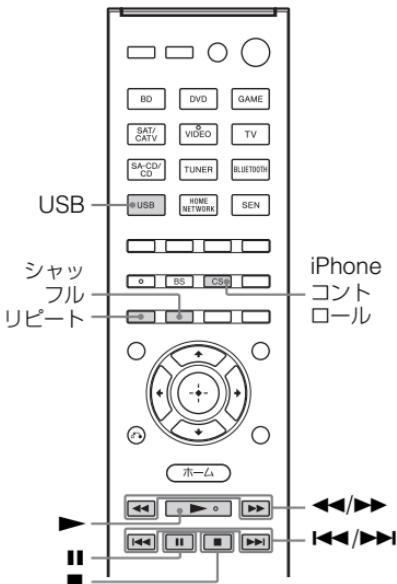
2 「Listen」を選んで、+を押す。

3 「USB」を選んで、+を押す。

iPod または iPhone がつながっているときは、テレビ画面に「iPod/iPhone」が表示されます。

4 画面の指示にしたがって、iPod/iPhone 操作モードを選択します。

リモコンを使って iPod/iPhone を操作するには



USB を押してから、下記のボタンをお使いください。

押すボタン 動作

▶ 再生開始

II、■ 一時停止

◀/▶ 早戻し／早送り

◀/▶ 前／次のトラックへ移動

リピート リピートモードに入る

シャッフル シャッフルモードに入る

iPhone コントロール iPod/iPhone 操作モードを選択

iPod/iPhoneについてご注意

- 本機の電源が入っているときに、iPod/iPhone を本機につなぐと充電されます。
- 本機から iPod/iPhone へ楽曲を転送することはできません。
- 操作中に iPod/iPhone を取りはずさないでください。データ破損や iPod/iPhone の破損を防ぐため、iPod/iPhone を取り付けるときや取りはずすときは、本機の電源を切ってください。

iPod/iPhone メッセージ一覧

メッセージと説明

Reading

本機は、iPod または iPhone の情報を認識して読み込んでいます。

Not supported

本機が対応していない iPod または iPhone がつながっています。

No device is connected

iPod または iPhone がつながれていません。

No Track

楽曲が見つかりませんでした。

Headphones not supported

iPod または iPhone がつながっているときは、ヘッドホンから音が出力されません。

USB 機器を再生する

本機の \downarrow (USB) ポートにつないで、USB 機器の音楽コンテンツを楽しめます。

USB 機器の接続に関して詳しくは、「iPod、iPhone、USB 機器をつなぐ」(27 ページ) をご覧ください。本機で再生できる音楽ファイルフォーマットは下記のとおりです。

ファイル フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	".mp3"
AAC*	".m4a"、".3gp"、 ".mp4"
WMA9 Standard*	".wma"
WAV	".wav"
FLAC	".flac"

* DRM でエンコードされたファイルは本機で再生できません。

対応 USB 機器

本機が対応しているソニー USB 機器は下記のとおりです。

動作検証済みのソニー USB 機器

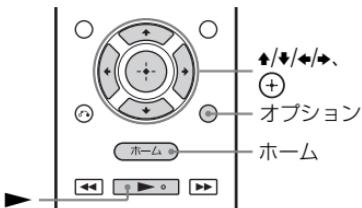
製品名	型名
Walkman [®]	NW-A856 / A866 NW-E053 / E062 NW-F806 NW-S756 / S766 / S775 NW-Z1060 NWD-W253 / W263 / W273
POCKETBIT TM	USM8GJ USM1GL / 4GL / 8GL / 32GL USM16GLX / 32GLX / 64GLX USM4GN / 8GN / 32GN USM4GM USM64GP USM8GQ / 32GQ / 64GQ USM8GR / 16GR / 32GR

製品名	型名
	USM8GT
	USM16GU
	USM512J
デジタルボイスレコーダー	ICD-AX412F
	ICD-PX312F / PX333F
	ICD-SX713 / SX1000
	ICD-TX50
	ICD-UX502 / UX512 / UX513F / UX522F / UX523F / UX532 / UX533F
	ICZ-R50 / R51

ご注意

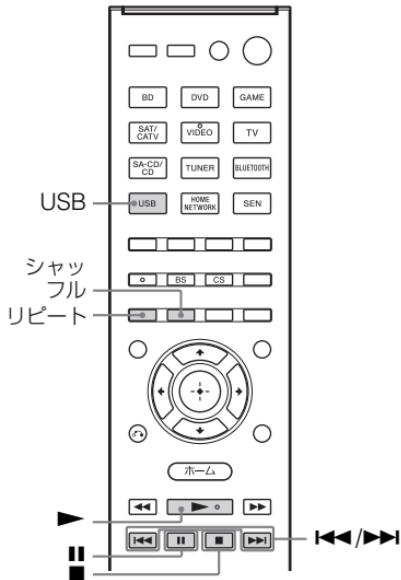
- 本機とつないでも動かないUSB機器もあります。
- 本機では、NTFSフォーマットのデータを読み取ることはできません。
- 本機では、ハードディスクドライブの一番目以外のパーティションに保存されたデータを読み取れません。
- ここにリストアップされていない機種の動作は保証しません。
- ここにリストアップされているUSB機器のすべての動作を保証するものではありません。
- USB機器によっては、一部の地域では入手できない場合があります。
- リストアップされている機種をフォーマットするときは、その機器自体でフォーマットするか、もしくは機種専用のフォーマット用ソフトウェアを使ってフォーマットしてください。
- USB機器の「Creating Library」または「Creating Database」の表示が消えたことを確認してから、USB機器を本機につないでください。

USB機器を操作する



- 1 ホームを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 「Listen」を選んで、⊕を押す。
- 3 「USB」を選んで、⊕を押す。
USB機器がつながれているときは、テレビ画面に「USB」が表示されます。
本機のリモコンを使ってUSB機器を操作できます。
- 4 コンテンツリストからお好みのコンテンツを選び、⊕を押す。
選んだコンテンツの再生が始まり、テレビ画面に音楽／映像コンテンツの情報が表示されます。

リモコンを使って USB 機器を操作するには



USB を押してから、下記のボタンをお使いください。

押すボタン 動作

▶	再生開始
⏸	一時停止
■	再生停止
◀◀/▶▶	前／次のファイルへ移動
リピート	リピートモードに入る
シャッフル	シャッフルモードに入る

USB 機器についてご注意

- 操作中に USB 機器を取りはずさないでください。データ破損や USB 機器の破損を防ぐため、USB 機器を取り付けるときや取りはずすときは、本機の電源を切ってください。
- 本機と USB 機器を USB ハブを介してつながないでください。
- USB 機器がつながれているときは、「Reading」が表示されます。
- つないだ USB 機器の種類によっては、「Reading」が表示されるまでに 10 秒ほどかかることがあります。
- USB 機器がつながれているときは、本機は USB 機器のファイルすべてを読み込みます。USB 機器にたくさんのフォルダーやファイルが保存されていると、USB 機器を読み込むのに時間がかかることがあります。
- 本機が認識できるデータ量は下記のとおりです。
 - 256 フォルダー（「ROOT」フォルダーを含む）
 - 各フォルダー 256 音声ファイル
 - 8 フォルダー階層（ツリー構造ファイル、「ROOT」フォルダーを含む）
- 最大音声ファイル数および最大フォルダーナンバーは、ファイルやフォルダーコンストラクションによって異なります。
- USB 機器に別の種類のファイルや不要なフォルダーを保存しないでください。
- あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性は保証しません。互換性のない USB 機器を使うと、騒音の原因となったり、音が途切れたり、あるいはまったく再生できないこともあります。
- 下記のような場合は、再生開始までに時間がかかることがあります。
 - フォルダーコンストラクションが複雑な場合
 - メモリー容量を超えている場合
- つないだ USB 機器のすべての機能に、本機が対応している必要はありません。
- 本機への再生順は、つないだ USB 機器の再生順とは異なることがあります。
- 音声ファイルのないフォルダーはスキップされます。
- 非常に長いトラックを再生しているときは、一部の操作が再生を遅らせる原因となることがあります。

USB メッセージ一覧

メッセージと説明

Reading

本機は、USB 機器の情報を認識して読み込んでいます。

Device error

USB 機器のメモリーが認識できませんでした (43 ページ)。

Not supported

対応していない USB 機器がつながれています、未確認の機器がつながれている、もしくは USB 機器が USB ハブを介してつながれています (43 ページ)。

No device is connected

USB 機器がつながれていません、もしくはつながれた USB 機器が認識されていません。

No Track

トラックが見つかりませんでした。

Cannot play

対応していない音声ファイルまたは再生制限のある音声ファイルのため、本機で再生できません。

Cannot get info

本機は音声ファイルの情報を取り出すことができません。

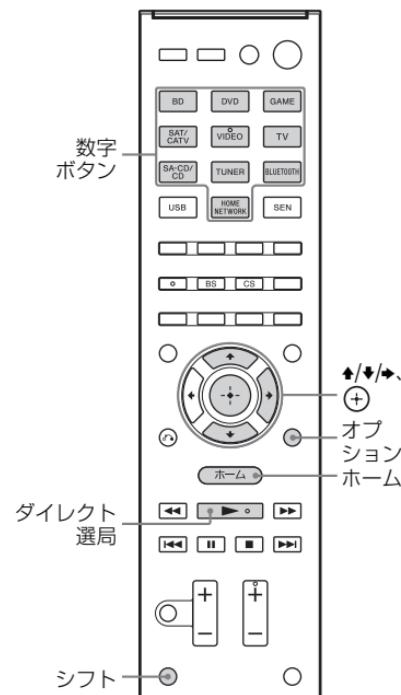
Not in use

禁止されている操作が行われています。

チューナーの操作

FM/AM ラジオを聞く

内蔵チューナーをとおして FM および AM 放送を聞くことができます。必ず事前に FM および AM アンテナを本機につないでください (28 ページ)。



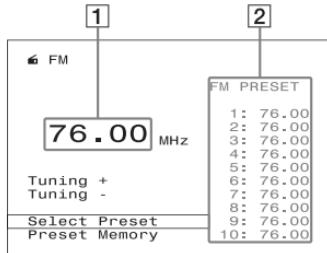
1 ホームメニューから「Listen」を選んで、+を押す。

2 メニューから「FM」または「AM」を選んで、+を押す。

テレビ画面に FM または AM メニュー項目リストが表示されます。

FM/AM 画面

↑/↓/↔/➡ と + を押して、それぞれの項目を画面上で選んで操作できます。



- 1 周波数表示 (47 ページ)
2 プリセット局一覧 (48 ページ)

自動で受信する (自動選局)

「Tuning +」または「Tuning -」を選んで、+ を押す。

低い周波数から高い周波数の局へ順にスキャンするときは「Tuning +」を選び、高い周波数から低い周波数の局へ順にスキャンするときは「Tuning -」を選びます。放送局を受信するとスキャンを自動的に停止します。

FM ステレオ放送の受信状態がよくない場合

- 1 自動選局またはダイレクト選局 (47 ページ) を使って聞きたい曲を受信する、もしくはプリセットした放送局を選ぶ (48 ページ)。
- 2 オプションを押す。
- 3 「FM Mode」を選んで、+ を押す。
- 4 「Mono」を選んで、+ を押す。

手動で受信する (ダイレクト選局)

数字ボタンで放送局の周波数を直接入力することができます。

- 1 ダイレクト選局を押す。
- 2 シフトを長押しして、数字ボタンで周波数を入力し、+ を押す。

例 1 : FM 88.00 MHz

8 → 8 → 0 と選ぶ。

例 2 : AM 1,350 kHz

1 → 3 → 5 → 0 と選ぶ。

ちょっと一言

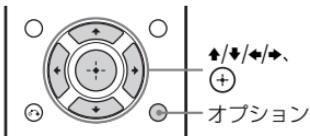
AM 放送を受信するときは、付属の AM ループアンテナの向きを受信状態の良い方向に調節してください。

放送局を受信できない場合

「---.--- MHz」または「---.--- kHz」が表示され、画面が現在の周波数に戻ります。正しい周波数が入力されていることを確認してください。周波数が正しく入力されていない場合は、手順 2 をくり返してください。それでも放送局を受信できない場合は、その地域では入力した周波数が使われていない可能性があります。

FM/AM ラジオ放送局をプリセットする(プリセットメモリー)

お気に入りの放送局として、FM 局と AM 局で最大 30 局ずつ登録できます。



- 1 プリセットしたい放送局を自動受信(47 ページ)またはダイレクト選局(47 ページ)で受信する。
- 2 「Preset Memory」を選んで、**⊕**を押す。
- 3 プリセット番号を選んで、**⊕**を押す。選んだプリセット番号で放送局が登録されます。
- 4 手順 1 から 4 をくり返して、他の放送局を登録する。
下記のように放送局を登録できます。
 - AM 局 : AM 1 から AM 30
 - FM 局 : FM 1 から FM 30

プリセットした放送局に名前をつける (Name Input)

- 1 メニューから「FM」または「AM」を選んで、**⊕**を押す。
- 2 「Select Preset」を選んで、**⊕**を押す。
- 3 名前をつけたいプリセット番号を選んで、**⊕**を押してから、オプションを押す。
- 4 「Name Input」を選んで、**⊕**を押す。
- 5 **↑/↓**をくり返し押して、文字を選び、**→**を押す。
↔/↔を押して、入力位置を前後に移動できます。放送局には、最大 8 文字の名前を入力することができます。
- 6 手順 5 をくり返して一文字ずつ入力し、**⊕**を押す。
入力した名前が登録されます。

ご注意

テレビ画面に表示できても表示窓には表示できない文字があります。

プリセットした放送局を受信する

- 1 メニューから「FM」または「AM」を選んで、**⊕**を押す。
- 2 「Select Preset」を選んで、**⊕**を押す。
- 3 お好みのプリセットした放送局を選んで、**⊕**を押す。
1 から 30 までのプリセット番号が有効です。

音響効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、**④**を押す。
- 2 「Sound Field」を選んで、**④**を押す。
- 3 サウンドフィールドを選ぶ。

ちょっと一言

リモコンのサウンドフィールド +/- をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選べます。本体のA.F.D./2CH、MOVIE または MUSIC でも操作できます。

Auto Format Direct (A.F.D.) / 2 チャンネルサウンドモード

Auto Format Direct (A.F.D.)

モード：オートフォーマットダイレクトモードを使って、より忠実な音を聞いたり、2 チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコードモードを選んだりすることができます。

2 チャンネルサウンドモード：お使いのソフトウェアの記録フォーマットやつないだ再生機器、本機のサウンドフィールドの設定などに関係なく、2 チャンネル音声出力に切り換えることができます。

■ A.F.D. Auto (A.F.D. AUTO)

サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。

■ Multi Stereo (MULTI ST.)

2 チャンネルの左／右の信号をすべてのスピーカーから出力します。ただし、スピーカーの設定によっては、一部のスピーカーから音が出力されないことがあります。

■ 2ch Stereo (2CH ST.)

フロント左／右の2本のスピーカーのみから音を出力します。アクティブサブウーファーからは音を出力しません。

通常の2 チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、マルチチャンネルサラウンドフォーマットは2 チャンネルにダウンミックスされます。

■ Analog Direct (A. DIRECT)

選んでいる入力の音声を、2 チャンネルのアナログ入力に切り替えます。この機能を使って、高品質のアナログ音源を楽しむことができます。

この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのレベルのみ調節できます。

ご注意

BD、DVD、GAME、Bluetooth、USB、ホームネットワーク、SEN および AirPlay 機能を使っているときは、「Analog Direct」は選べません。

ムービーモード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド音声を楽しめます。ご自宅で、映画館の臨場感を再現できます。

■ HD-D.C.S.

HD Digital Cinema Sound (HD-D.C.S.) は、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。この技術は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づいています。HD-D.C.S. モードにより、マスタリング処理時に映画の音響技術が意図したとおりの最適な臨場感とともに、高音質なブルーレイや DVD の映画をご自宅で楽しむことができます。

HD-D.C.S. のエフェクトタイプを下記から選ぶことができます。

- **Dynamic**：残響が多くても広々とした雰囲気に欠ける環境（音が充分に吸収されていない環境）に適しています。反射音を強調し、大型で古いたいタイプの映画館の音を再現します。ダビングシアターの広々とした雰囲気が強調され、独特の音場が作り出されます。
- **Theater**：一般的なリビングルーム向けです。映画館（ダビングシアター）のような残響を再現します。ブルーレイディスクに録画されたコンテンツを映画館の雰囲気で鑑賞したいときに最も適しています。
- **Studio**：適切な音響機器を備えたリビングルームに適しています。劇場用音源をブルーレイディスク用として家庭での鑑賞に適した音量にリミックスするときの、残響感を再現します。反射音や残響音は最低限のレベルに抑えています。ただし、セリフやサラウンド効果が生き生きと再生されます。

■ PLII Movie

ドルビープロロジック II ムービーモードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビーサラウンドにエンコードされた映画に適しています。また、このモードでは、吹き替え版や古い映画のビデオなどの音声も 5.1 チャンネルで再生できます。

■ PLIIX Movie

ドルビープロロジック IIx ムービーモードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビープロロジック II ムービーまたはドルビーデジタル 5.1 を 7.1 映像チャンネルにディスクリートします。

■ PLIIZ Height (PLIIZ)

ドルビープロロジック IIz モードのデコード処理を行います。この設定は、5.1 チャンネルから垂直方向の成分を加えた 7.1 チャンネルに音源を拡張し、立体感と奥行きを表現できます。

■ Neo:6 Cinema (Neo:6 CIN)

DTS Neo:6 Cinema モードのデコード処理を行います。2 チャンネルのフォーマットで録音された音源を 7 チャンネルにデコードします。

ミュージックモード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選びだけで、簡単にサラウンド音声を楽しめます。ご自宅で、コンサートホールの臨場感を再現できます。

■ Berlin P.Hall (BERLIN)

ベルリンフィルハーモニックホールの音響特性を再現します。

■ Concertgebouw (CONCERTGEB)

大きなサウンドステージが特徴のオランダ、アムステルダムのコンサートホールの音響特性を再現します。

■ Musikverein (MUSIKVEREI)

残響が特徴的なオーストリア、ウィーンのコンサートホールの音響特性を再現します。

■ Jazz Club (JAZZ)

ジャズクラブの音響を再現します。

■ Live Concert (CONCERT)

300席のライブハウスの音響を再現します。

■ Stadium (STADIUM)

広々とした屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。

■ Sports (SPORTS)

スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。

■ Portable Audio (PORTABLE)

ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。

■ PLII Music

ドルビープロロジック II ミュージックモードのデコード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。

■ PLIIx Music

ドルビープロロジック IIx ミュージックモードのデコード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。

■ PLIIz Height (PLIIz)

ドルビープロロジック IIz モードのデコード処理を行います。この設定は、5.1 チャンネルから垂直方向の成分を加えた 7.1 チャンネルに音源を拡張し、立体感と奥行きを表現できます。

■ Neo:6 Music (Neo:6 MUS)

DTS Neo:6 Music モードのデコード処理を行います。2 チャンネルのフォーマットで録音された音源を 7 チャンネルにデコードします。CDなど通常のステレオ音源に適しています。

ヘッドホンをつないでいる場合には

このサウンドフィールドは、本機にヘッドホンをつないでいるときのみ選択できます。

■ HP 2CH

ヘッドホンを使用すると自動的に選択されます（「Analog Direct」を除く）。通常の 2 チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、LFE 信号以外のマルチチャンネルサラウンドフォーマットは 2 チャンネルにダウンミックスされます。

■ HP Direct (HP DIRECT)

「Analog Direct」が選択されているときにヘッドホンを使用すると、自動的に選択されます。

イコライザー、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ信号を出力します。

アクティブサブウーファーをつないでいる場合

アクティブサブウーファーから 2 チャンネル信号に出力される低域効果音の LFE 信号がないときは、本機がアクティブサブウーファーへ出力用の低周波信号を生成します。ただし、すべてのスピーカーが「Large」に設定されているときは、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」では低周波信号が生成されません。

ドルビーデジタルの低音リダイレクト回路を最大限に活かすため、アクティブサブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高域に設定することをおすすめします。

サウンドフィールドについて ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、使用できないサウンドフィールドがあります。

- PLIIx Movie/Music と PLIIz Height を同時に選ぶことはできません。
 - PLIIx Movie/Music は、スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーありの設定にした場合のみ使用できます。
 - PLIIz Height は、スピーカーパターンをフロントハイスピーカーありの設定にした場合のみ使用可能です。
- 音楽用と映画用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
 - サンプリング周波数が 48 kHz よりも高い DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio または Dolby TrueHD を受信している。
 - 「Analog Direct」が選ばれています。
- スピーカーパターンが 2/0 または 2/0.1 に設定されているときは、「PLII Movie」、「PLIIx Movie」、「PLII Music」、「PLIIx Music」、「PLIIz Height」、「Neo:6 Cinema」および「Neo:6 Music」は機能しません。
- 音楽用のサウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker Settings メニューですべてのスピーカーが「Large」に設定されていると、アクティブラウファーファーから音が出力されません。ただし、以下の場合には、アクティブラウファーファーから音が出ます。
 - デジタル入力信号に LFE 信号が含まれている。
 - フロントまたはサラウンドスピーカーが「Small」に設定されています。
 - 「Multi Stereo」、「PLII Movie」、「PLII Music」、「PLIIx Movie」、「PLIIx Music」、「PLIIz Height」、「HD-D.C.S.」または「Portable Audio」が選ばれています。

Sound Optimizer 機能を使う

Sound Optimizer を使うと、低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しめます。音量を下げたときに聞こえにくい音を自動的に測定します。自動音場補正を実行したあとに、環境に合った音量レベルに調節されます。

- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、**①**を押す。
- 2 「Sound Optimizer」を選んで、**②**を押す。
- 3 「Normal」または「Low」を選んで、**③**を押す。

Sound Optimizer 機能が働きます。映画の基準レベルの調整には、「Normal」を選びます。CD など平均音圧を高めに加工されたソフト用の調整には、「Low」を選びます。

ご注意

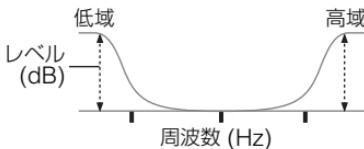
- 以下の場合、この機能は働きません。
 - 「Analog Direct」が使われているとき
 - ヘッドホンがつながれているとき
- 音声フォーマットによっては、本機は入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することができます。

補正タイプを選ぶ

自動音場補正を実行したあとに、補正タイプを選べます。詳しくは、「[Calibration Type]」(88 ページ) をご覧ください。

イコライザーを調整する

以下のパラメーターを使って、スピーカーそれぞれの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。



- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、**⊕**を押す。
- 2 「Equalizer」を選んで、**⊕**を押す。
- 3 「Front」、「Center」、「Surround」または「Front High」を選んで、**⊕**を押す。
- 4 「Bass」または「Treble」を選ぶ。
- 5 ゲインを調節し、**⊕**を押す。

ご注意

- この機能は、「Analog Direct」が使われているときは働きません。
- Bass と Treble の周波数は固定です。
- 音声フォーマットによっては、本機は入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することができます。

ピュアダイレクト機能を使う

ピュアダイレクトモードで、原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクトがオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。ピュアダイレクト機能はすべての入力で使えます。

- 1 ホームメニューから「Sound Effects」を選んで、**⊕**を押す。
- 2 「Pure Direct」を選んで、**⊕**を押す。
- 3 「On」または「Off」を選んで、**⊕**を押す。

ご注意

ピュアダイレクト機能が選ばれているときは、「Sound Optimizer」、「Equalizer」、「Auto Volume」および「D.Range Comp.」は働きません。

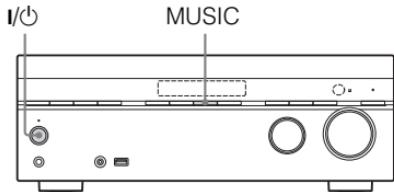
ちょっと一言

リモコンまたは本体の PURE DIRECT ボタンでも、ピュアダイレクト機能のオン／オフを切り換えることができます。

ピュアダイレクトを解除するには
以下の操作を行うと、ピュアダイレクト機能が解除されます。
- PURE DIRECT をもう一度押す。
- サウンドフィールドを変える。
- テレビのシーン設定を変える（シーンセレクト）。
- 「Sound Optimizer」、「Equalizer」、「Auto Volume」または「D.Range Comp.」の設定を変える。

サウンドフィールド を初期設定状態に戻す

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。



- 1 **I/O** を押して本機の電源を切る。
- 2 **MUSIC** を押しながら、**I/O** を押す。
- 3 「S.F. CLEAR」が表示窓に表示されたら、すべてのボタンをはなす。
すべてのサウンドフィールドが初期設定状態に戻ります。

ネットワーク機能を使う

本機のネットワーク 機能について

- DLNA 認定ロゴのある DLNA 対応機器 (DLNA CERTIFIED™ 製品) に保存した音声コンテンツをお楽しみいただけます (60 ページ)。
- ホームネットワーク上で、UPnP メディアレンダラーと同等の機器として、本機を使用できます。
- インターネットに接続すると、音楽サービスを聞いたり (64 ページ) 本機のソフトウェアをアップデートしたりできます。
- メディアリモート機器を登録して、本機を操作できます。
- AirPlay を使って、iOS 機器の音声コンテンツや iTunes Library を再生できます。

DLNA について

DLNA (Digital Living Network Alliance) は、製造メーカーを問わずさまざまな機器 (コンピューターなどのサーバー機器、AV 機器、モバイルコンピューティング機器) でコンテンツ (音楽、写真、映像) をやり取りできるように作られた業界標準です。DLNA は基準に基づいて、DLNA 標準に対応した機器に認定ロゴを発行しています。

サーバーを設定する

本機を使ってサーバーに保存された音声コンテンツを聞くには、あらかじめサーバーの設定をする必要があります。以下のサーバー機器は本機に対応しています。

- ・ソニー VAIO Media plus 1.3、1.4、2.0 および 2.1
- ・ソニー HDD ネットワークオーディオシステム NAS-S500HDE*、NAS-S55HDE*
- ・ソニーネットワーク AV レシーバー STR-DA6400ES*、TA-DA5600ES*
- ・Windows 8 および Windows 7 にインストールした Microsoft Windows Media Player 12 (55、57 ページ)
- ・Windows Vista/Windows XP にインストールした Microsoft Windows Media Player 11 (58 ページ)

* 一部の国または地域では販売されていません。

サーバーに他の機器からのアクセスを制限する機能がある場合は、本機からアクセスできるようにサーバーの設定を変えてください。

ここでは、Windows Media Player をサーバーとして使用する場合の設定方法を説明しています。

他のサーバー機器の設定について詳しくは、それぞれの機器またはアプリケーションの取扱説明書またはヘルプを参照してください。

ご注意

- ・OS のバージョンやパソコンの環境によっては、パソコンに表示される項目が異なります。詳しくは、OS のヘルプを参照してください。
- ・Windows の「Play To」機能を使って音楽を再生しているときは、時間が少し長くかかることがあります。

Windows 8 を使用しているときは

ここでは、Windows 8 にデフォルトでインストールされている Windows Media Player 12 を設定する方法を説明します。Windows Media Player 12 の操作方法について詳しくは、Windows Media のヘルプを参照してください。

- 1 コントロールパネルを開く。
【スタート】から【すべてのアプリ】を選ぶ。【コントロールパネル】を選び。



ちょっと一言

上記のような Windows 8 の画面が表示されない場合は、以下の手順へ進んでください。

【設定】から【コントロールパネル】を選択。



2 【ネットワークとインターネット】の【ネットワークの状態とタスクの表示】を選択。

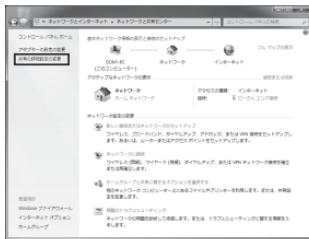
[ネットワークと共有センター] ウィンドウが表示されます。



ちょっと一言

画面にお好みの項目が表示されない場合は、コントロールパネルの表示方式を変更してください。

3 【共有の詳細設定の変更】を選ぶ。



4 【すべてのネットワーク】の中の【メディアストリーミング】から、【メディアストリーミング オプションの選択...】を選ぶ。



5 【メディアストリーミング オプション】ウィンドウに【メディアストリーミングが有効になっていません】が表示された場合は、【メディアストリーミングを有効にする】を選択。

6 [すべて許可] を選ぶ。

[すべてのメディアデバイスの許可] ウィンドウが開きます。
ローカルネットワークのすべての機器が [許可] に設定されている場合は、[OK] を選んでウィンドウを閉じる。



7 [すべてのコンピューターとメディアデバイスを許可する] を選ぶ。

8 [次へ] と [完了] を選んで、ウィンドウを閉じる。

9 サーバーリストをリフレッシュする。

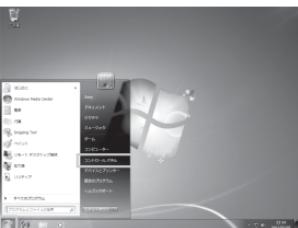
設定が完了したら、本機のサーバーリストをリフレッシュして、サーバーリストからこのサーバーを選びます。サーバー選択について詳しくは、「サーバーリストをリフレッシュするには」(60ページ)をご覧ください。

Windows 7を使用しているときは

ここでは、Windows 7 にデフォルトでインストールされている Windows Media Player 12 を設定する方法を説明します。

Windows Media Player 12 の操作方法について詳しくは、Windows Media Player 12 のヘルプを参照してください。

1 [スタート] から [コントロールパネル] へ進む。



2 [ネットワークとインターネット] の [ネットワークの状態とタスクの表示] を選ぶ。

[ネットワークと共有センター] ウィンドウが表示されます。

ちょっと一言

画面にお好みの項目が表示されない場合は、コントロールパネルの表示方式を変更してください。

3 [アクティブなネットワークの表示] の下の [パブリックネットワーク] を選ぶ。

[パブリックネットワーク] 以外の画面が表示された場合は、手順 6 へ進む。

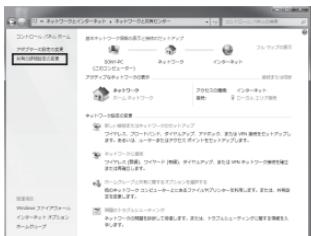
[ネットワークの場所の設定] ウィンドウが表示されます。



4 本機が使われている環境に応じて、[ホームネットワーク] または [社内ネットワーク] を選ぶ。

5 本機が使われている環境に応じて、画面に表示される指示にしたがう。
設定が完了したら、[ネットワークと共有センター] ウィンドウで [アクティブなネットワークの表示] の下の項目が [ホームネットワーク] または [社内ネットワーク] に変わっていることを確認します。

6 [共有の詳細設定の変更] を選ぶ。



7 [メディアストリーミング] から [メディアストリーミング オプションの選択] を選ぶ。



8 [メディアストリーミング オプション] ウィンドウに [メディアストリーミングが有効になっていません] が表示された場合は、[メディアストリーミングを有効にする] を選ぶ。

9 [すべて許可] を選ぶ。
[すべてのメディアデバイスの許可] ウィンドウが開きます。ローカルネットワークのすべての機器が [許可] に設定されている場合は、[OK] を選んでウィンドウを閉じる。



10 [すべてのコンピューターとメディアデバイスを許可する] を選ぶ。

11 [OK] を選んで、ウィンドウを閉じる。

12 サーバーリストをリフレッシュする。
設定が完了したら、本機のサーバーリストをリフレッシュして、サーバーリストからこのサーバーを選びます。サーバー選択について詳しくは、「サーバーリストをリフレッシュするには」(60 ページ) をご覧ください。

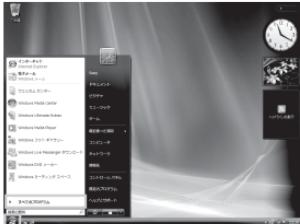
Windows Vista/XP を使用しているときは

ここでは、Windows Vista/XP* にインストールされている Windows Media Player 11 を設定する方法を説明します。

Windows Media Player 11 の操作方法について詳しくは、Windows Media Player 11 のヘルプを参照してください。

* Windows XP には、Windows Media Player 11 はデフォルトでインストールされていません。Microsoft のウェブサイトからインストーラーをダウンロードして、パソコンに Windows Media Player 11 をインストールしてください。

1 [スタート] から [すべてのプログラム] へ進む。



2 [Windows Media Player] を選ぶ。

Windows Media Player 11 が起動します。

3 [ライブラリ] メニューから [メディアの共有 ...] を選ぶ。

お使いのパソコンが Windows XP の場合は、手順 9 へ進んでください。

4 ▲ が表示されたら、[ネットワーク ...] を選ぶ。



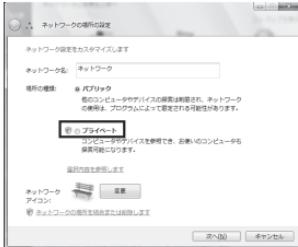
[ネットワークと共有センター] ウィンドウが表示されます。

5 [カスタマイズ] を選ぶ。



[ネットワークの場所の設定] ウィンドウが表示されます。

6 [プライベート] にチェックを入れて、[次へ] を選ぶ。



7 [場所の種類] が [プライベート] になっていることを確認して、[閉じる] を選ぶ。

8 [ネットワークと共有センター] ウィンドウに [(プライベートネットワーク)] が表示されていることを確認して、ウィンドウを閉じる。

9 手順 3 で表示される [メディア共有] ウィンドウで [メディアを共有する] がチェックされていない場合は、[メディアを共有する] にチェックを入れて、[OK] を選ぶ。接続可能な機器のリストが表示されます。



10 [メディアを共有する:] の横に表示される [設定 ...] を選ぶ。

11 [新しいデバイスおよびコンピュータを自動的に許可する] にチェックを入れて、[OK] を選ぶ。

ご注意

本機がサーバーにつながれて、サーバーの音声コンテンツを再生できることを確認したら、この項目のチェックをはずしてください。

12 サーバーリストをリフレッシュする。

設定が完了したら、本機のサーバーリストをリフレッシュして、サーバーリストからこのサーバーを選びます。サーバー選択について詳しくは、「サーバーリストをリフレッシュするには」(60 ページ)をご覧ください。

サーバーリストをリフレッシュするには

ホームネットワークに新しいサーバーを追加したとき、またはリストにお好みのサーバーが見つからないときは、サーバーリストをリフレッシュしてください。

1 サーバーリストを表示させて、オプションを押す。

2 「Refresh」を選んで、⊕を押す。
リフレッシュしたサーバーリストが表示されます。

ちょっと一言

本機は、最近利用した 5 つのサーバー履歴を保持して、サーバーリストの一番上に表示します。最大で 20 台のサーバーをサーバーリストに表示できます。

サーバーリストからサーバーを削除するには

1 サーバーリストを表示させて、削除したいサーバーを選んでオプションを押す。

オプションメニューが表示されます。

2 「Delete」を選んで、⊕を押す。
テレビ画面に確認画面が表示されます。

3 「OK」を選んで、⊕を押す。
「Completed」が表示されて、選んだサーバーが削除されます。

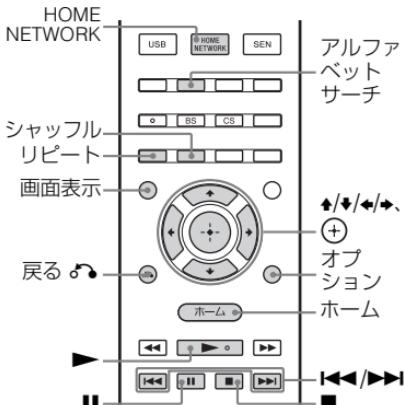
ご注意

サーバーをサーバーリストから削除しても、本機がネットワーク上でそのサーバーを見つけると（サーバーリストをリフレッシュしたときなど）、サーバーリストに再び表示されます。

サーバーの音声コンテンツを楽しむ

サーバーに保存された音声コンテンツを、本機を使って MP3、リニア PCM、WMA、FLAC、AAC* フォーマットで再生できます。DRM (Digital Rights Management) 著作権保護付きの音声コンテンツは、本機では再生できません。

* 拡張子が「.m4a」、「.mp4」または「.3gp」の AAC ファイルのみを本機で再生できます。



1 HOME NETWORK を押す。

テレビ画面にサーバーリストが表示されます。
最後に選択した項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）がテレビ画面に表示された場合は、戻る  をくり返し押してサーバーリストを表示させてください。「No server is available」が表示された場合、またはサーバーリスト上のサーバーが無効な場合は、オプションを押してください。「Refresh」を選んで、 を押します。リフレッシュしたサーバーリストが表示されます。

ちょっと一言

ホームメニューの「Listen」から「HOME NETWORK」を選ぶこともできます。

2 再生したいコンテンツが保存されているサーバーを選ぶ。

テレビ画面にコンテンツリストが表示されます。

ご注意

サーバー機器が Wake-on-LAN 標準に対応している場合は、自動的に本機の電源が入ります。サーバーが Wake-on-LAN 標準に対応していない場合は、あらかじめサーバーの電源を入れてください。サーバーの Wake-on-LAN 設定または操作について詳しくは、サーバーの取扱説明書またはヘルプを参照してください。

3 お好みの項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）を選んで、 を押す。

別の項目が表示された場合は、この手順をくり返して選択肢をしづり込み、お好みの項目を表示させてください。表示される項目は、つないだサーバーによって異なります。

4 お好みのトラックを選んで、 を押す。

再生が開始します。

本機のスピーカーから音声が出力されていることを確認してください。

ご注意

- 本機で再生できないトラックも、テレビ画面に表示されます。再生可能なトラックリストのソートはできません。
- 本機で再生できないトラックは、名前の前に「!」が表示され、再生時にスキップされます。
- 壁のコンセントから電源コードを抜くと、前回選択した項目から再生が再開されません。
- 大容量の音声コンテンツを含んだフォルダーを閲覧しているときは、本機が項目を表示するのに時間がかかることがあります。この場合は、キーワードを使ってアイテムを検索してください（70ページ）。

ちょっと一言

- アーティストフォルダーやジャンルフォルダーなどのフォルダーを選び、 ボタンを押すと、本機は選んだフォルダー内のすべてのアイテムを再生します。
- 本機の電源を切らない限り、ホームネットワーク機能に切り換えると、本機は前回選んだアイテムから再生を再開します。本機の電源を切ったあとでも、「Network Standby」が「On」に設定されているときは、前回選んだアイテムから再生が再開します。

Access Settings の設定をする（アクセス設定）

デバイスリスト上の機器のアクセス制限やアクセス許可を設定できます。

1 HOME NETWORK を押す。

2 オプションを押す。

3 「Access Settings」を選んで、 を押す。

自動アクセス許可を設定するには

- 1 「Access Settings」で「Auto Access」を選んで、④を押す。
- 2 「Allow」または「Not Allow」を選んで、④を押す。
 - **Allow**：ホームネットワーク上のすべての機器から本機へのアクセスを許可します。
 - **Not Allow**：本機にアクセスしている新しい機器を制限します。ホームネットワークに新しい機器をつなぐときは、その機器をデバイスリストに追加して、アクセス許可を設定します（62ページ）。

ご注意

最大で 20 台の機器をデバイスリストに追加できます。登録した機器がすでに 20 台に達している場合は、「Device list is full」が表示され、デバイスリストに新たな機器を追加することはできません。この場合は、不要な機器をデバイスリストから削除してください（62 ページ）。

デバイスリストに機器を追加するには

- 1 「Access Settings」で「Control Device」を選んで、④を押す。
登録したデバイスリストがテレビ画面に表示されます。
- 2 「Add Device」を選んで、④を押す。
- 3 使用する機器を選んで、④を押す。
選んだ機器がデバイスリストに追加されます。アクセス設定について詳しくは、「機器にアクセス許可の設定をするには」（62 ページ）をご覧ください。

機器にアクセス許可の設定をするには

デバイスリスト上の機器にアクセス許可の設定をすることができます。「Allow」に設定した機器だけが、ホームネットワーク上で認識されます。

- 1 「Access Settings」で「Control Device」を選んで、④を押す。
登録したデバイスリストがテレビ画面に表示されます。

- 2 使用する機器を選んで、④を押す。
- 3 「Access」を選んで、④を押す。
- 4 「Allow」または「Not Allow」を選んで、④を押す。

デバイスリストから機器を削除するには

手順 3 で「Delete」を選んで、④を押す。
確認画面で「OK」を選んで、④を押す。

TV SideView を使う

TV SideView は、リモート機器（スマートフォンなど）用の無料モバイルアプリケーションです。本機と TV SideView をいっしょに使うと、リモート機器で操作をして本機を簡単に楽しむことができます。

TV SideView 機器を登録するには

- 1 HOME NETWORK を押す。

ちょっと一言

ホームメニューの「Listen」から「HOME NETWORK」を選ぶこともできます。

- 2 オプションを押す。
- 3 「TV SideView Device Registration」を選んで、④を押す。

4 「Start Registration」を選んで、 ④を押す。

本機が、登録の準備ができている TV SideView 機器の検出を始めます。テレビ画面に「Connecting」が表示されます。TV SideView 機器の「Registration」を押します。ただし、30秒で機器を1台も検出できない場合は、本機は登録作業を終了します。

5 「Finish」を選んで、④を押す。

登録を中止するには

手順4で「Cancel」を選んで、④を押す。

ご注意

最大で5台のTV SideView 機器をデバイスリストに追加できます。登録した機器がすでに5台に達している場合は、「Device full」が表示され、デバイスリストに新たな機器を追加することはできません。この場合は、不要な機器をデバイスリストから削除してください(63ページ)。

登録したTV SideView 機器を確認するには

手順3で「Registered TV SideView Devices」を選んで、④を押す。

登録したTV SideView 機器をデバイスリストから削除するには

1 手順3で「Registered TV SideView Devices」を選んで、
④を押す。

2 削除したい機器を選んで、④を押す。

3 「Delete」を選んで、④を押す。

4 「OK」を選んで、④を押す。

選んだ機器がデバイスリストから削除されます。

著作権保護を確認する

DRM著作権保護付きのWMAフォーマットのファイルは、本機では再生できません。

WMAファイルが本機で再生できない場合は、パソコンでファイルのプロパティを確認し、DRM著作権付きのファイルでないかどうかを確認してください。

WMAファイルが保存されているフォルダーかボリュームを開いて、ファイルを右クリックして「プロパティ」ウインドウを表示させます。「ライセンス」タブがある場合は、DRM著作権保護が付いたファイルのため、本機で再生することはできません。

リモコンを使ってホームネットワーク機能を操作する

動作	操作
再生を一時停止する*	再生中に■を押す。 ▶を押して再生を再開する。
再生を停止する	■を押す。
再生中のトラックの先頭、前のトラック、または次のトラックへ進む	◀/▶をくり返し押す。
再生するアイテムを選び直す	戻る♪をくり返し押して、お好みのディレクトリを表示させる。 または、オプションを押して「Server List」を選び、お好みのアイテムを選ぶ。
	再生画面に戻るには、オプションを押して「Now Playing」を選ぶ。

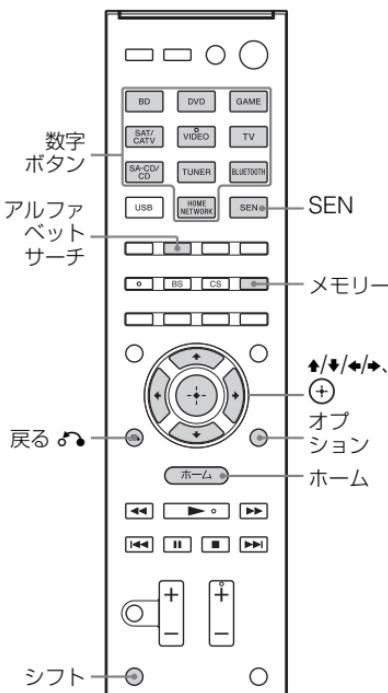
動作	操作
キーボードを使ってアイテムを探す	サーバーのコンテンツを選択した状態で、アルファベットサーチを押して、キーワードを入力する(70ページ)。
サーバーを変える	■を押す。次に、「Server List」を選んで、⊕を押す。お好みのサーバーを選んで、⊕を押す。
リピート再生	リピートをくり返し押して、「Repeat All」または「Repeat One」をテレビ画面に表示させる。
シャッフル再生	シャッフルをくり返し押して、「Shuffle On」をテレビ画面に表示させる。

* サーバーやトラックによっては、ホームネットワーク機能が選ばれているときは、再生一時停止機能が働かないことがあります。



ご注意

サービスプロバイダーによっては、音楽サービスを利用する前に、本機を登録する必要があります。登録について詳しくは、サービスプロバイダーのカスタマーサポートサイトを確認してください。



次の手順では、インターネットの音楽サービスの例として、「vTuner」の選びかたを説明します。

Sony Entertainment Network (SEN) を楽しむ

本機を使ってインターネットの音楽サービスを聞くことができます(SEN機能)。

この機能を使うには、インターネットにつながっているネットワークに本機をつなぐ必要があります。詳しくは、「6：ネットワークに接続する」(28ページ)をご覧ください。

SENについて詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください：

<http://www.sonyentertainmentnetwork.com>

1 SEN を押す。

テレビ画面にサービスプロバイダーリストが表示されます。前回選んだサービスまたはステーションを本機が自動的に表示する場合は、戻る  をくり返し押して、サービスプロバイダーリストを表示させます。

ちょっと一言

ホームメニューの「Listen」から「SEN」を選ぶこともできます。

2 「vTuner」を選んで、④を押す。

3 お好みのフォルダーまたはステーションを選んで、④を押す。

- / をくり返し押して、アイテムを選ぶ。
- ④を押して次のディレクトリに進む、またはステーションを聞く。
- 戻る  を押して前のディレクトリに戻る。

ご注意

「No service is available」が表示されてサービスプロバイダーリストを取得できないときは、オプションを押して「Refresh」を選ぶ。

ちょっと一言

本機の電源を切らない限り、SEN 機能に切り換えると、本機は前回選んだサービスまたはステーションを表示します。本機の電源を切った場合でも、「Network Standby」が「On」に設定されていると、前回選んだサービスまたはステーションが表示されます。

リモコンを使って SEN 機能を操作するには

動作	操作
ステーションまたはサービスを変更する	戻る  を押してサービスプロバイダーリストに戻り、サービスを選び直す。 もう一度再生画面に戻るには、オプションを押して「Now Playing」を選ぶ。

動作	操作
	本機がステーションまたはサービスを選んでいるとき、または再生しているときに、さまざまな機能を使う
サービスのオプションを選ぶ	サービスのコンテンツを選んでいるとき、または再生しているときに、オプションを押す。「Service Options」を選んで、④を押す。サービスのオプションの内容は、選んだサービスによって異なります。
キーボードを使ってアイテムを探す	サーバーのコンテンツを選択した状態で、アルファベットサーチを押して、キーワードを入力する(70ページ)。
表示可能な情報を見る	画面表示をくり返し押して、アーティスト名やアルバム名などを表示する。

ステーションをプリセットする

最大で 20 ステーションをお気に入りとして保存できます。

1 プリセットするステーションを選ぶ。

2 受信中に、シフトを長押ししてメモリーを押す。

プリセットメモリーリストが表示されます。

3 プリセット番号を選んで、④を押す。

4 手順 1 から 3 をくり返して、他のステーションを登録する。

プリセットしたステーションを聞くには

1 SEN を押す。

テレビ画面にサービスプロバイダーリストが表示されます。前回選んだステーションを本機が自動的に表示する場合は、戻る  をくり返し押して、サービスプロバイダーリストを表示させます。

2 「Preset」を選んで、⊕を押す。

サービスプロバイダーリストの先頭に、「プリセット」が表示されます。

3 お好みのプリセットしたステーションを選んで⊕を押す。

ご注意

サービスプロバイダによっては、プリセットできないステーションがある場合があります。プリセットできないステーションをプリセットしようとすると、画面に「Not available」が表示されます。

ちょっと一言

数字ボタンを押してプリセットステーションを選びます。シフトを押して、プリセット番号に対応する数字ボタンを押してから、⊕を押して直接プリセットステーションを選びます。

さまざまな音楽サービスを楽しむ

インターネット上で提供されているさまざまな音楽サービスのコンテンツをお楽しみいただけます。

音楽サービスについて、サービスの楽しみかたについて、および本機の登録コードについて詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://munlimited.com/home>

登録コードを確認する

新たな音楽サービスを楽しむときは、本機の登録コードの入力が必要な場合があります。

1 メニューから「Listen」を選んで、⊕を押す。

2 「SEN」を選んで、⊕を押す。

テレビ画面にサービスプロバイダーリストが表示されます。前回選んだサービスまたはステーションを本機が自動的に表示する場合は、戻る  をくり返し押して、サービスプロバイダーリストを表示させます。

3 「Registration Code」を選んで、⊕を押す。

本機の登録コードが表示されます。

AirPlay で iTunes から音楽をストリーミングする

無線ネットワークを使って、iOS 機器 (iPhone、iPod touch、iPad など) の音声コンテンツやパソコン上の iTunes ライブラリを再生できます。



本機対応の iPod/iPhone/iPad モデル

iPhone 4S、iPhone 4、iPhone 3GS、iPod touch (第2世代、第3世代、第4世代)、iPad、iPad2、iPad 第3世代互換 iOS 4.2 以降、Mac またはパソコンの iTunes 10.1 以降

ご注意

- iOS または iTunes の対応バージョンについて詳しくは、「本機対応の iPod/iPhone/iPad モデル」を参照してください。

- 本機で iOS または iTunes を使用する前に、最新バージョンにアップデートしてください。

- iOS 機器、iTunes または AirPlay の操作について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。

1 iOS 機器の画面または iTunes ウィンドウの右下の「▲」アイコンをタップまたはクリックする。

【iOS 機器】



【iTunes】



2 iTunes または iOS 機器の AirPlay メニューで「STR-DN840」を選ぶ。

【iOS 機器】



【iTunes】



3 iOS 機器または iTunes 上の音声コンテンツの再生を開始する。

AirPlay が本機の機能として自動的に選ばれます。

ちょっと一言

- 「*****」は本機の MAC アドレスの下 6 行です。
- 再生が始まらない場合は、手順 1 から操作をやり直してください。

機器名を確認、編集するには

機器の名前を付け直す手順については、「Device Name」(95 ページ) を参照してください。

AirPlay 再生の操作をするには

音量 +/-、▶、■、◀、▶▶、◀◀、シャッフルおよびリピートボタンを使って操作できます。本機が出力用として選ばれているときのみ、本機とリモコンからの操作が可能です。iTunes 使用時に、本機とリモコンで iOS 機器を操作するには、iOS 機器が本機とリモコンの操作を受信するように設定してください。

ちょっと一言

- 本機への一番最後の制御コマンドが最優先されます。本機は、ある機器の AirPlay 再生に使用されているときでも、AirPlay を装備した別の機器からの制御を受けると、その機器の音声コンテンツの再生を始めます。
- iOS や iTunes を使って大音量に設定すると、大音量の音声が本機から出力されます。
- iTunes の使いかたについて詳しくは、iTunes のヘルプを参照してください。
- iOS 機器または iTunes の音量レベルと本機の音量レベルは、連動できないことがあります。

ソフトウェアをアップデートする

最新バージョンのソフトウェアをダウンロードして、最新機能を利用できます。本機はソニーサーバーにアクセスして、ソフトウェアをアップデートします。

インターネットにつないでいてホームネットワークまたはSEN機能を使っていると、最新バージョンを入手すると、テレビ画面には「[New Software] Perform Software Update.」、表示窓には「UPDATE」が表示されます。

ソフトウェアをアップデートする前に、本機につながれている他の機器は必ず停止してください。

アップデート可能なソフトウェアの更新について詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sony.jp/support/audio/>

ご注意

- ・ソフトウェアのアップデート中は、本機の電源を切ったり、ネットワークケーブルを抜いたり、その他の操作を本機で行ったりしないでください。
- ・スリープタイマーがオンになっているときにソフトウェアをアップデートしようとすると、スリープタイマーは自動的にオフになります。

1 ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 「Settings」を選んで、⊕を押す。

テレビ画面に Settings メニュー リストが表示されます。

3 「System Settings」を選んで、⊕を押す。

4 「Network Update」を選んで、⊕を押す。

5 「Update」を選んで、⊕を押す。
本機がアップデート可能なソフトウェアの確認を始めます。

6 テレビ画面に「A new version of software is found」が表示された場合は、「Update now」を選んでから、⊕を押す。

ソフトウェア規約に同意するか否かの確認メッセージが表示されます。メッセージを確認して、「ソニーソフトウェアの使用許諾契約書」(126 ページ)を読んでから、⊕を押す。

アップデートが必要ない場合は、「No update is required.」が表示されます。

7 「Agree」を選んで、⊕を押す。

本機がソフトウェアのアップデートを開始し、テレビ画面が自動的にオフになります。アップデート中は、本体前面の I/Off (電源オン/スタンバイ) ランプが点滅します。本機がアップデートを完了するのに時間がかかることがあります（およそ 40 分）。アップデートに必要な時間は、データ量、ネットワークの線種、ネットワーク通信環境などによって異なります。ソフトウェアのアップデートが完了すると、「Complete」が表示されます。

手順を中止する、または前の画面に戻るには

ソフトウェアのアップデートを始める前に、戻る  を押します。アップデートが始まってしまうと、手順を中止したり、前の画面に戻ったりすることはできません。

ネットワーク機能メッセージ一覧

ネットワーク設定

メッセージと説明

Connection failed

本機はネットワークへの接続に失敗しました。

Input error

入力された値が不正確または無効です。

Not supported

アクセスポイント機器が WPS PIN コード方式に対応していません。

ホームネットワーク

メッセージと説明

Cannot connect to server

選んだサーバーに本機をつなぐことはできません。

Cannot get info

サーバーの情報を本機で取り出すことができません。

Cannot Play

対応していない音声ファイルまたは再生制限のある音声ファイルのため、本機で再生できません。

Device list is full

デバイスリストに機器をこれ以上登録することはできません。

No server is available

ネットワーク上に、本機が接続できるサーバーがありません。サーバーリストをリフレッシュしてください (60 ページ)。

No Track

サーバー上で選んだフォルダーには、再生できるファイルがありません。

Not found

サーバー上にキーワードに合うアイテムがありません。

Not in use

禁止されている操作が行われています。

SEN

メッセージと説明

Cannot connect to server

サーバーに本機をつなげません。

Cannot get info

本機はサーバーからコンテンツを取得することができません。

Cannot Play

対応していないファイル形式または再生制限のあるファイルのため、本機でサービスまたはステーションを再生できません。

Software update is required

本機で使用しているソフトウェアのバージョンでは、無効なサービスです。ソフトウェアのアップデートについて詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://munlimited.com/home>

No preset station is stored

選んだプリセット番号で本機に保存されているステーションはありません。

No service is available

サービスプロバイダーがありません。

Not available

- 選んだサービスは無効です。
- 無効な操作が行われています。

Not in use

禁止されている操作が行われています。

ソフトウェアアップデート

メッセージと説明

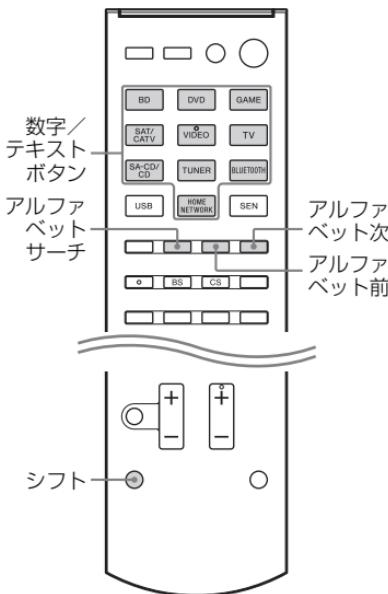
Download failed

- サーバーにアクセスして最新のソフトウェアをダウンロードできません。
 - 本機はソフトウェアのアップデート中に更新データのダウンロードに失敗しました。
- Settings メニューでもう一度ソフトウェアをアップデートしてください(68 ページ)。

キーワードを使ってアイテムを検索する

テレビ画面にリスト(アーティストリスト、トラックリストなど)が表示されているときは、キーワードを入力してアイテムを検索できます。

ホームネットワークまたはSEN機能が選ばれているときのみ、キーワード検索が有効です。



- 1 アイテムリスト(アーティストリスト、トラックリストなど)がテレビ画面に表示されているときに、アルファベットサーチを押す。
テレビ画面にキーワード入力画面が表示されます。
- 2 シフトを長押しして、数字／テキストボタンを押してキーワードを入力する。
最大 15 文字でキーワードを設定できます。

ご注意

検索したいアイテムのタイトルや名前の先頭の文字または単語と一致するキーワードを入力してください。アイテムを検索するときは、名前の前の「The」とその後ろのスペースは無視します。

3 ④を押す。

キーワードにマッチするアイテムが表示されます。表示されたアイテムが検索しているものと異なるときは、アルファベット前／アルファベット次を押して、前／次のアイテムを表示させてください。

4 手順1から3をくり返してお好みのアイテムを見つけたら、④を押す。

5 お好みのトラックを選んで、④を押す。

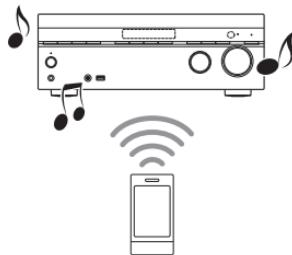
再生が開始します。

Bluetooth機能を使う

Bluetooth無線技術について

Bluetooth無線技術は、デジタル機器同士で無線通信を行うための近距離無線技術です。Bluetooth無線技術でおよそ10メートルの範囲内で通信を行うことができます。

USB接続のようにケーブル接続をする必要はなく、無線赤外線技術のように機器同士を向かい合わせにする必要もありません。Bluetooth無線技術は、数千社が採用している世界標準規格です。世界中のさまざまな企業が世界標準規格を満たした製品を生産しています。



本機が対応しているBluetooth機器の最新情報については、下記のウェブサイトをご覧ください。

[http://www.sony.jp/support/
audio/](http://www.sony.jp/support/audio/)

本機のBluetooth機能について

本機の通信システムと対応Bluetoothプロファイル

プロファイルとは、Bluetooth機器の特性ごとに機能を標準化したもので、本機は下記のBluetoothバージョンとプロファイルに対応しています。

通信システム：

Bluetooth 標準規格 Ver.3.0 準拠
対応 Bluetooth プロファイル：

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
- AVRCP 1.3 (Audio Video Remote Control Profile)：一時停止、停止、再生、音量調整など、オーディオ／映像機器を操作する。

ご注意

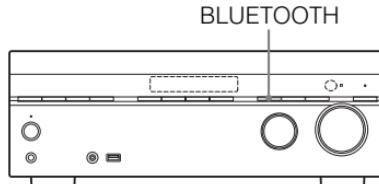
- Bluetooth機能を使えるようにするには、つなぐBluetooth機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。同じプロファイルに対応していても、機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- Bluetooth無線技術の特性により、Bluetooth機器での音声再生に比べて、本機側での音声再生がわずかに遅れます。

Bluetooth機器の音楽を聞く

Bluetooth機器と本機をペアリングしてつなぐと、本機をとおしてBluetooth機器の音楽を聞くことができます。

本機とBluetooth機器をペアリングする

ペアリングとは、Bluetooth機器同士を互いにあらかじめ登録する操作です。次の手順にしたがって、お使いのBluetoothと本機をペアリングしてください。一度ペアリングをしたら、再度ペアリングを行う必要はありません。ペアリングが完了したら、「Bluetooth機器の音楽を再生する」へ進んでください（73ページ）。



- 1 **Bluetooth機器を本機から1メートル以内の場所に置く。**
- 2 **BLUETOOTHを押して、Bluetooth機能を選ぶ。**
- 3 **BLUETOOTHを2秒間押し続けて、本機のペアリングモードを起動する。**

表示窓に「Pairing ready」が表示されて、「BT」が速く点滅します。5秒以内に手順4を実行しないと、ペアリングが中止されます。この場合は、この手順からやり直してください。

4 Bluetooth機器でペアリングを実行して、本機を検出する。

詳しくは、Bluetooth機器の取扱説明書を参照してください。

Bluetooth機器の種類によっては、検出された機器のリストが

Bluetooth機器の画面に表示されます。本機は「STR-DN840」として表示されます。

ご注意

本機との接続を確立しているときに、Bluetooth機器でオーディオプロファイル（A2DP、AVRCP）を選びます。Bluetooth機器がAVRCPプロファイルに対応していない場合は、本機で再生やそれ以外の操作を行うことはできません（72ページ）。

5 Bluetooth機器の画面で「STR-DN840」を選ぶ。

「STR-DN840」が表示されないときは、手順1から操作をやり直してください。

6 Bluetooth機器の画面でパスキー*の入力が求められたら、「0000」を押す。

7 ペアリングが完了したら、

Bluetooth機器と本機をつなぐ。

機器によっては、ペアリングをすると自動で接続を行います。接続が完了すると、表示窓に機器名が表示されて「BT」が点灯します。

* パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。

ご注意

- 本機は、4桁までの数値で構成されたパスキーに対応しています。
- 本機は最大で9台のBluetooth機器とペアリングできます。10台目のBluetooth機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- 他のBluetooth機器とペアリングするには、手順1から6をくり返します。

ペアリング操作を中止するには

手順3のあとに、BLUETOOTHを長押しします。表示窓に「CANCEL」が表示されます。

Bluetooth機器の音楽を再生する

AVRCPを使って本機とBluetoothをつないで、Bluetooth機器を操作できます。

音楽を再生する前に、下記を確認してください。

- Bluetooth機器のBluetooth機能がオンになっている。
- ペアリングが完了している。

1 BLUETOOTHを押して、Bluetooth機能を選ぶ。

本機が最後につないだBluetooth機器に自動的につながります。最後につないだBluetooth機器につなげないときは、本機のBLUETOOTHを押します。接続が確立されたら、手順3へ進みます。

2 Bluetooth機器から接続を確立する。

詳しくは、Bluetooth機器の取扱説明書を参照してください。

3 Bluetooth機器から再生を始める。

リモコンの▶で操作することもできます。

4 音量を調整する。

音量 +/- を押す（または、本機のMASTER VOLUME つまみを回す）。

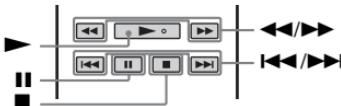
ご注意

Bluetooth機器の種類によっては、Bluetooth機器の操作ボタンでも音量を調整できます。

ご注意

- 接続が完了すると、テレビ画面に機器名が表示されて、表示窓に「BT」が点灯します。
- Bluetooth 機器との接続を切断するには、本機の BLUETOOTH を押します。Bluetooth 機器からも接続を切断できます。詳しくは、Bluetooth 機器の取扱説明書を参照してください。
- Bluetooth 機器につないでいるときは、他の Bluetooth 機器から本機は検出されず接続を確立できません。
- ペアリングした Bluetooth 機器につなげないときは、本機と Bluetooth 機器のペアリング操作をもう一度行ってください。
- 本機の電源を入れたときに入力が「BLUETOOTH」に設定されていると、本機は自動的に前回つないだ Bluetooth 機器につながります。

リモコンを使って Bluetooth 機器を操作するには



押すボタン 動作

▶*	再生開始
⏸	一時停止
⏹	再生停止
◀◀/▶▶	早戻し/早送り
◀◀/▶▶	前/次のファイルへ移動

* Bluetooth 機器が一台もつながれていないときに▶を押すと、本機は自動的に前回つないだ Bluetooth 機器につながり、音楽を再生します。

ご注意

これらの操作は一部の Bluetooth 機器でのみ行なうことができます。また、つないだ Bluetooth 機器によって実際の操作が異なることがあります。

Bluetooth スタンバイモードを設定する

「BT Standby」(Bluetooth スタンバイ) モードを設定すると、本機がスタンバイ状態のときでも、Bluetooth 機器から本機を操作できます。

- ホームメニューから「Listen」を選んで、⊕を押す。
- 「BLUETOOTH」を選んで、⊕を押す。
- オプションを押す。
- 「BT Standby」を選んで、⊕を押す。

- 「On」を選んで、⊕を押す。
Bluetooth 機器が本機につながれているときは、自動的に本機の電源が入ります。

Bluetooth スタンバイモードを解除するには

手順 5 で「Off」を選んで、⊕を押す。

ご注意

- 本機がスタンバイ状態で、「BT Standby」が「On」に設定されていると、本体前面の I/□ (電源オン/スタンバイ) ランプがオレンジ色に点灯します。
- Bluetooth 機器がペアリングされているときのみ、このモードを選びます。

Bluetooth オーディオコードекを設定する

AAC (Advanced Audio Coding) 音声を有効または無効にできます。

- 「Bluetooth スタンバイモードを設定する」の手順 4 で「BT AAC」を選び、⊕を押す。
- 「On」または「Off」を選んで、⊕を押す。
 - On : AAC 音声が有効です。
 - Off : AAC 音声が無効です。

Bluetooth オーディオコーデックを解除するには

手順 2 で「Off」を選んで、④を押す。

ご注意

- AAC が有効なときは、高音質をお楽しみいただけます。
- 設定を変更すると、Bluetooth 機器が本機から自動的に切断されます。

つないだ Bluetooth 機器の情報を確認する

「Bluetooth スタンバイモードを設定する」の手順 4 で「Address Info」を選び、④を押す。

テレビ画面にアドレス情報が表示されます。

ちょっと一言

リモコンの DISPLAY をくり返し押して、Bluetooth 機器の情報を確認できます。画面表示を押すたびに表示が次のように切り換わります。

Bluetooth 機器名 → Bluetooth 機器のアドレス → 最近適用したサウンドフィールド → 音量レベル → 選んだ入力

“ブラビアリンク”機能

“ブラビアリンク”機能とは？

“ブラビアリンク”機能により、HDMI 機器制御機能を搭載する、テレビ、ブルーレイディスクプレーヤー／レコーダー、DVD プレーヤー、AV アンプなどのソニー製品を連動操作することができます。

“ブラビアリンク”機能に対応するソニー製の機器を HDMI ケーブル（別売）でつなぐと、以下の操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ（77 ページ）
- 電源オフ連動（77 ページ）
- システムオーディオコントロール（78 ページ）
- オートジャンルセレクター（78 ページ）
- シーンセレクト（80 ページ）
- オーディオ機器コントロール（80 ページ）
- テレビリモコンからのメニュー操作（80 ページ）

HDMI 機器制御機能は、HDMI CEC (Consumer Electronics Control) で使用されている、HDMI (High-Definition Multimedia Interface) のための相互制御機能の規格です。

本機は“ブラビアリンク”機能に対応している製品とつなぐことをおすすめします。

ご注意

- 他社製品をつないだ場合でも、「ワンタッチプレイ」、「システムオーディオコントロール」および「電源オフ連動」機能は使用できます。（他社製品がこれらの機能に対応している必要があります。）ただし、すべての他社製品での動作を保証するものではありません。
- 「シーンセレクト」および「オーディオ機器コントロール」は、ソニー独自の機能です。他社製品をつないでも働きません。

- “プラビアリンク”に対応していない機器ではこれらの機能は働きません。

“プラビアリンク”の準備をする

本機は、「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応しています。

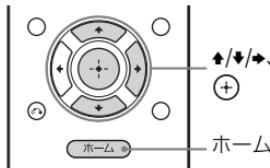
- お使いのテレビが「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応している場合は、テレビで HDMI 機器制御機能を設定すると、本機と再生機器の HDMI 機器制御機能が自動で設定されます（76 ページ）。
- お使いのテレビが「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応していない場合は、本機、再生機器、およびテレビの HDMI 機器制御機能を別々に設定してください（76 ページ）。

「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応しているテレビの場合

- 本機、テレビおよび再生機器を HDMI ケーブルで接続する（22、23 ページ）。（各機器が HDMI 機器制御機能に対応している必要があります。）
- 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。
- テレビの HDMI 機器制御機能をオンにする。
本機およびすべての接続機器の HDMI 機器制御機能が同時に有効になります。「COMPLETE」が表示されるまでお待ちください。設定が完了しました。

テレビの設定について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応していないテレビの場合



- ホームを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- メニューから「Settings」を選んで、+を押す。
テレビ画面に Settings メニューリストが表示されます。
- 「HDMI Settings」を選んで、+を押す。
- 「Control for HDMI」を選んで、+を押す。
- 「On」を選んで、+を押す。
HDMI 機器制御機能が有効になります。
- ホームを押してホームメニューを表示させて、もう一度ホームを押してメニューを閉じる。
- つないだ機器の画像が表示されるように、本機とテレビの HDMI 入力を選んで、つないだ機器の HDMI 入力を合わせる。
- つないだ機器の HDMI 機器制御機能をオンに設定にする。
つないだ機器の HDMI 機器制御機能がすでにオンに設定されている場合は、設定を変更する必要はありません。
- 他の機器でも HDMI 機器制御機能を使いたいときは、手順 7 と 8 をくり返す。
テレビとつないだ機器の設定について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- HDMI ケーブルを抜いたり接続を変えたりするときは、「「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応しているテレビの場合」(76 ページ) または「「HDMI 機器制御設定連動」機能に対応していないテレビの場合」(76 ページ) の手順を実行してください。
- お使いのテレビで「HDMI 機器制御設定連動」を行う前に、必ずテレビと本機を含む他の接続機器の電源を入れてください。
- 「HDMI 機器制御設定連動」を行ったあとに再生機器が動作しない場合は、再生機器の HDMI 機器制御設定を確認してください。
- つないだ機器が「HDMI 機器制御設定連動」に対応していない場合で、HDMI 機器制御には対応している場合は、テレビから「HDMI 機器制御設定連動」を行う前に、つないだ機器の HDMI 機器制御設定を行う必要があります。

ワンタッチプレイ

本機に HDMI 接続した機器で再生を始めると、本機とテレビは下記のように動作します。

本機とテレビ

電源が入る（スタンバイ状態の場合）
↓
適切な HDMI 入力に切り換わる

「Pass Through」を「Auto」または「On」に設定し（93 ページ）、本機をスタンバイ状態に設定すると、テレビからのみ音声と映像を出力することができます。

ご注意

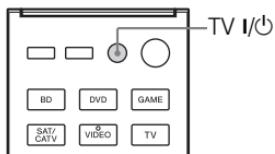
- テレビによっては、コンテンツの最初の部分が表示されないことがあります。
- 「Pass Through」が「Auto」または「On」に設定されているときは、前回テレビのスピーカーから音を出していた場合に、本機の電源が入ります。

ちょっと一言

テレビのメニューから、ブルーレイディスクプレーヤー／レコーダー、DVD プレーヤー／レコーダーなどの接続機器を選択することができます。本機とテレビは自動的に適切な HDMI 入力に切り換わります。

電源オフ連動

テレビのリモコンの電源ボタンでテレビの電源を切ると、本機と接続機器の電源も自動的に切れます。本機のリモコンでもテレビの電源を切ることができます。



TV I/O を押す。

テレビ、本機、つないだ機器の電源が切れます。

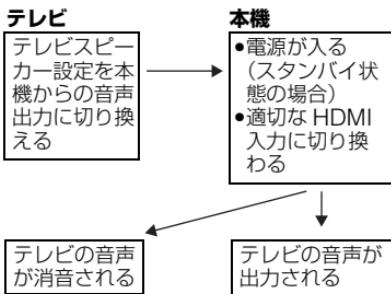
ご注意

- テレビの電源連動機能の設定をオンにしてから、電源オフ連動機能を使用してください。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- つないだ機器の状態によっては、電源オフ連動機能で機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各接続機器の取扱説明書を参照してください。

システムオーディオコントロール

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しむことができます。

システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューで操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。



システムオーディオコントロール機能は以下のようにお使いいただけます。

- ・テレビの電源が入った状態で、本機の電源を入れると、システムオーディオコントロール機能が自動的に有効になり、本機につないだスピーカーからテレビの音声がお出します。本機の電源を切ると、音声はテレビのスピーカーからお出されます。
- ・本機につないだスピーカーからテレビの音声をお楽しみの際は、テレビのリモコンを使って、本機の音量を調節や消音操作をすることができます。

ご注意

- ・テレビの設定によっては、システムオーディオコントロール機能が働かないことがあります。この場合は、テレビの取扱説明書を参照してください。
- ・「Control for HDMI」が「On」に設定されていると、システムオーディオコントロールの設定に応じて HDMI Settings メニューの「HDMI Audio Out」は自動的に設定されます（93 ページ）。

- ・テレビの電源を入れてから本機の電源を入れると、テレビの音声がお出しますまで多少時間がかかることがあります。

オートジャンルセレクター

オートジャンルセレクター機能は、視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG 情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター機能対応のテレビをお使いの場合のみ）。オートジャンルセレクターは、システムオーディオコントロール機能がオンに設定されている場合のみ使用することができます。



- 1 **ホームを押す。**
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 **ホームメニューから「Settings」を選んで、⊕を押す。**
テレビ画面に Settings メニューリストが表示されます。
- 3 **「HDMI Settings」を選んで、⊕を押す。**
- 4 **「HDMI Sound Field」を選んで、⊕を押す。**
 - ・Auto：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り換わります。

- Manual : サウンドフィールド
ボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応表

番組情報 (EPG 情報)	オートジャンルセレクターで切り換わるサウンドフィールド
ニュース／報道	2ch Stereo
スポーツ	Sports
情報／ワイドショー	A.F.D. Auto
ドラマ	A.F.D. Auto
ミュージック	詳細ジャンルによつて異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。
バラエティ	A.F.D. Auto
映画	HD-D.C.S.
アニメ／特撮	A.F.D. Auto
ドキュメンタリー	A.F.D. Auto
劇場／公演	Live Concert
趣味／教育	A.F.D. Auto
福祉	A.F.D. Auto
その他	A.F.D. Auto
スポーツ (CS)	Sports
洋画 (CS)	HD-D.C.S.
邦画 (CS)	HD-D.C.S.
情報なし	A.F.D. Auto

音楽番組詳細ジャンル対応表

詳細ジャンル	サウンドフィールド
国内ロック／ポップス	Live Concert
海外ロック／ポップス	Live Concert
クラシック／オペラ	Concertgebouw Amsterdam
ジャズ／フュージョン	Jazz Club
歌謡曲／演歌	Live Concert
ライブ／コンサート	Live Concert
ランキング／リクエスト	Live Concert
カラオケ／のど自慢	Live Concert
民謡／邦楽	Live Concert
童謡／キッズ	Live Concert
民族音楽／ワールドミュージック	Live Concert
その他	Live Concert

ご注意

番組情報 (EPG 情報) に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れことがあります。

シーンセレクト

テレビで選んだシーンに応じて、最適な画質とサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます。
操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

対応表

テレビのシーン設定	サウンドフィールド
シネマ	HD-D.C.S.
スポーツ	Sports
ミュージック	Live Concert
アニメ	A.F.D. Auto
フォト	A.F.D. Auto
ゲーム	A.F.D. Auto
グラフィックス	A.F.D. Auto

ご注意

テレビによっては、サウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

テレビリモコンからのメニュー操作

テレビのリモコンを使って本機のメニューを操作できます。

テレビに認識されている本機 (AV AMP) を選ぶ。

テレビのリモコンのカーソルキーなどで、本機のメニューを操作できます。

ご注意

- ・本機は「Tuner (AV AMP)」としてテレビに認識されます。
- ・お使いのテレビがリンクメニューに対応している必要があります。
- ・テレビの種類によっては、一部の操作が行えないことがあります。

オーディオ機器コントロール

「オーディオ機器コントロール」に対応したテレビをお使いのときは、画面の右側に操作用のウィジェット（子画面）が表示されます。

テレビのリモコンで、入力やサウンドフィールドの切り換えを操作できます。センタースピーカーやアクティブラバーウーファーのレベルの設定、「Sound Optimizer」(52 ページ)、「Dual Mono」(92 ページ) や「A/V Sync.」(92 ページ) の設定もできます。

ご注意

「オーディオ機器コントロール」のご利用には、テレビのブロードバンド接続環境が必要です。

その他の操作

デジタル音声とアナログ音声を切り換える (Input Mode)

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するコンテンツの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り換えたりすることができます。

- 1 ホームメニューから「Settings」を選んで、 \oplus を押す。
テレビ画面に Settings メニュー リストが表示されます。
- 2 「Input Settings」を選んで、 \oplus を押す。
- 3 「Input Mode」を選んで、 \oplus を押す。

選択した音声入力がテレビ画面に表示されます。

- **Auto** : デジタル音声信号が優先されます。複数のデジタル接続をしている場合は、HDMI の音声信号が優先されます。
デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。テレビの入力が選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が優先されます。お使いのテレビが ARC 機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。
本機とテレビ両方の HDMI 機器 制御設定が有効になっていないと、ARC は動作しません。

- **OPT** : デジタル音声信号入力を DIGITAL OPTICAL 端子に指定します。
- **COAX** : デジタル音声信号入力を DIGITAL COAXIAL 端子に指定します。
- **Analog** : アナログ音声信号入力を AUDIO IN (L/R) 端子に指定します。

注意

- 入力によっては、表示窓に「-----」が表示され、他のモードを選ぶことができません。
- 「Analog Direct」を使っているときは、音声入力は「Analog」に設定されます。他のモードは選べません。

他の音声入力端子を使う (Audio Input Assign)

端子の初期設定がつないでいる機器に対応していない場合は、デジタル入力端子の割り当てを他の入力に変更することができます。

入力端子の割り当てを変更したあとは、入力切り換え用ボタン（または本機の INPUT SELECTOR つまみ）でつないでいる機器を選ぶことができます。

例：
DVD プレーヤーを OPTICAL IN 1 (SAT/CATV) 端子につないでいるときは
- OPTICAL IN 1 (SAT/CATV) 端子を「DVD」に割り当てる。

- 1 ホームメニューから「Settings」を選んで、 \oplus を押す。
テレビ画面に Settings メニュー リストが表示されます。
- 2 「Input Settings」を選んで、 \oplus を押す。

- 3 「Audio Input Assign」を選んで、
④を押す。
- 4 割り当てる入力名を選んで、④を
押す。
- 5 手順 4 で選んだ入力に割り当てる
音声信号を、↑/↓/↔/↔ を使って選
ぶ。
- 6 ④を押す。

入力名	BD	DVD	GAME	SAT/ CATV	VIDEO	SA-CD/ CD
割り当てる可能 な音声入力端 子	OPT 1	○	○	○*	○	○
	OPT 2	○	○	○	○	○
	COAX	○	○	○	○	○*
	None	○*	○*	○*	○*	○

* 初期設定

ご注意

- デジタル音声入力を割り当てるとき、「Input Mode」設定が自動的に変わることがあります。
- 1つの入力に対して複数の入力を割り当てることはできません。

バイアンプ接続する

- 1 ホームメニューから「Settings」を選んで、**⊕**を押す。
テレビ画面に Settings メニュー リストが表示されます。
- 2 「Speaker Settings」を選んで、**⊕**を押す。
- 3 「Speaker Pattern」を選んで、**⊕**を押す。
- 4 サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを使わないスピーカーパターンを選び、**⊕**を押す。
- 5 「SB Assign」を選んで、**⊕**を押す。
- 6 「Bi-Amp」を選んで、**⊕**を押す。
SPEAKERS FRONT A 端子から出力される信号と同じ信号を SPEAKERS SURROUND BACK/Bi-AMP/FRONT HIGH/ FRONT B 端子から出力できます。

メニューを閉じるには

ホームを押す。

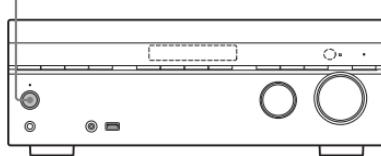
ご注意

- 自動音場補正を実行する前に、「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定してください。
- 「SB Assign」を「Bi-Amp」に設定すると、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーのスピーカーレベルと距離の設定が無効になり、フロントスピーカーの設定が使われます。

お買い上げ時の設定に戻す

下記の手順にしたがって、本機に記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。初めて本機をお使いになるときも、下記の手順で本機を初期化してください。この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

I/□



- 1 I/□を押して本機の電源を切る。

- 2 I/□を5秒間押し続ける。

表示窓に「CLEARING」が表示されてしまふと、表示が「CLEARED!」に変わります。初期設定から変更、または調整された設定はすべて初期化されます。

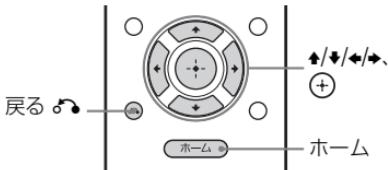
ご注意

メモリーが完全に消去されるのに数秒かかります。表示窓に「CLEARED!」が表示されるまで、電源を切らないでください。

設定を調節する

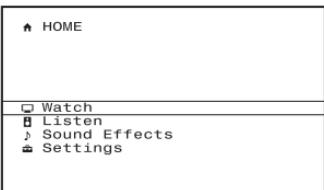
Settings メニューを使う

Settings メニューを使って、スピーカー、サラウンド効果など、さまざまな設定を調節できます。



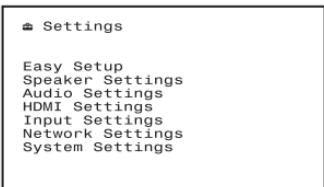
1 ホームを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。



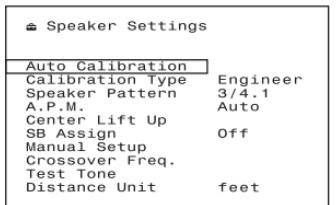
2 ホームメニューから「Settings」を選び、(+)を押してメニュー モードに入る。

テレビ画面に Settings メニュー リストが表示されます。



3 お好みのメニュー項目を選び、(+)を押してメニュー項目にアクセスする。

例：「Speaker Settings」を選んだ場合



4 お好みのパラメーターを選んで、(+)を押す。

前の画面に戻るには

戻る (←) を押す。

メニューを閉じるには

ホームを押してホームメニューを表示させて、もう一度ホームを押す。

Settings メニューリスト

- Settings
 - Easy Setup
(86 ページ)
 - Auto Calibration
 - Calibration Type
 - Speaker Pattern
 - A.P.M.
 - Center Lift Up
 - SB Assign
 - Manual Setup
 - Crossover Freq.
 - Test Tone
 - Distance Unit
 - Speaker Settings
(86 ページ)
 - D.L.L.
 - Sound Optimizer
 - Equalizer
 - Sound Field
 - A/V Sync.
 - Auto Volume
 - Dual Mono
 - D.Range Comp.
 - HDMI Settings
(93 ページ)
 - Control for HDMI
 - Pass Through
 - HDMI Audio Out
 - HDMI Sound Field
 - Subwoofer Level
 - Fast View
 - Input Settings
(94 ページ)
 - Input Mode
 - Input Edit
 - Audio Input Assign
 - Name In
 - Network Settings
(94 ページ)
 - Internet Settings
 - Information
 - Device Name
 - Network Standby
 - System Settings
(95 ページ)
 - Language
 - Auto Standby
 - Network Update
 - Update Alert

ご注意

テレビ画面に表示されるメニューのパラメーターは、現在の設定や選ばれているアイコンの状態によって異なります。

かんたん設定 (Easy Setup)

Easy Setup (かんたん設定) を再起動して基本設定を行います。画面の指示にしたがって操作してください (31 ページ)。

スピーカー設定 (Speaker Settings)

それぞれのスピーカーを手動設定できます。自動音場補正完了後に、スピーカーレベルを調節することもできます。

ご注意

スピーカー設定は、現在の視聴位置のみに適用されます。

■ Auto Calibration

自動音場補正機能を実行します。

1 テレビ画面の指示にしたがって操作し、④を押す。

5 秒後に測定が始まります。

測定が完了するのにおよそ 30 秒かかり、テスト音が鳴り続けます。

測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り換わります。

ご注意

画面にエラーコードが表示された場合は、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」(87 ページ) をご覧ください。

2 お好みの項目を選んで、④を押す。

- **Retry** : 自動音場補正を再度実行します。
- **Save&Exit** : 測定結果を保存し、設定を終了します。
- **WRN Check** : 測定結果に関連する警告を表示します。「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」(87 ページ) をご覧ください。
- **Exit** : 測定結果を保存せずに設定を終了します。

3 測定結果を保存する。

手順 2 で「Save&Exit」を選択します。

ご注意

- 測定結果を保存すると、A.P.M. (Automatic Phase Matching) 機能が働きます。
- 以下の場合、A.P.M. 機能は働きません。
 - 「Calibration Type」が「Off」に設定されているとき (88 ページ)
 - 48 kHz より大きいサンプリング周波数の Dolby TrueHD または DTS-HD 信号を受信しているとき
- スピーカーの配置を変えた場合、サラウンド音声を楽しむには、自動音場補正をもう一度実行することをおすすめします。

ちょっと一言

- 自動音場補正を実行し、設定を保存すると、補正タイプを選べます。
- 距離を表示する単位は、Speaker Settings メニューの「Distance Unit」で変更することができます (91 ページ)。
- スピーカーのサイズ (「Large」/「Small」) は、低周波特性によって決まります。測定結果は、測定用マイクとスピーカーの位置、および測定を行う部屋の形状によって変わります。測定結果を適用することをおすすめします。Speaker Settings メニューで設定を変えることもできます。まず測定結果を保存してから、設定を変更するようにしてください。

自動音場補正の結果を確認するには

下記の手順にしたがって、「Auto Calibration」(86 ページ) で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

「Auto Calibration」(86 ページ) の手順 2 で「WRN Check」を選んで、 ①を押す。

警告メッセージが表示されたら、メッセージを確認し、設定を変更せずに本機を使ってください。

もしくは、必要に応じて、もう一度自動音場補正を実行してください。

エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

1 ①を押す。

テレビ画面に「Retry？」が表示されます。

2 「Yes」を選んで、①を押す。

3 「Auto Calibration」の手順 1 から 3 をくり返す (86 ページ)。

自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧

表示と説明

Error 30

本機前面の PHONES にヘッドホンがつながっています。ヘッドホンを取りはずし、もう一度自動音場補正を実行してください。

Error 31

SPEAKERS がオフに設定されています。スピーカー設定を変更し、もう一度自動音場補正を実行してください。

Error 32

Error 33

スピーカーが検出されない、または正しくつながれていません。

- フロントスピーカーがつながっていない、またはフロントスピーカーが 1 本しかつながっていません。

表示と説明

- 左右どちらかのサラウンドスピーカーがつながっていません。
- サラウンドスピーカーがつながっていないのに、サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーがつながっています。サラウンドスピーカーを SPEAKERS SURROUND 端子につないでください。
- サラウンドバックスピーカーが SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B R 端子にのみつながっています。サラウンドバックスピーカーを 1 つだけつなぐときは、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B L 端子につないでください。
- フロントハイスピーカーの左右いずれかがつながっていません。

測定用マイクがつながっていません。測定用マイクが正しくつながれていることを確認して、自動音場補正をもう一度実行してください。

測定用マイクが正しくつながっているにもかかわらず、エラーコードが表示される場合は、測定用マイクのケーブルが損傷している可能性があります。

Warning 40

測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。周囲が静かな状態で再測定を行うと、測定結果が改善される場合があります。

Warning 41

Warning 42

測定用マイクからの入力が過大です。

- スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーと測定用マイクを離して設置し、再測定してください。

Warning 43

アクティブサブウーファーの距離と位置が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

No warning

警告情報はありません。

ちょっと一言

アクティブサブウーファーの位置によって測定結果が異なる場合があります。測定結果の値のまま本機を使用できます。

■ Calibration Type

自動音場補正を実行し、設定を保存すると、補正タイプを選べます。

- **Full Flat**：各スピーカーの周波数特性を平らにします。
- **Engineer**：「ソニー基準のリスニングルーム」の周波数特性にします。
- **Front Ref.**：すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
- **Off**：自動音場補正のイコライザーをオフにします。

■ Speaker Pattern

お使いのスピーカーシステムに合わせたスピーカーパターンを選ぶことができます。

スピーカーパターンの設定

例：

5 / 2 . 1

フロント 2 本 + フロン
トハイ 2 本 + センター サラウンド
2 本 アクティブ
サブウーファー

スピーカー パターン	フロント 左/右	フロントハイ 左/右	センター	サラウンド 左/右	サラウンド バック左	サラウンド バック右	アクティブ サブウーファー
5/2.1	○	○	○	○	—	—	○
5/2	○	○	○	○	—	—	—
4/2.1	○	○	—	○	—	—	○
4/2	○	○	—	○	—	—	—
3/4.1	○	—	○	○	○	○	○
3/4	○	—	○	○	○	○	—
2/4.1	○	—	—	○	○	○	○
2/4	○	—	—	○	○	○	—
3/3.1	○	—	○	○	○	—	○
3/3	○	—	○	○	○	—	—
2/3.1	○	—	—	○	○	—	○
2/3	○	—	—	○	○	—	—
3/2.1	○	—	○	○	—	—	○
3/2	○	—	○	○	—	—	—
2/2.1	○	—	—	○	—	—	○
2/2	○	—	—	○	—	—	—
3/0.1	○	—	○	—	—	—	○
3/0	○	—	○	—	—	—	—
2/0.1	○	—	—	—	—	—	○
2/0	○	—	—	—	—	—	—

■ A.P.M. (Automatic Phase Matching (自動位相マッチング))

DCAC 機能 (31 ページ) の A.P.M. 機能を設定できます。スピーカーの位相特性を補正し、つながりのよいサラウンド空間を実現します。

- **Auto** : A.P.M. 機能のオン／オフが自動的に切り替わります。
- **Off** : A.P.M. 機能は働きません。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - 「Analog Direct」が使われているとき
 - ヘッドホンがつながれているとき
 - 自動音場補正を行っていない場合
- 音声フォーマットによっては、本機は入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することができます。

■ Center Lift Up

フロントハイスピーカーを使って、センタースピーカーの音を画面内の適切な高さまで持ちあげることができます。これによって、違和感のない自然な表現を楽しむことができます。

- 1 – 10
- Off

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - ヘッドホンがつながれているとき
 - センタースピーカーがないとき
 - フロントハイスピーカーがないとき
 - 「2ch Stereo」、「Analog Direct」および「Multi Stereo」が使われているとき
 - 音楽用のサウンドフィールドが使われているとき

■ SB Assign (サラウンドバックスピーカー割り当て)

バイアンプ接続もしくはスピーカーフロント B 接続に、SPEAKERS SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子を選べます。詳しくは、「サラウンドバックスピーカーを設定するには」(33 ページ) をご覧ください。

ご注意

- 自動音場補正実行後に「SB Assign」を設定してください。
- バイアンプ接続またはスピーカーフロント B 接続をサラウンドバックスピーカー接続またはフロントハイスピーカー接続に変える場合は、「SB Assign」を「Off」に設定し、もう一度スピーカーを設定してください。「Auto Calibration」(86 ページ) または「Manual Setup」(89 ページ) をご覧ください。

■ Manual Setup

「Manual Setup」画面で、スピーカーそれぞれを手動で調節できます。自動音場補正完了後に、スピーカーレベルを調節することもできます。

スピーカーレベルを調整するには

各スピーカー (フロント左／右、フロント左／右ハイ、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブウーファー) のレベルを調整できます。

- 1 レベルを調節したいスピーカーを画面上で選び、**⊕**を押す。
- 2 「Level」からパラメーターを選んで、**⊕**を押す。
- 3 選んだスピーカーのレベルを調節し、**⊕**を押す。

レベルは -10.0 dB から +10.0 dB まで 0.5 dB 単位で調節できます。

ご注意

音楽用のサウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker Settings メニューですべてのスピーカーが「Large」に設定されていると、アクティブサブウーファーから音がが出力されません。ただし、以下の場合には、アクティブサブウーファーから音が出ます。

- デジタル入力信号に LFE 信号が含まれている。
- フロントまたはサラウンドスピーカーが「Small」に設定されている。
- 「Multi Stereo」、「PLII Movie」、「PLII Music」、「PLIx Movie」、「PLIx Music」、「PLIz Height」、「HD-D.C.S.」または「Portable Audio」が選ばれている。

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定するには

視聴位置から各スピーカー（フロント左／右、フロント左／右ハイ、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブウーファー）までの距離を調節できます。

1 視聴位置からの距離を設定したいスピーカーを画面上で選び、⑦を押す。

2 「Distance」からパラメーターを選んで、⑦を押す。

3 選んだスピーカーの距離を設定し、⑦を押す。

距離を 1 m 0 cm から 10 m 0 cm まで 10 cm 単位で調節できます。

ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、設定できないパラメーターがあります。
- この機能は、「Analog Direct」が使われているときは働きません。

各スピーカーのサイズを調節するには

各スピーカー（フロント左／右、フロント左／右ハイ、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右）のサイズを調整できます。

1 サイズを調節したいスピーカーを画面上で選び、⑦を押す。

2 「Size」からパラメーターを選んで、⑦を押す。

3 選んだスピーカーのサイズを設定し、⑦を押す。

• **Large**：低音を効果的に再生する大きなスピーカーをつなぐ場合は、「Large」を選びます。通常は「Large」を選びます。

• **Small**：マルチチャンネルサラウンド音声を出力している場合に、音声が歪んだり、サラウンド効果が不充分に感じるとときは、「Small」を選んで、低音リダイレクト回路を有効にし、各チャンネルの低音をアクティブサブウーファーまたは「Large」に設定した他のスピーカーから出力します。

ご注意

- ヘッドホンがつながれているときは、距離やサイズを設定できません。
- この機能は、「Analog Direct」が使われているときは働きません。

ちょっと一言

各スピーカーの「Large」および「Small」の設定によって、内部のサウンドプロセッサーがチャンネルの低音信号をカットするかどうかが決まります。チャンネルからの低音がカットされると、低音リダイレクト回路により、該当する低音信号がアクティブサブウーファーまたは「Large」に設定された他のスピーカーから再生されます。

しかし、低音には一定の指向性があるため、できればカットしたくないものです。したがって、小型のスピーカーを使用するときでも、低音を出力したい場合は、「Large」に設定することができます。逆に、大きなスピーカーを使用していても、できればそのスピーカーから低音を出力したくない場合は、「Small」に設定してください。

全体の音量が小さい場合は、すべてのスピーカーを「Large」に設定してください。低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることができます。

- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を「Small」にすると、センター、サラウンド、サラウンドバック、フロントハイスピーカーも自動的に「Small」に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「Large」に設定されます。

■ Crossover Freq. (スピーカーのクロスオーバー周波数)

Speaker Settings メニューでスピーカーサイズが「Small」に設定されているスピーカーの、低音域のクロスオーバー周波数を設定できます。自動音場補正のあとに、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が、各スピーカーに設定されます。

- クロスオーバー周波数を調節したいスピーカーのスピーカーパラメーターを画面上で選び、⑦を押す。
- 設定値を調節し、⑦を押す。

■ Test Tone

「Test Tone」画面でテストトーンの種類を選べます。

ちょっと一言

- すべてのスピーカーのレベルを同時に調整するには、音量 +/- を押してください。本体の MASTER VOLUME つまみでも操作できます。
- 調整中は、テレビ画面に調整した値が表示されます。

各スピーカーからテストトーンを出力するには

各スピーカーから順にテストトーンを出力できます。

1 「Test Tone」を選んで、⑦を押す。

2 テストトーンのタイプまたはスピーカーを選んで、⑦を押す。

- Off : テストトーンを各スピーカーから手動で出力します。
- Auto : テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。
- Fix FL、Fix FR、Fix CNT、Fix SL、Fix SR、Fix SB*、Fix SBL、Fix SBR、Fix LH、Fix RH、Fix SW : テストトーンを出力するスピーカーを選べます。

3 テストトーンを手動設定する場合は、スピーカーレベルを調整して⑦を押す。

* サラウンドバックスピーカーが 1 つのみつながれているときは、Fix SB が表示されます。

■ Distance Unit

距離を設定する際の単位を選ぶことができます。

- feet : 距離はフィート単位で表示されます。
- meter : 距離はメートル単位で表示されます。

音声設定 (Audio Settings)

お好みに合わせて音声の設定を調節できます。

■ D.L.L. (Digital Legato Linear)

D.L.L. 機能は、低音質のデジタル音声信号やアナログ音声信号を高音質で再生可能にするソニー独自の技術です。

- Auto 1 : 非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号に対して機能します。
- Auto 2 : リニア PCM 信号に対しても、非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号と同様に機能します。
- Off

ご注意

- USB 機器またはホームネットワークのコンテンツによっては機能しません。
- 「A.F.D. Auto」、「Multi Stereo」、「2ch Stereo」または「Headphone (2ch)」が選ばれているときは、機能します。ただし、以下の場合は、この機能は働きません。
 - 「FM TUNER」または「AM TUNER」入力が選ばれている。
 - 44.1 kHz 以外のサンプリング周波数のリニア PCM 信号を受信している。
 - Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby TrueHD DTS 96/24、DTS-HD Master Audio または DTS-HD High Resolution Audio 信号を受信している。
 - ネットワーク機能中で、44.1 kHz 以外のサンプリング周波数の信号を受信している。

■ Sound Optimizer

低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しめます。詳しくは、「Sound Optimizer 機能を使う」(52 ページ)をご覧ください。

- Normal

- Low
- Off

■ Equalizer

各スピーカーの低域および高域レベルを調節できます。詳しくは、「イコライザーを調整する」(53 ページ) をご覧ください。

■ Sound Field

入力信号に適用するサウンド効果を選べます。詳しくは、「音響効果を楽しむ」(49 ページ) をご覧ください。

■ A/V Sync. (音声と映像出力の同期)

音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に調節できます。

大画面の液晶ディスプレイヤやプラズマモニター、またはプロジェクターをお使いの場合に便利な機能です。

- **HDMI Auto** : HDMI 接続のときはテレビ側の情報をもとに、映像と音声のずれを自動的に調節します。モニターが A/V Sync 機能に対応している場合のみ機能します。
- **0 ms – 300 ms** : 遅れを 0 ms ~ 300 ms の範囲で 10 ms 単位で調節できます。

■ 注意

- この機能は、「Analog Direct」が使われているときは働きません。
- 遅延時間は、音声フォーマット、サウンドフィールド、スピーカーパターン、スピーカーまでの距離などの設定によって変わることがあります。

■ Auto Volume

本機は、入力信号やつないだ機器から出力されるコンテンツに応じて、音量を自動で調整できます。

例えば、テレビ番組よりコマーシャルの音量が大きいときに便利です。

- On
- Off

■ 注意

- Auto Volume 機能をオン／オフするときは、必ず事前に音量を下げてください。
- この機能は、ドルビーデジタル、DTS、リニア PCM、または AAC 信号が入力されたときのみ働くため、他のフォーマットに切り換えると、音声が急に大きくなることがあります。
- 以下の場合、この機能は働きません。
 - サンプリング周波数が 48kHz より大きいリニア PCM 信号を受信している。
 - Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS 96/24 DTS-HD Master Audio または DTS-HD High Resolution Audio 信号を受信している。

■ Dual Mono (デジタル放送の言語選択)

デジタル放送で二重音声が視聴可能な場合に、お好みの言語を選べます。この機能は、MPEG-2 AAC 音源とドルビーデジタル音源でのみ働きます。

- **Main/Sub** : フロントスピーカー(左)から主音声、フロントスピーカー(右)から副音声が同時に output されます。
- **Main** : 主音声が output されます。
- **Sub** : 副音声が output されます。

■ D.Range Comp. (ダイナミックレンジの圧縮)

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタルの音源にのみ働きます。

- **On** : ダイナミックレンジはレコーディングエンジニアが意図したとおりに圧縮されます。
- **Auto** : ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。
- **Off** : ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

HDMI 設定 (HDMI Settings)

HDMI 端子につないだ機器に必要な設定を調節することができます。

■ Control for HDMI

HDMI 機器制御機能のオン／オフを切り換えることができます。詳しくは、「“プラビアリング”の準備をする」(76 ページ) をご覧ください。

- On
- Off

ご注意

- 「Control for HDMI」を「On」に設定すると、「HDMI Audio Out」が自動的に変わることがあります。
- 本機がスタンバイモードで、「Control for HDMI」が「On」に設定されていると、本体前面の I/O (電源オン／スタンバイ) ランプがオレンジ色に点灯します。

■ Pass Through

本機がスタンバイ状態でも HDMI 信号をテレビに出力できるようにします。

- On : 本機がスタンバイ状態でも、本機の HDMI TV OUT 端子から HDMI 信号が output されます。
- Auto : 本機がスタンバイ状態のときにテレビの電源を入れると、本機の HDMI TV OUT 端子から HDMI 信号が output されます。“プラビアリング”対応のソニー製テレビをお使いの場合、この設定がおすすめです。この設定にすると、「On」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。
- Off : スタンバイ状態時には本機は HDMI 信号を出力しません。つないだ機器のソースをテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。この設定にすると、「On」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。

ご注意

「Auto」設定時は、「On」に設定した場合よりも、映像と音声がテレビに出力されるまでに時間がかかることがあります。

■ HDMI Audio Out

本機と HDMI 接続した再生機器からの HDMI 音声信号を設定できます。

- AMP : 再生機器からの HDMI 音声信号は本機につないだスピーカーにのみ出力されます。マルチチャンネルの音声をそのまま再生できます。

ご注意

「HDMI Audio Out」が「AMP」に設定されているときは、音声信号はテレビのスピーカーからは出力されません。

- TV+AMP : 音声を本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から出力します。

ご注意

- 再生機器の音質は、チャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの音質によります。テレビにステレオスピーカーがある場合は、マルチチャンネル音源を再生するときでも、本機からもテレビと同じステレオで音声が出力されます。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機から音が出力されない場合があります。この場合は、「AMP」に設定してください。

■ HDMI Sound Field

デジタル放送のテレビ番組を視聴するときに、オートジャンルセレクターを設定できます。詳しくは、「オートジャンルセレクター」(78 ページ) をご覧ください。

■ Subwoofer Level

PCM 信号が HDMI 接続で入力されているとき、アクティブサブウーファーのレベルを 0 dB または +10 dB に設定できます。HDMI 入力端子に個別に割り当てられている各入力のレベルを設定できます。

- Auto : オーディオストリームに応じて、レベルを 0 dB または +10 dB に自動で設定します。

- +10 dB
- 0 dB

■ Fast View

Fast View の操作を設定できます。この HDMI 高速切り換え機能は、すべての HDMI 入力に対応しています。

- **Auto** : 通常よりも HDMI 入力を素早く選べます。
- **Off** : Fast View と Preview for HDMI 機能を無効にします。

ご注意

「Off」を選択すると、入力切換から画像が出るまでの時間がかかるようになりますが、選択しない HDMI 入力の信号を受けなくなるため、音質的に有利になります。

入力設定 (Input Settings)

本機と他機器の接続に関わる設定を調節できます。

■ Input Mode

機器をデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいるとき、音声入力モードを固定できます。詳しくは、「デジタル音声とアナログ音声を切り換える (Input Mode)」(81 ページ) をご覧ください。

■ Input Edit

各入力について以下の項目を設定できます。

- **Watch** : 入力が Watch メニューに表示されます。
- **Listen** : 入力が Listen メニューに表示されます。
- **Watch+Listen** : 入力が Watch メニューと Listen メニューの両方に表示されます。

■ Audio Input Assign

各入力に割り当てられた音声入力端子を設定できます。詳しくは、「他の音声入力端子を使う (Audio Input Assign)」(81 ページ) をご覧ください。

■ Name In

Watch / Listen メニューに表示する名前を設定できます。

各入力に最大 8 文字で名前を入力して表示します。

端子ではなく、接続機器名が表示されるように登録しておくと便利です。

- 1 「Name In」を選んで、⊕を押す。
- 2 名前をつけたい入力を選んで、⊕を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して文字を選び、⊕を押す。

←/→ を押して、入力位置を前後に移動できます。

- 4 手順 3 をくり返して一文字ずつ入力し、⊕を押す。

入力した名前が登録されます。

ネットワーク設定 (Network Settings)

ネットワークの設定を調節できます。ホームネットワークまたは SEN 機能が選ばれているときのみ、Network Settings メニューが有効です。

■ Internet Settings

ネットワークの設定をします。詳しくは、「本機のネットワーク設定を行う」(34 ページ) をご覧ください。

- **Wired Setup**
- **Wireless Setup**

■ Information

ネットワークの情報を確認できます。

- 1 「Information」を選んで、⊕を押す。

2 確認したい設定項目を選んで、④を押す。

テレビ画面に現在の設定情報が表示されます。

「Physical Connection」、「SSID」、「Security Settings」、「IP Address Setting」、「IP Address」、「Subnet Mask」、「Default Gateway」、「DNS Settings」、「Primary DNS」、「Secondary DNS」および「MAC Address」の設定*を確認できます。

* 設定中に確認できる設定項目は、ネットワーク環境と接続方式によって異なります。

■ Device Name

ホームネットワーク上で他の機器から見分けがつきやすいように、30文字までの機器名を本機に割り当てることができます。

機器名を割り当てるには

- 1 「Device Name」を選んで、④を押す。
- 2 シフトを長押しして、数字／テキストボタンを押して機器名を入力する。
- 3 ④を押す。

ちょっと一言

お買い上げ時の機器名は「STR-DN840*****」に設定されています。
「*****」は本機のMACアドレスの下6桁です。

■ Network Standby

「Network Standby」モードが「On」に設定されていれば、本機はネットワーク上で常に接続および操作できます。

- 1 「Network Standby」を選んで、④を押す。

- 2 「Off」または「On」を選んで、④を押す。

- On：ネットワーク機能は本機がスタンバイ状態のときでも働き、ネットワーク上で制御すると操作を再開します。

- Off：本機がスタンバイ状態のときは、ネットワーク機能はオフになります。電源を入れ直すと、操作の開始までに時間がかかります。

ご注意

本機がスタンバイ状態で、「Network Standby」が「On」に設定されていると、本体前面のI/Off（電源オン／スタンバイ）ランプがオレンジ色に点灯します。

システム設定 (System Settings)

本機の設定を調節できます。

■ Language

画面のメッセージに使用する言語を選べます。

- English：英語
- French：フランス語
- German：ドイツ語
- Spanish：スペイン語

■ Auto Standby

操作や信号の入力がないときに、本機が自動的にスタンバイ状態に切り換わるように設定することができます。

- On：約20分後にスタンバイ状態に切り換えます。
- Off：スタンバイ状態に切り換えません。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - 「FM TUNER」、「AM TUNER」、「USB」、「HOME NETWORK」または「SEN」入力が選択されているとき
 - AirPlay機能が使われているとき
 - 本機のソフトウェアのアップデート中

- オートスタンバイ機能とスリープタイマーが同時に設定されている場合は、スリープタイマーが優先されます。

■ Network Update

本機のソフトウェアを最新バージョンにアップデートできます。
詳しくは、「ソフトウェアをアップデートする」(68 ページ) をご覧ください。

ソフトウェアのバージョンを確認するには

- 1 「Network Update」を選んで、**⊕**を押す。
- 2 「Version」を選んで、**⊕**を押す。
テレビ画面にソフトウェアのバージョンが表示されます。

■ Update Alert

新しいバージョンのソフトウェアがあるときにテレビ画面に情報を表示するかどうかを設定できます。

- On
- Off

表示窓のメニューを使う

- 1 アンプメニューを押す。
本機の表示窓にメニューが表示されます。
- 2 **↑/↓**をくり返し押して、メニューを選び、**⊕**を押す。
- 3 **↑/↓**をくり返し押して、パラメーターを選び、**⊕**を押す。
- 4 **↑/↓**をくり返し押して、お好みの設定を選び、**⊕**を押す。

前の表示に戻るには

◆ または戻る **☽**を押す。

メニューを閉じるには

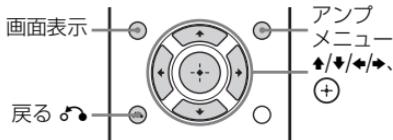
アンプメニューを押す。

ご注意

パラメーターや設定が表示窓で暗く表示されることがあります。これは、選んだ項目が使用できない、あるいは固定／変更できないことを意味します。

OSD を使わずに操作する

テレビが本機につながっていないなくても、表示窓の表示を見ながら本機を操作できます。



設定メニュー一覧

各メニューでは、以下のオプションを設定できます。メニューからの手順について詳しくは、96 ページをご覧ください。

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
自動音場補正設定 [<AUTO CAL>]	自動音場補正開始 [A.CAL START]	
	自動音場補正の種類 a) [CAL TYPE]	FULL FLAT, ENGINEER, FRONT REF, OFF
	自動位相マッチング a) [A.P.M.]	A.P.M. AUTO, A.P.M. OFF
レベル設定 [<LEVEL>]	テストトーン b) [TEST TONE]	OFF, FIX ■■■c), AUTO ■■■c)
	フロントスピーカー (左) レベル b) [FL LEVEL]	FL -10.0 dB ~ FL +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	フロントスピーカー (右) レベル b) [FR LEVEL]	FR -10.0 dB ~ FR +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	センタースピーカーレベル b) [CNT LEVEL]	CNT -10.0 dB ~ CNT +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドスピーカー (左) レベル b) [SL LEVEL]	SL -10.0 dB ~ SL +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドスピーカー (右) レベル b) [SR LEVEL]	SR -10.0 dB ~ SR +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドバックスピーカー レベル b) [SB LEVEL]	SB -10.0 dB ~ SB +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドバックスピーカー (左) レベル b) [SBL LEVEL]	SBL -10.0 dB ~ SBL +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	サラウンドバックスピーカー (右) レベル b) [SBR LEVEL]	SBR -10.0 dB ~ SBR +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	フロントハイスピーカー (左) レベル b) [LH LEVEL]	LH -10.0 dB ~ LH +10.0 dB (0.5 dB 単位)

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
	フロントハイスピーカー (右) レベル ^{b)} [RH LEVEL]	RH -10.0 dB ~ RH +10.0 dB (0.5 dB 単位)
	アクティブサブウーファー ^{b)} レベル [SW LEVEL]	SW -10.0 dB ~ SW +10.0 dB (0.5 dB 単位)
スピーカー設定 [<SPEAKER>]	スピーカーパターン [SP PATTERN]	5/2.1 ~ 2/0 (20 とおり)
	センタースピーカー ^{b)} リフトアップ [CNT LIFT]	1 ~ 10、OFF
	フロントスピーカーサイズ ^{b)} [FRT SIZE]	LARGE、SMALL
	センタースピーカーサイズ ^{b)} [CNT SIZE]	LARGE、SMALL
	サラウンドスピーカーサイズ ^{b)} [SUR SIZE]	LARGE、SMALL
	フロントハイスピーカー ^{b)} サイズ [FH SIZE]	LARGE、SMALL
	サラウンドバックスピーカー ^{b)} 割り当て ^{d)} [SB ASSIGN]	SPK B、BI-AMP、OFF
	フロントスピーカー (左) ^{b)} までの距離 [FL DIST.]	FL 1.00 m ~ FL 10.00 m (FL 3'3" ~ FL 32'9") (0.01 m (1インチ) 間隔)
	フロントスピーカー (右) ^{b)} までの距離 [FR DIST.]	FR 1.00 m ~ FR 10.00 m (FR 3'3" ~ FR 32'9") (0.01 m (1インチ) 間隔)
	センタースピーカーまでの 距離 ^{b)} [CNT DIST.]	CNT 1.00 m ~ CNT 10.00 m (CNT 3'3" ~ CNT 32'9") (0.01 m (1インチ) 間隔)
	サラウンドスピーカー (左) ^{b)} までの距離 [SL DIST.]	SL 1.00 m ~ SL 10.00 m (SL 3'3" ~ SL 32'9") (0.01 m (1インチ) 間隔)
	サラウンドスピーカー (右) ^{b)} までの距離 [SR DIST.]	SR 1.00 m ~ SR 10.00 m (SR 3'3" ~ SR 32'9") (0.01 m (1インチ) 間隔)
	サラウンドバックスピーカー ^{b)} までの距離 [SB DIST.]	SB 1.00 m ~ SB 10.00 m (SB 3'3" ~ SB 32'9") (0.01 m (1インチ) 間隔)

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
	サラウンドバックスピーカー (左) までの距離 ^{b)} [SBL DIST.]	SBL 1.00 m ~ SBL 10.00 m (SBL 3'3" ~ SBL 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	サラウンドバックスピーカー (右) までの距離 ^{b)} [SBR DIST.]	SBR 1.00 m ~ SBR 10.00 m (SBR 3'3" ~ SBR 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	フロントハイスピーカー (左) までの距離 ^{b)} [LH DIST.]	LH 1.00 m ~ LH 10.00 m (LH 3'3" ~ LH 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	フロントハイスピーカー (右) までの距離 ^{b)} [RH DIST.]	RH 1.00 m ~ RH 10.00 m (RH 3'3" ~ RH 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	アクティブサブウーファー までの距離 ^{b)} [SW DIST.]	SW 1.00 m ~ SW 10.00 m (SW 3'3" ~ SW 32'9") (0.01 m (1 インチ) 間隔)
	距離の単位 [DIST. UNIT]	FEET、METER
	フロントスピーカーのクロス オーバー周波数 ^{e)} [FRT CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
	センタースピーカーのクロス オーバー周波数 ^{e)} [CNT CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
	サラウンドスピーカーの クロスオーバー周波数 ^{e)} [SUR CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
	フロントハイスピーカーの クロスオーバー周波数 ^{e)} [FH CROSS]	CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz 単位)
入力設定 [<INPUT>]	入力モード [INPUT MODE]	AUTO、OPT、COAX、 ANALOG
	入力に名前を付ける [NAME IN]	詳しくは、Input Settings メニューの「Name In」をご 覧ください (94 ページ)。
	デジタル音声入力の割り当て [A. ASSIGN]	詳しくは、「他の音声入力端子 を使う (Audio Input Assign)」(81 ページ) をご 覧ください。
サラウンド設定 [<SURROUND>]	HD-D.C.S. エフェクト タイプ ^{f)} [HD-D.C.S. TYP]	DYNAMIC、THEATER、 STUDIO

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
EQ 設定 [<EQ>]	フロントスピーカーの低域 レベル [FRT BASS]	FRT B. -10 dB ~ FRT B. +10 dB (1 dB 単位)
	フロントスピーカーの高域 レベル [FRT TREBLE]	FRT T. -10 dB ~ FRT T. +10 dB (1 dB 単位)
	センタースピーカーの低域 レベル [CNT BASS]	CNT B. -10 dB ~ CNT B. +10 dB (1 dB 単位)
	センタースピーカーの高域 レベル [CNT TREBLE]	CNT T. -10 dB ~ CNT T. +10 dB (1 dB 単位)
	サラウンドスピーカーの低域 レベル [SUR BASS]	SUR B. -10 dB ~ SUR B. +10 dB (1 dB 単位)
	サラウンドスピーカーの高域 レベル [SUR TREBLE]	SUR T. -10 dB ~ SUR T. +10 dB (1 dB 単位)
	フロントハイスピーカーの 低域レベル [FH BASS]	FH B. -10 dB ~ FH B. +10 dB (1 dB 単位)
	フロントハイスピーカーの 高域レベル [FH TREBLE]	FH T. -10 dB ~ FH T. +10 dB (1 dB 単位)
チューナー設定 [<TUNER>]	FM 放送局の受信モード [FM MODE]	STEREO、MONO
	プリセットした放送局に 名前を付ける [NAME IN]	詳しくは、「プリセットした放 送局に名前を付ける (Name Input)」(48 ページ) をご覧 ください。
音声設定 [<AUDIO>]	Digital Legato Linear [D.L.L.]	D.L.L. AUTO2、D.L.L. AUTO1、D.L.L. OFF
	Sound Optimizer [OPTIMIZER]	OFF、LOW、NORMAL
	音声と映像出力の同期 [A/V SYNC]	0 ms ~ 300 ms (10 ms 単位)、 HDMI AUTO
	音量の自動詳細設定 [AUTO VOL]	A. VOL ON、A. VOL OFF
	デジタル放送の言語選択 [DUAL MONO]	MAIN/SUB、MAIN、SUB
	ダイナミックレンジの圧縮 [D. RANGE]	COMP. ON、COMP. AUTO、 COMP. OFF

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定
HDMI 設定 [<HDMI>]	HDMI 機器制御 [CTRL: HDMI]	CTRL ON、CTRL OFF
	Pass Through [PASS THRU]	ON、AUTO、OFF
	HDMI 音声出力 [AUDIO OUT]	AMP、TV+AMP
	HDMI サウンドフィールド [SOUND.FIELD]	AUTO、MANUAL
	アクティブサブウーファー レベル [SW LEVEL]	SW AUTO、SW +10 dB、 SW 0 dB
	ファストビュー [FAST VIEW]	AUTO、OFF
Bluetooth 設定 [<BT>]	Bluetooth スタンバイ モード ^{g)} [BT STANDBY]	STBY ON、STBY OFF
	Bluetooth AAC [BT AAC]	AAC ON、AAC OFF
システム設定 [<SYSTEM>]	ネットワークスタンバイ [NET STBY]	STBY ON、STBY OFF
	オートスタンバイモード [AUTO STBY]	STBY ON、STBY OFF
	バージョン表示 [VER. x.xxx] ^{h)}	

- a)自動音場補正を実行し、設定を保存した場合のみこの設定を選ぶことができます。
- b)スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターや設定があります。
- c)■■■にはスピーカーチャンネルがあります (FL, FR, CNT, SL, SR, SB, SBL, SBR, LH, RH, SW)。
- d)サラウンドパックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありの「SP PATTERN」に設定していないときは、このパラメーターのみを選べます (88 ページ)。
- e)スピーカーが「SMALL」に設定されているときは、このパラメーターのみ選べます。
- f)サウンドフィールドを「HD-D.C.S.」にしているときは、このパラメーターのみ選べます。
- g)Bluetooth 機器がペアリングされているときのみ、このモードを選べます。
- h)x.xxx にはソフトウェアのバージョンナンバーがあります。

表示窓で情報を確認するには

表示窓で、サウンドフィールドなど本機のさまざまな設定内容を確認できます。

- 1 情報を確認したい入力を選ぶ。
- 2 アンプを押したあと、画面表示をくり返し押す。

画面表示ボタンを押すたびに表示が次のように切り換わります。

入力のインデックス名¹⁾ → 選んだ入力 → 最近適用したサウンドフィールド²⁾ → 音量レベル → ストリーム情報³⁾

FM および AM ラジオを視聴する場合

プリセット放送局名¹⁾ → 周波数
→ 最近適用したサウンドフィールド²⁾ → 音量レベル

- 1) インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。

空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。

- 2) ピュアダイレクト機能が働いているときは、「PURE.DIRECT」は表示されません。

- 3) ストリーム情報は表示されない場合があります。

ご注意

言語によっては、文字やマークが表示されないことがあります。

ちょっと一言

本機の DISPLAY からも情報を確認できます。

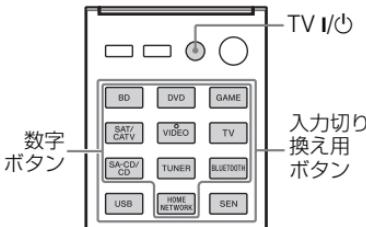
リモコンを使う

入力切り換え用ボタンの割り当てを変更する

お使いの機器に合わせて入力切り換え用ボタンの初期設定を変更することができます。例えば、ブルーレイディスクプレーヤーを本機の SAT/CATV 端子につないでいる場合、リモコンの SAT/CATV ボタンを設定してブルーレイディスクプレーヤーを操作できます。

ご注意

TV、TUNER、BLUETOOTH、USB、HOME NETWORK および SEN 入力切り換え用ボタンの割り当ては変更できません。



- 1 割り当てを変更したい入力切り換え用ボタンを押したまま、TV I/O を長押しする。

例：SAT/CATV を押したまま、TV I/O を長押しする。

- 2 TV I/O ボタンを押したまま、選んだ入力切り換え用ボタンをはなす。

例：TV I/O ボタンを押したまま、SAT/CATV をはなす。

3 下記の表を参照し、使いたい機器の種類に対応するボタンを押し、TV I/待機をはなす。

例：1を押して、TV I/待機をはなす。SAT/CATVボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるようになります。

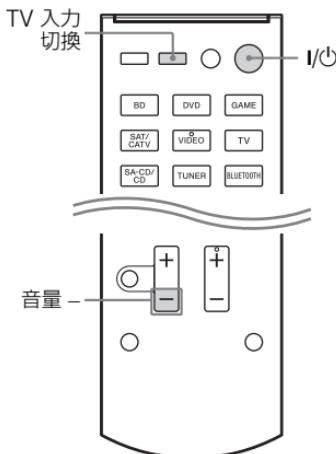
種類	押すボタン
ブルーレイディスク プレーヤー (コマンドモード BD1) ^{a)}	1
ブルーレイディスク レコーダー (コマンドモード BD3) ^{a)}	2
DVD プレーヤー (コマンドモード DVD1)	3
DVD レコーダー (コマンドモード DVD3) ^{b)}	4
ビデオデッキ (コマンドモード VTR3) ^{c)}	5
CD プレーヤー	6

a) BD1 または BD3 の設定について詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤー/レコーダーの取扱説明書を参照してください。

b) ソニー製の DVD レコーダーは DVD1 または DVD3 の設定で操作できます。詳しくは、DVD レコーダーに付属の取扱説明書を参照してください。

c) ソニー製のビデオデッキは、VHS に対応する VTR3 の設定で操作できます。

入力切り替え用ボタンを初期設定に戻す



- 1 音量 - を押したまま、I/待機を長押しして、TV 入力切換を押す。**
- 2 すべてのボタンをはなす。**
入力切り替え用ボタンが初期設定の状態に戻ります。

使用上のご注意

安全について

キャビネットに固い物体が落ちたり、液体がかかったりした場合は、使用を中止し、本体の電源プラグを抜いて保守要員が点検してください。

電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。
動作電圧は本体裏面の銘板に表示されています。
- 本機の電源を切っても、電源コードが壁のコンセントにつながれている間は、電源が完全に遮断されるわけではありません。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。

温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。特に、大音量で使用し続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

設置場所について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。
 - ぐらついた台の上や不安定な場所。
 - じゅうたんや布団の上。
 - 湿気の多い所、風通しの悪い所。
 - ほこりの多い所。
 - 密閉された所。
 - 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
 - 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入り、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

- 本機をワックス、オイル、研磨処理など特殊処理を施した台や床面に置く場合は、表面が汚れたり、変色したりする可能性があるため、ご注意ください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。



窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

操作について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。

お手入れについて

キャビネットやパネル面、操作部は、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

Bluetooth 通信について

- 各 Bluetooth 機器はおよそ 10 メートルの範囲内（障害物のない距離）で使用してください。下記の状況では、通信可能範囲が狭くなります。
 - Bluetooth 接続された機器同士の間に、人や金属体、壁、その他の障害物があるとき
 - 無線 LAN が設置されている場所
 - 使用中の電子レンジの近く
 - 他の電磁波が発生している場所
- Bluetooth 機器と無線 LAN (IEEE 802.11b/g) は同じ周波数帯 (2.4 GHz) を使用しています。Bluetooth 機器を無線 LAN 機能搭載の機器の近くで使用すると、電磁干渉が起きる場合があります。通信速度の低下、ノイズ、接続障害の原因となることがあります。この問題が発生した場合は、下記の措置を行ってください。
 - 無線 LAN 機器から 10 メートル以上離れた場所に本機を置く。
 - Bluetooth 機器を 10 メートル以内で使用しているときは、無線 LAN 機器の電源を切る。
 - 本機と Bluetooth 機器をできる限り近付けて置く。
- 本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、下記の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。
 - 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスが発生する場所
 - 自動ドアや火災報知機の近く

• 本機は、Bluetooth 標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応することで、Bluetooth 技術を使って通信するときの安全な接続を確保しています。ただし、設定内容や他の要因によってはこのセキュリティでは不充分なことがあるため、Bluetooth 技術を使って通信するときはご注意ください。

- Bluetooth 技術を使用した接続時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と同じプロファイルを持つすべての Bluetooth 機器との Bluetooth 通信を保証するものではありません。
- 本機につなぐ Bluetooth 機器は、Bluetooth SIG, Inc. の定める Bluetooth 標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。つなぐ機器が Bluetooth 標準規格に適合していても、Bluetooth 機器の特性や仕様によっては、接続できなかったり、操作方法、表示、動作が異なったりするなどの現象が発生する場合があります。
- 本機につなぐ Bluetooth 機器や通信環境、周囲の状況によっては、ノイズが発生したり、音声が途切れたりすることがあります。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は 2.4GHz 帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

- 1 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- 3 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。



この無線機器は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として FH-SS 変調方式を採用し、与干渉距離は 10m です。この無線製品は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として DS-SS 変調方式および OFDM 変調方式を採用し、与干渉距離は 40m です。



故障かな?と思ったら

本機の使用中に以下の問題が発生した場合は、このトラブルシューティングガイドをご覧になり、問題の改善に役立ててください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

電源

本機の電源が自動的に切れる

- 「Auto Standby」が「On」に設定されている（95 ページ）。
- スリープタイマー機能が働いている（13 ページ）。
- 「PROTECTOR」が働いている（118 ページ）。

映像

テレビに映像が表示されない

- 入力切り換えるボタンで適切な入力を選ぶ。
- テレビを適切な入力モードに設定する。
- テレビからオーディオ機器を離す。
- ケーブルが正しく、しっかりと機器につながっているか確認する。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 特に解像度が 1080p の映像や Deep Color、4K または 3D の映像を視聴するときは、必ずハイスピード HDMI ケーブルを使用する。

その他

可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花や高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生する恐れがあります。

本機についてご質問や問題がある場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

テレビに3D映像が表示されない

- テレビまたは映像機器によっては、3Dの映像が表示されないことがあります。本機が対応している3D映像フォーマットを確認してください（120ページ）。

テレビに4K映像が表示されない

- テレビまたは映像機器によっては、4Kの映像が表示されないことがあります。お使いの映像機器の性能およびテレビや映像機器の設定を確認する。また、映像機器が、本機の4Kに対応しているHDMI IN端子に接続されているかを確認する。

本機のスタンバイ状態時に、テレビから映像が出ない

- 本機がスタンバイ状態になると、本機の電源を切る前に選択したHDMI機器から映像が出力されます。他の機器を楽しむ場合は、その機器を再生してワンタッチプレイ操作を行うか、もしくは本機の電源を入れてお好みのHDMI機器を選択する。
- “ブリビアリンク”に対応していない機器を本機につなぐ場合は、HDMI Settingsメニューの「Pass Through」が「On」に設定されていることを確認する（93ページ）。

テレビ画面にOSDメニューリストが表示されない

- ホームを押す。
- テレビが正しくつながっているか確認する。
- テレビによっては、テレビ画面にOSDメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

表示窓が消灯する

- PURE DIRECT表示が点灯している場合、PURE DIRECTを押して機能をオフにする（53ページ）。
- 本機のDIMMERを押して、表示窓の明るさを調節する。

音声

どの機器を選んでも、音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべての接続コードが、本機、スピーカー、機器のそれぞれの入力／出力端子に差し込まれているか確認する。
- 本機とすべての機器の電源が入っているか確認する。
- MASTER VOLUME つまみが「VOL MIN」に設定されていないか確認する。
- SPEAKERSが「SPK OFF」に設定されていないか確認する（33ページ）。
- ヘッドホンが本機につながっていないことを確認する。
- リモコンの消音を押して、消音機能を解除する。
- リモコンの入力切り換え用ボタンを押すか、本体の INPUT SELECTOR つまみを回して、お好みの機器を選ぶ（39ページ）。
- テレビのスピーカーから音声を聞きたいときは、HDMI Settingsメニューの「HDMI Audio Out」を「TV+AMP」に設定する（93ページ）。マルチチャンネル音声のソースを再生できない場合は、「AMP」に設定する。ただし、この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- 再生機器から出力される音声信号のサンプリング周波数、チャンネル数、または音声フォーマットが切り換えられたときに、音声が途切れる場合があります。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯から少なくとも3メートル離れているか確認する。
- テレビからオーディオ機器を離す。

- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。

特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ヘッドホンを PHONES 端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンから 1 チャンネルのみが outputされる場合は、機器が本機に正しくつながっていない可能性があります。本機と機器の端子にすべてのコードが正しくつながれていることを確認する。
ヘッドホンから両方のチャネルが outputされる場合は、フロントスピーカーが本機に正しくつながっていない可能性があります。音を出力していない方のフロントスピーカーの接続を確認する。
- アナログ機器の左右両方の端子に接続しているか確認する。アナログ機器は左右両方の端子に接続する必要があります。音声コード(別売)を使う。
- スピーカーのレベルを調節する(89 ページ)。
- 自動音場補正メニューまたは Speaker Settings メニューの「Speaker Pattern」を使って、スピーカーの設定が適切か確認する。その後、Speaker Settings メニューの「Test Tone」を使って、各スピーカーから正しく音が outputされているか確認する。
- ドルビーデジタルサラウンド EX の情報を持たないディスクがあります。
- アクティブサブウーファーが正しく、確実に接続されているか確認する。
- アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認する。
- 選んだサウンドフィールドによつては、アクティブサブウーファーから音が出ないことがあります。

- すべてのスピーカーが「Large」に設定されていて、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」が選ばれているときは、アクティブサブウーファーから音が出ません。

特定の機器から音が出ない

- 機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認する。
- 接続に使用されているコードが、本機と機器の端子に確実に差し込まれているか確認する。
- 「Input Mode」を確認する(81 ページ)。
- 機器が、対応する HDMI 端子に正しく接続されているか確認する。
- 再生機器によっては、機器側で HDMI 設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 特に解像度が 1080p の映像や Deep Color、4K または 3D の映像を視聴するときは、必ずハイスピード HDMI ケーブルを使用する。
- テレビ画面に OSD が表示されているときは、本機から音声が出力されないことがあります。ホームを押してホームメニューを表示させて、もう一度ホームを押す。
- HDMI 端子から伝送された音声信号(フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など)はつないだ機器によって制限されることがあります。HDMI ケーブルでつないだ機器からの映像が明瞭でなかつたり、音声が出なかつたりする場合は、つないだ機器の設定を確認する。
- つないだ機器が著作権保護技術(HDCP)に対応していない場合、本機の HDMI TV OUT 端子からの映像や音声が歪んだり、出力されないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様を確認する。

- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD) を楽しむには、再生機器の映像解像度を 720p/1080i より高く設定する。
- DSD やマルチチャンネルリニア PCM を楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。再生機器の取扱説明書を参照してください。
- テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。
- テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMI Settings メニューの「HDMI Audio Out」の設定を下記のように設定する。
 - テレビのスピーカーと本機から音を聞きたい場合は、「TV+AMP」
 - 本機から音を聞きたい場合は、「AMP」
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機から音が output されない場合があります。この場合は、HDMI Settings メニューの「HDMI Audio Out」を「AMP」に設定する (93 ページ)。
- 本機でテレビ入力が選ばれているのに、本機につないだ機器の音声が聞こえない場合
 - HDMI 接続で本機につないだ機器のプログラムを視聴したいときは、必ず本機の入力を HDMI に変更する。
 - テレビ放送を視聴したいときは、テレビのチャンネルを切り換える。
 - テレビにつないだ機器から番組を視聴したいときは、必ず視聴したい機器または入力を正しく選ぶ。この操作についてはテレビの取扱説明書を参照してください。

- 「Analog Direct」を使っているときは、音声は出力されません。別のサウンドフィールドを使う (49 ページ)。
- HDMI 機器制御機能を使用しているときは、つないだ機器をテレビのリモコンで操作することはできません。
 - つないだ機器およびテレビによっては、機器側とテレビ側で設定が必要な場合があります。各機器とテレビに付属の取扱説明書を参照してください。
 - 本機の入力を機器に接続した HDMI 入力に切り換える。
- 選んだデジタル音声入力端子の割り当てが他の入力に変更されていないか確認する (81 ページ)。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認する。
- Speaker Settings メニューで音声レベルパラメーターを調整する。

ドルビーデジタルまたは DTS マルチチャンネルの音声が再生されない

- 再生中の DVD などが、ドルビーデジタルまたは DTS 形式で録音されているか確認する。
- DVD プレーヤー／レコーダーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器のデジタル音声の出力設定が有効になっているか確認する。
- HDMI Settings メニューで「HDMI Audio Out」を「AMP」に設定する (93 ページ)。
- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD)、DSD、マルチチャンネルリニア PCM は、HDMI 接続でのみお楽しみいただけます。

サラウンド効果が得られない

- 映画用または音楽用のサウンドフィールドを選んでいるか確認する（49ページ）。
- サンプリング周波数が48kHzより大きいDTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、または Dolby TrueHD を受信している場合は、サウンドフィールドが働きません。

スピーカーからテストトーンが出力されない

- スピーカーコードが確実につながっていない可能性があります。スピーカーコードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように確実につなぐ。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。

テレビ画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが

出力される

- スピーカーパターンの設定が間違っている。スピーカーの接続とスピーカーパターンが正確に一致していることを確認する。

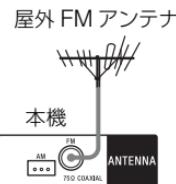
本機のスタンバイ状態時に、テレビから音声が出ない

- 本機がスタンバイ状態になると、本機の電源を切る前に選択したHDMI機器から音声が出ます。他の機器を楽しむ場合は、その機器を再生してワンタッチプレイ操作を行うか、もしくは本機の電源を入れて好みのHDMI機器を選択する。
- “ブリビアリンク”に対応していない機器を本機につなぐ場合は、HDMI Settingsメニューの「Pass Through」が「On」に設定されていることを確認する（93ページ）。

チューナー

FM放送の受信状態が悪い

- 75Ω同軸ケーブル（別売）を使って、下図のように本機と屋外FMアンテナをつなぐ。



放送局が受信できない

- アンテナがしっかりとつながれているか確認する。アンテナを調節したり、必要に応じて外部アンテナを使う。
- 自動受信で受信状態が悪い（放送局の信号が弱い）。ダイレクト選局を使う。
- プリセットされた放送局がない、またはプリセットした放送局を消去してしまった（プリセットした放送局をスキャンして受信している場合）。放送局をプリセットする（48ページ）。
- アンプを押してから、リモコンの画面表示をくり返し押して、表示窓に周波数を表示させる。

iPod/iPhone

音声が歪む

- リモコンの音量-をくり返し押す。
- iPod/iPhoneの「EQ」設定を「Off」または「Flat」にする。

iPod/iPhoneから音が出ない

- iPod/iPhoneを取りはずして、もう一度つなぐ。

iPod/iPhoneを充電できない

- 本機の電源が入っているか確認する。

- iPod/iPhone が確実につながっているか確認する。

iPod/iPhone を操作できない

- iPod/iPhone が保護ケースに入ったままになっていないか確認する。
- iPod/iPhone のコンテンツによっては、再生に時間がかかることがあります。
- 本機の電源を切り、iPod/iPhone を取りはずす。もう一度本機の電源を入れて、iPod/iPhone をつなぎ直す。
- 本機が対応していない iPod/iPhone を使用している。対応機器については、「対応 iPod/iPhone モデル」(41 ページ) をご覧ください。

iPhone の呼び出し音の音量を変更できない

- iPhone を直接操作して呼び出し音の音量を調節する。

USB 機器

本機が対応している USB 機器を使用していますか

- 本機が対応していない USB 機器を使用すると、下記のような問題が起こることがあります。対応機器については、「対応 USB 機器」(43 ページ) をご覧ください。
 - USB が認識されない。
 - 本機にファイル名またはフォルダ名が表示されない。
 - 再生ができない。
 - 音が飛び。
 - ノイズがある。
 - 歪んだ音声が出力される。

ノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする

- 本機の電源を切って USB 機器をつなぎ直し、もう一度本機の電源を入れる。
- 音楽データ自体がノイズや歪んだ音声を含んでいる。

USB が認識されない

- 本機の電源を切り、USB 機器を取りはずす。もう一度本機の電源を入れて、USB 機器をつなぎ直す。
- 本機が対応している USB 機器をつなぐ(43 ページ)。
- USB 機器が正しく働いていない。問題の対処方法については、USB 機器の取扱説明書を参照してください。

再生が始まらない

- 本機の電源を切って USB 機器をつなぎ直し、もう一度本機の電源を入れる。
- 本機が対応している USB 機器をつなぐ(43 ページ)。
- ▶ を押して再生を開始する。

USB 機器を □ (USB) ポートにつなげない

- USB 機器を上下逆さにつなごうとしている。USB 機器を正しい方向につなぐ。

エラーメッセージが表示される

- USB 機器に保存されているデータが破損している。
- 本機で表示できる文字コードは下記のとおりです。
 - 大文字 (A ~ Z)
 - 小文字 (a ~ z)
 - 数字 (0 ~ 9)
 - 記号 (= < > * + , ? ./ [\] _)

他の文字は正しく表示されないことがあります。

「Reading」が長時間表示される、または再生までに時間がかかる

- 以下の場合は、読み出しに時間がかかることがあります。
 - USB 機器に多くのフォルダーやファイルが保存されている。
 - 非常に複雑なファイル構成になっている。
 - メモリー容量を超えている。
 - 内部メモリーが断片化している。

下記を目安にすることをおすすめします。

- USB 機器の総フォルダーチ数 : 256 以下（「ROOT」フォルダーチを含む）
- フォルダーチごとの総ファイル数 : 256 以下

音声ファイルを再生できない

- MP3 PRO 形式の MP3 ファイルは再生できません。
- 複数のトラックがある音声ファイルを再生しようとしている。
- AAC ファイルは正しく再生できないことがあります。
- Windows Media Audio Lossless および Professional 形式の WMA ファイルは再生できません。
- FAT16 または FAT32 以外のファイルシステムでフォーマットされた USB 機器には、本機は対応していません。^{*}
- パーティション分割した USB 機器をお使いの場合は、第 1 パーティション内の音声ファイルのみ再生できます。
- 8 階層のフォルダーチまで再生できます（「ROOT」フォルダーチ含む）。
- フォルダーチ数が 256 を超えている（「ROOT」フォルダーチ含む）。
- フォルダーチ内のファイル数が 256 を超えている。
- 暗号化またはパスワードで保護されたファイルなどは再生できません。
- 本機は FAT16 および FAT32 に対応していますが、すべての FAT に対応していない USB 機器もあります。詳しくは各 USB 機器の取扱説明書を参照するか、製造元にお問い合わせください。

ネットワーク接続

無線 LAN 接続で本機を WPS につなげない

- アクセスポイントが WEP に設定されているときは、WPS を使ってネットワークにつなぐことはできません。アクセスポイントスキャンでアクセスポイントを検索してから、ネットワークを設定する。

エラーメッセージが表示される

- エラーの性質を確認する。「ネットワーク機能メッセージ一覧」（69 ページ）をご覧ください。

ネットワークにつなげない

- ネットワークの状態を確認する。「Information」を確認して、手順 2 で「Physical Connection」を選択する（94 ページ）。「Connection Fail」が表示される場合は、ネットワーク接続をやり直す（55 ページ）。
- 無線ネットワークでシステムが接続されているときは、本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置して、設定をやり直す。
- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの設定を確認して、設定をやり直す。機器の設定について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。
- 必ず無線 LAN ルーター、アクセスポイントを使う。
- 無線ネットワークは、電子レンジやその他の機器から放出される電磁放射線の影響を受けます。電磁放射線を放出する機器から離れたところに配置してください。
- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。

TV SideView 機器を使って本機を操作できない

- 本機の電源を入れてからネットワークに接続するまでに時間がかかることがあります。しばらく時間をおいてから、もう一度TV SideView を使って操作する。
- 本機の電源を入れたらすぐにTV SideView を使えるようにするには、Network Settings メニューの「Network Standby」を「On」にする。

Network Settings メニューを選べない

- 本機の電源を入れてからしばらく時間をおいて、Network Settings メニューを設定する。

ホームネットワーク

ネットワークにつなげない

- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。
- サーバーの電源が入っていることを確認する。
- 本機のネットワーク設定が間違っている。ネットワークの状態を確認する。「Information」を確認して、手順 2 で「Physical Connection」を選択する（94 ページ）。
- 「Connection Fail」が表示される場合は、ネットワーク接続をやり直す（55 ページ）。
- サーバーが不安定な可能性があります。再起動する。
- 本機とサーバーが無線 LAN ルーター、アクセスポイントに正しくつながれているか確認する。

サーバーが正しく設定されているか確認する（55 ページ）。本機がサーバーに登録されているか、およびサーバーからの音楽ストリーミングを許可しているかを確認する。

- 無線ネットワークにシステムが接続されているときは、本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置する。
- パソコンで ICF (Internet Connection Firewall) 機能が働いていると、本機のパソコンへの接続の妨げになることがあります（パソコンをサーバーとして使用している場合のみ）。本機をパソコンにつなぐには、ファイアウォールの設定の変更が必要な場合があります。（ファイアウォールの設定の変更について詳しくは、パソコンに付属の取扱説明書を参照してください。）
- 本機を初期化した場合、またはサーバーのシステム回復を行った場合は、ネットワーク設定をやり直す（55 ページ）。

サーバー（パソコンなど）がサーバーリストに表示されない（テレビ画面に「No Server」が表示される。）

- サーバーの電源を入れる前に本機の電源を入れた。サーバーリストをリフレッシュする（60 ページ）。
- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。
- サーバーの電源が入っていることを確認する。
- サーバーが正しく設定されているか確認する（55 ページ）。本機がサーバーに登録されているか、およびサーバーからの音楽ストリーミングを許可しているかを確認する。

- 本機とサーバーが無線 LAN ルーター、アクセスポイントに正しくつながれているか確認する。ネットワーク設定情報を確認する(94 ページ)。
- お使いの無線 LAN ルーター、アクセスポイントの取扱説明書を参照して、マルチキャスト設定を確認する。マルチキャスト設定が無線 LAN ルーター、アクセスポイント上で有効になっている場合は、無効にする。

音声データを標準再生できない

- Shuffle Play が選ばれている。シャッフルをくり返し押して、「SHUF」を消す。

再生が始まらない、または自動的に次のトラックまたはファイルへ進まない

- 再生しようとしている音声ファイルが本機が対応しているフォーマットであることを確認する(60 ページ)。
- DRM 著作権保護付きの WMA ファイルは再生できません。WMA ファイルの著作権保護の確認のしかたについては、63 ページを参照してください。

再生中に音が飛ぶ

- 無線 LAN の帯域幅が低すぎる。本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置して、間に障害物を置かない。
- パソコンをサーバーとして使用している場合は、パソコンで複数のアプリケーションが動作している可能性があります。パソコン上でアンチウィルスソフトがアクティブになっていると、システムリソースを大量に消費するため、一時的にソフトウェアを無効にする。
- ネットワーク環境によっては、1 つ以上の機器で同時にトラック再生をできないことがあります。他の機器の電源を切って、本機がトラック再生をできるようにする。

「Cannot Play」が表示される

- 音声ファイル以外のファイルを再生することはできません。
- サーバーが正しく設定されているか確認する(55 ページ)。本機がサーバーに登録されているか、およびサーバーからの音楽ストリーミングを許可しているかを確認する。
- サーバー上の音声ファイルが壊れていなか、または消去されていないかを確認する。サーバーに付属の取扱説明書を参照してください。
- 以下のトラックは再生できません。
 - 再生制限に違反するトラック
 - 規格外の著作権情報が付いているトラック
 - ホームネットワークストリーミングを許可していないオンラインミュージックストアで購入したトラック
 - 本機が対応していないフォーマットのトラック(60 ページ)
- 選んだトラックがサーバーから消去されていないか確認する。トラックが消去されていたら、別のトラックを選ぶ。
- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。
- サーバーの電源が入っていることを確認する。
- サーバーが不安定な可能性があります。再起動する。
- 本機とサーバーが無線 LAN ルーター、アクセスポイントに正しくつながれているか確認する。

「No Track」が表示される

- 選んだフォルダーの中にトラックやフォルダーがない場合は、フォルダーを拡張して内容を表示させることはできません。

著作権付きの WMA 形式のトラックを再生できない

- WMA ファイルの著作権保護の確認のしかたについては、63 ページを参照してください。

前回選んだトラックが選べない

- サーバー上でトラック情報が変更された可能性があります。サーバーリストでサーバーを選び直す（60 ページ）。

ホームネットワーク上の機器を本機につなげない

- 「Network Standby」が「Off」に設定されている。本機の電源を入れる、または Network Settings メニューで「Network Standby」を「On」に設定する（95 ページ）。
- ネットワークが正しく設定されていることを確認する。正しく設定されていない場合は、接続できません（95 ページ）。
- デバイスリスト上の機器が「Not Allow」（61 ページ）に設定されている、または機器がデバイスリストに追加されていない（61 ページ）。
- 既に 20 台（最大登録数）の機器が登録されている。デバイスリストから不必要的機器を削除して、「Auto Access」を「Allow」に設定する（61 ページ）。
- 本機が以下のいずれかの操作をしているときは、本機のサーバー操作が停止します。
 - サーバー上に保存されたトラックを再生している（本機がブレーヤーとして働いている）
 - ソフトウェアをアップデートしている
 - システムをフォーマットしている

ネットワーク上の機器からアクセスすると、本機の電源が自動的に入らない

- 本機自体は Wake-on-LAN 標準に対応していません。そのため、「Network Standby」が「Off」に設定されているときは、Wake-on-LAN で本機の電源を入れることはできません。本機がネットワーク経由で他の機器からの操作に反応できるように（95 ページ）、Network Settings メニューで「Network Standby」を「On」に設定する（94 ページ）。

ネットワーク上の機器で本機の電源を入れることができない

- ネットワーク上の他の機器で Wake-on-LAN を起動しても、本機の電源が入らない

AirPlay

iOS 機器からは本機の電源を入れることはできません

- セキュリティソフトウェアのファイアウォール設定を確認する。詳しくは下記のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/audio/>
- iOS 機器または iTunes を使用しているパソコンがホームネットワークにつながっているか確認する。
- 本機の AirPlay ソフトウェアのバージョンをアップデートする、および iOS 機器を最新バージョンにアップデートする（68 ページ）。

音が飛ぶ。

- ネットワーク環境などの要因によって、無線ネットワークを使用しているときに音が飛びます。
- サーバーがオーバーロードしている。使用中の不要なアプリケーションすべてを閉じる。

本機を操作できない

- iOS 機器のソフトウェアを最新バージョンにアップデートする (68 ページ)。
- 本機のソフトウェアを最新バージョンにアップデートする (68 ページ)。
- 他の機器を使って AirPlay 対応機器に同時にストリーミングしないでください。

音量 +/-、▶、II、■、◀、▶などのボタンが動作しない シャッフル、リピートなどのボタンが動作しない

- iTunes に本機からの操作を受け入れさせる設定を、有効にする。
- iOS 機器で本機がリモートスピーカーに選ばれていない。本機をネットワークスピーカーに選ぶ。

SEN

本機をサービスにつなげない

- 無線 LAN ルーター、アクセスポイントの電源が入っていることを確認する。
- ネットワークの状態を確認する。「Information」(94 ページ) を確認して、手順 2 で「Physical Connection」を選ぶ。「Connection Fail」が表示される場合は、ネットワーク接続を設定し直す (55 ページ)。
- 無線ネットワークにシステムが接続されているときは、本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置する。
- インターネットプロバイダーとの契約でインターネット接続が一度につき 1 つの機器に制限されている場合は、同時に 2 台の機器でインターネットにアクセスすることはできません。通信会社かサービスプロバイダーへお問い合わせください。

音が飛ぶ。

- 無線 LAN の帯域幅が低すぎる。本機と無線 LAN ルーター、アクセスポイントを近付けて配置して、間に障害物を置かない。

Bluetooth 機器

ペアリングができない

- Bluetooth 機器を本機に近付ける。
- 他の Bluetooth 機器が本機の周りにあると、ペアリングができないことがあります。この場合は、他の Bluetooth 機器の電源を切る。
- Bluetooth 機器で入力したパスキーと同じパスキーを正しく入力する (73 ページ)。

Bluetooth 接続ができない

- 接続しようとしている Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない、および本機とつなぐことができません。
- 本機の BLUETOOTH を押して、前回つないだ Bluetooth 機器につなぐ。
- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能をオンにする。
- Bluetooth 機器から接続を確立する。
- ペアリング登録情報が消去されている。もう一度ペアリング操作を行う (72 ページ)。
- Bluetooth 機器につないでいるときは、他の Bluetooth 機器から本機は検出されず接続を確立できません。
- Bluetooth 機器のペアリング登録情報を消去して (72 ページ)、もう一度ペアリング操作を行う。

音が飛んだり変動したりする、または接続が失われる

- 本機と Bluetooth 機器が離れてきている。

- 本機と Bluetooth 機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させる。
- 無線 LAN、他の Bluetooth 機器、電子レンジのような電磁放射線を放出する機器が本機の近くにある場合は、遠ざけてください。

Bluetooth 機器の音声を本機で聞くことができない

- Bluetooth の音量を上げてから、音量 +/- (または本機のMASTER VOLUME つまみ) を使って音量を調節する。

ハム音またはノイズがひどい

- 本機と Bluetooth 機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させる。
- 無線 LAN、他の Bluetooth 機器、電子レンジのような電磁放射線を放出する機器が本機の近くにある場合は、遠ざけてください。
- つないだ Bluetooth 機器の音量を下げる。

“プラビアリンク” (HDMI 機器制御)

HDMI 機器制御機能が正しく働かない

- HDMI 接続を確認する (23 ページ)。
- HDMI Settings メニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する (93 ページ)。
- つないだ機器が HDMI 機器制御機能に対応していることを確認する。
- つないだ機器の HDMI 機器制御設定を確認する。つないだ機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- HDMI ケーブルを抜いた、または接続を変えた場合は、「“プラビアリンク” の準備をする」 (76 ページ) の手順をくり返してください。

• 「Control for HDMI」が「Off」に設定されているときは、機器が HDMI IN 端子に接続されている場合でも、“プラビアリンク”は正しく機能しません。

• “プラビアリンク”で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC 規格で以下のとおり制限されています。

- 録画機器 (ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダーなど) : 3 台まで
- 再生機器 (ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーなど) : 3 台まで
- チューナー関連機器 : 4 台まで (このうちの 1 台は、本機のメニュー操作に使用します。)
- オーディオシステム (AV アンプ/ヘッドホン) : 1 台まで

オーディオリターンチャンネル (ARC) が働かない

- HDMI Settings メニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する。
- TV 入力の「INPUT MODE」が「AUTO」に設定されているか確認する (81 ページ)。

リモコン

リモコンで操作できない

- リモコンを本体のリモコン受光部に向けて操作する (8 ページ)。
- リモコンと本体の間に障害物を取り除く。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、新しいものに交換する。
- リモコンで正しい入力を選んだか確認する。

エラーメッセージ

本機に異常がある場合は、表示窓にメッセージが表示されます。メッセージによって本機の状態を確認できます。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

PROTECTOR

異常な電流がスピーカーに出力されているか、本機が何かで覆われ、通気孔がふさがれています。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。本機の天板をふさいでいるものを取り除き、スピーカーの接続を確認して、もう一度電源を入れる。

USB FAIL

USB (USB) ポートから過電流が検出されました。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。iPod/iPhone または USB 機器を確認して取りはずし、もう一度電源を入れる。

その他のメッセージについては、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」(87 ページ)、「iPod/iPhone メッセージ一覧」(43 ページ)、「USB メッセージ一覧」(46 ページ) および「ネットワーク機能メッセージ一覧」(69 ページ) を参照してください。

メモリーを消去する

参照セクション

削除対象	参照ページ
メモリーに保存されたすべての設定	83 ページ
カスタマイズしたサウンド フィールド	54 ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- お保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう 1 度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 8 年間保有しています。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：STR-DN840
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード (6 Ω、JEITA) :
150 W + 150 W

サラウンドモード (6 Ω、JEITA) :
フロント部 : 150 W + 150 W

センター部 : 150 W

サラウンド部 : 150 W + 150 W
サラウンドバック／フロントハイ
部 : 150 W + 150 W

スピーカー適合インピーダンス
フロント、センター、サラウンド、
サラウンドバック／フロントハイ
部 : 6 Ω ~ 16 Ω

高調波ひずみ率

0.09% 以下

20 Hz ~ 20 kHz
(6 Ω 負荷)

95 W + 95 W

周波数特性

アナログ

10 Hz ~ 100 kHz,
+0.5/-2 dB (6 Ω 時) (サウン
ドフィールド、イコライザー回
避時)

入力

アナログ

感度 : 500 mV/50 kΩ
S/N 比¹⁾ : 105 dB
(A、500 mV²⁾)

デジタル (同軸)

インピーダンス : 75 Ω
S/N 比 : 100 dB
(A、20 kHz LPF)

デジタル (光)

S/N 比 : 100 dB
(A、20 kHz LPF)

出力 (アナログ)

SUBWOOFER

電圧 : 2 V/1 kΩ

イコライザー

ゲインレベル

± 10 dB、1 dB 単位

¹⁾INPUT SHORT (サウンドフィールド、
イコライザ回避時)

²⁾重み付きネットワーク、入力レベル

FM チューナー部

受信範囲

76.0 MHz ~ 90.0 MHz

アンテナ

FM アンテナ線

アンテナ端子

75 Ω、不平衡型

AM チューナー部

受信範囲

531 kHz ~ 1,602 kHz
(9 kHz 間隔)

アンテナ

ループアンテナ

ビデオ部

入力／出力

VIDEO : 1 Vp-p、75 Ω

HDMI 映像

入力／出力 (HDMI リピーター ブロック)

フォーマット	2D	3D		
		フレーム パッキング 方式	サイドバイ サイド方式 (ハーフ方式)	オーバー アンダー方式 (トップアンド ボトム方式)
4096 × 2160p @ 23.98/ 24 Hz	○	-	-	-
3840 × 2160p @ 29.97/ 30 Hz	○	-	-	-
3840 × 2160p @ 25 Hz	○	-	-	-
3840 × 2160p @ 23.98/ 24 Hz	○	-	-	-
1920 × 1080p @ 59.94/ 60 Hz	○	-	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	-	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/ 30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/ 24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/ 60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/ 60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/ 30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/ 24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/ 60 Hz	○	-	-	-
720 × 576p @ 50 Hz	○	-	-	-
640 × 480p @ 59.94/ 60 Hz	○	-	-	-

iPod/iPhone 部

DC 5V 1.0 A MAX

USB 部

対応フォーマット*

MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3) :
32 kbps ~ 320 kbps、VBRAAC :
16 kbps ~ 320 kbps、CBR、
VBRWMA9 規格 :
40 kbps ~ 320 kbps、CBR、
VBRWAV :
8 kHz ~ 192 kHz、16 ビット
PCM
8 kHz ~ 192 kHz、24 ビット
PCMFLAC :
8 kHz ~ 192 kHz、16 ビット
FLAC
44.1 kHz ~ 192 kHz、
24 ビット FLAC

* あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性は保証しません。

転送速度
ハイスピード対応する USB 機器
マスストレージクラス (MSC)最大電流
500 mA**NETWORK 部**イーサネット LAN
10BASE-T/100BASE-TX

無線 LAN

対応規格 :
IEEE 802.11 b/gセキュリティ :
WEP 64 ビット、
WEP 128 ビット、
WPA/WPA2-PSK (AES)
WPA/WPA2-PSK (TKIP)無線周波数 :
2.4 GHz**Bluetooth 部**

通信システム

Bluetooth 標準規格 Ver.3.0 準拠
出力Bluetooth 標準規格
Power Class 2最大通信範囲
見通し線およそ 10 メートル¹⁾周波数帯
2.4 GHz 帯
(2.4000 GHz ~ 2.4835 GHz)変調方式
FHSS (Freq Hopping Spread Spectrum)対応 Bluetooth プロファイル²⁾

A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP 1.3 (Audio Video Remote Control Profile)

対応コーデック³⁾SBC⁴⁾、AAC

対応コンテンツ保護

SCMS-T 方式

伝送範囲 (A2DP)

20 Hz ~ 20,000 Hz
(サンプリング周波数 44.1 kHz)

1) 実際の通信範囲は、機器間の障害物、電子レンジの周りの磁場、静電気、コードレス電話、受信感度、アンテナの性能、オペレーションシステム、ソフトウェアアプリケーションなどの要因によって異なります。

2) Bluetooth 標準プロファイルは、機器間の Bluetooth 通信の目的を示しています。

3) コーデック : 音声信号伝達とフォーマット変換

4) サブバンドコーデック

電源、その他電源
AC 100 V、50/60 Hz消費電力
180 W

消費電力（スタンバイ状態時）

0.3 W（「Control for HDMI」、
「Pass Through」、「Network
Standby」、「BT Standby」を
「Off」に設定しているとき）

寸法（幅／高さ／奥行き）（約）

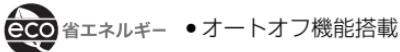
430 mm × 156 mm ×
329.4 mm（最大突起部を含む）

質量（約）

8.5 kg

仕様および外観は、予告なく変更するこ
とがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」
です。



索引

数字

2 チャンネル 49
5.1 チャンネル 18
7.1 チャンネル 18

あ行

アクセスポイントスキャン 35
アルファベットサーチ 13
エフェクトレベル 99
オーディオ機器コントロール 80
オートジャンルセレクター 78
オートスタンバイ / Auto Standby 95, 101
音楽サービス 64
音響効果 49

か行

距離の単位 / Distance Unit 91, 99
クロスオーバー周波数 90, 99
ケーブルテレビチューナー 25, 26
高域 / Treble 53, 100
固定 IP アドレス 36

さ行

サーバー 55
サーバーリスト 60
サウンドフィールド 49
サラウンド設定 99
シーンセレクト 80
システムオーディオコントロール 78
システム設定 / System Settings 95, 101

自動位相マッチング 89
自動音場補正設定 97
自動音場補正の種類 / Calibration Type 97
自動選局 47
消音 40
消去
 サウンドフィールド 54
 メモリー 83
 リモコン 103
スーパーオーディオ CD プレーヤー 27
スピーカー設定 / Speaker Settings 86, 98
スピーカーパターン / Speaker Pattern 88, 98
スリープタイマー 13
接続
 アンテナ 28
 映像機器 23
 オーディオ機器 27
 スピーカー 20
 テレビ 22
 ネットワーク 28
 無線 30
 有線 30
 USB 機器 27
ソフトウェアアップデート / Network Update 96

た行

ダイナミックレンジの圧縮 92, 100
ダイレクト選局 47
チューナー 46
チューナー設定 100

低域／Bass 53, 100
テストトーン／Test Tone 91
テレビ 22
電源オフ連動 77

な行

二重音声／Dual Mono 92, 100
入力 39
入力割り当て 81
ネットワーク設定／Network Settings 94

は行

バイアンプ接続 83
パスキー 73
ピュアダイレクト 53
表示窓 9
表示窓に情報を表示する 102
“ブラビアリンク”
　準備する 76
プリセットメモリー 48
プリセット放送局 48
ブルーレイディスクプレーヤー／
　レコーダー 25
ホームネットワーク 60

ま行

ミュージックモード 50
ムービーモード 49
無線 LAN アンテナ 11
無線 LAN 信号強度 10
メッセージ
　エラー 118
ネットワーク機能 69
iPod/iPhone 43
USB 46
自動音場補正 87
メニュー 84, 97

や行

有線ネットワーク 34

ら行

リセットする 102
リモコン 12
レベル設定 97

わ行

ワンタッチプレイ 77

A-Z

Advanced Auto Volume 92
AirPlay 66
AM 46
Audio Input Assign 94
Audio Settings 91, 100
Auto Volume 92
A.F.D. モード 49
A/V Sync. 92, 100
Bi-Amp 83
Bluetooth
　再生する 73
Bluetooth設定 101
BS デジタルチューナー 25, 26
CD プレーヤー 27
Center Lift Up 89
CS デジタルチューナー 25, 26
DCAC (デジタルシネマ自動音場補正) 31
Device Name 95
DLNA 54
Dolby Digital EX 17
DVD プレーヤー／レコーダー 25
D.L.L. (Digital Legato Linear) 91
Easy Setup (かんたん設定) 31
EQ 設定／EQ Settings 53, 100
Fast View 94

FM 46
FM モード／FM Mode 47, 100
HD-D.C.S. 50
HDMI 23, 93
HDMI Sound Field 93, 101
HDMI 音声出力／HDMI Audio Out 93, 101
HDMI 機器制御／Control for HDMI 93, 101
HDMI 設定／HDMI Settings 93, 101
Input Edit 94
Input Mode 81
Input Settings 94
IP Setting 95
iPod/iPhone
充電する 43
対応モデル 41
Listen 39
Manual Setup 89
Name Input 48
Network Standby 95
Network Update 96
OSD (オンスクリーン表示) 38
Pass Through 93, 101
PlayStation 3 25
PROTECTOR 118
SB Assign 89, 98
SEN 64
Settings メニュー 84
SPEAKERS 33
Subwoofer Level 93
Update Alert 96
USB FAIL 118
USB 機器 43
Wake-on-LAN 61
Watch 39
Wireless network 35

WPS
プッシュボタン 36
PIN コード 37

ソニーソフトウェアの使用許諾契約書

(下記に定義するとおり) ソニーソフトウェアを使用する前に本契約書をよくお読みください。ソニーソフトウェアを使用すると、本契約書に同意したものとみなされます。本契約書の条項に同意できない場合、ソニーソフトウェアを使用することができません。

重要：よくお読みください。このソフトウェア使用許諾契約書（「EULA」）は、お客様と、ソニー製ハードウェアデバイス（「本製品」）の製造元かつソニーソフトウェアのライセンサーである Sony Corporation（「Sony」）との間で締結される法的な契約書です。本製品に含まれているソニーソフトウェアと第三者ソフトウェア（別途ライセンス付きのソニー製ソフトウェア以外のソフトウェア）および更新プログラムやアップグレードプログラムも以降「ソニーソフトウェア」とします。ソニーソフトウェアは本製品でのみ使用できます。

お客様がソニーソフトウェアを使用すると、本 EULA の条項に拘束されることを承諾したもとのみなされます。本 EULA の条項をご承諾いただけない場合は、ソニーソフトウェアのライセンスを発行できません。その場合は、ソニーソフトウェアをご使用いただけません。

ソニーソフトウェアライセンス

ソニーソフトウェアは、国内外の著作権法、およびその他の知的財産権に関する法律や条例によって保護されています。ソニーソフトウェアは販売されるものではなく、使用が許諾されるものです。

ライセンス許諾

ソニーソフトウェアに対するすべての著作権およびその他の権利は、ソニーまたはソフトウェアのライセンサーが保有しています。本 EULA は、ソニーソフトウェアの個人的利用の権利を付与するものです。

要求、権利、制約および制限事項

制約：ソニーソフトウェアの全体または一部の複製、変更、リバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルは許可されていません。

コンポーネントの分離：ソニーソフトウェアは一製品として使用が許諾されています。ソニーソフトウェアのコンポーネント部分を分離させることはできません。

本製品一台で使用する：ソニーソフトウェアは本製品一台のみで使用できます。

貸与：ソニーソフトウェアの貸与またはリリースは許可されていません。

ソフトウェア移行：ソニーソフトウェアのコピーを保持することなく、すべてのソニーソフトウェア（すべてのコピー、コンポーネント部品、メディア、取扱説明書、その他の印刷版および電子版ドキュメント、リカバリーディスクと本 EULA を含むがこれらに限定されない）を移行させ、受取人が本 EULA の条項に同意することを条件に、本 EULA に規定するお客様のすべての権利を永久に譲渡することができます。

終結：本 EULA の条項を順守して使用いただけない場合は、他の権利を侵害することなく、ソニーは本 EULA を終結します。この場合、お客様はソニーからの要求にしたがって本製品をソニー指定の住所に送るものとします。ソニーソフトウェアを本製品から削除次第、本製品をお客様へ返送するものとします。

機密性：お客様は、公然に知られていないソニーソフトウェアに含まれる情報を機密保持すること、およびこれら的情報をソニーに事前許可を得ずに漏えいしないことに同意するものとします。

リスクの高い活動

ソニーソフトウェアは耐故障製品ではありません。また、ソニーソフトウェアの障害が死亡、障害、その他の重大な身体的損害または環境的損害につながるような（「リスクの高い活動」）、フェイルセーフ機構が必要とされる危険な環境（原子力施設、航空機航行、通信システム、航空管制、直接的な救命装置、軍事システムなど）で、オンライン制御装置として使用したり再販したりすることを目的とした設計および製造を行っていません。ソニーおよびサプライヤーは、「リスクの高い活動」に対していかなる適合性の明示または默示保証を明確に否認します。

ソニーソフトウェア保証の除外

ソニーソフトウェアは自己責任で使用してください。ソニーソフトウェアは、「現状有姿」かつ「現状渡し」で、いかなる保証を設けることなく提供され、ソニー、販売会社、およびソニーのライセンサー（この章でのみ包括的に「ソニー」と呼ぶ）は、市販性および特定目的との適合性の暗黙保証を含むがこれらに限定せず、明示あるいは默示を問わざいかなる保証を明確に否認します。ソニーは、ソニーソフトウェアに含まれている機能にエラーやバグがないこと、またはお客様の要件を満たしていること、および操作が改善される可能性を保証しません。また、ソニーは、ソニーソフトウェアの使用や使用結果に関わる正確性、信頼性などを保証せず、明言しません。ソニーまたはソニーの認定代理店が口頭または書面で伝えた情報が、新たな保証を設定したり、この保証の範囲を広げたりすることはできません。默示保証の除外を認めていない地域の場合は、上記除外は適用されません。

上記の一般性を制限することなく、ソニーソフトウェアは本製品以外の他の製品での使用を目的に設計されてはいないことを特に定めます。お客様自作または第三者が製作したいかなる製品、ソフトウェア、コンテンツまたはデータがソニーソフトウェアによって破損しても、ソニーは保証しません。

責任の制限

ソニー、ソニー販売店およびソニーのライセンサー（この章でのみ包括的に「ソニー」と呼ぶ）は、明示または默示保証の不履行、契約不履行、怠慢、厳格責任またはその他の法理論に基づきまたは起因して、付随的または結果的に生じるソニーソフトウェアに関連する損害に対して一切の責任を負いません。ソニーが損害の可能性をアドバイスしたか否かに関わらず、これらの損害は、財産損害、収益損害、データ損害、本製品または他の関連機器使用の損害、ダウンタイムおよび操作時間を含み、かつ制限しません。いかなる場合も、本 EULA の規定において、お客様に対する全債務を合わせた総額は、ソニーソフトウェアに実際に支払われた価格を超えないものとします。

輸出

ソニーソフトウェアをお客様の居住地外の国で使用、または居住地から他国へ持ち出すにあたり、輸入、輸出および通関に関する法律および規制を遵守するものとします。

準拠法

本 EULA は、法の条項の抵触があろうと、日本国法が適用されかつ当該日本国法に準拠して解釈するものとします。本 EULA から生じる論争は、東京の専属的合意管轄裁判所において行われるものとし、ソニーはこの契約書によって裁判地と裁判所の管轄に同意するものとします。お客様およびソニーは、本 EULA から生じる、または本 EULA に関わるいかなる問題に対する陪審裁判の権利を放棄するものとします。

契約の分離

本 EULA の一部が無効または法的強制力を持たなくなった場合でも、他の部分は有効です。

本 EULA またはここで提示される限定的保証に関しては、本製品に付属の保証書に記載されている指定の住所に書面でソニーへお問い合わせいただけます。

サポート情報について

本機の最新情報について詳しくは、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/audio/>

「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

<http://www.sony.jp/support/faq.html>

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル…………… 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話 … 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル…………… 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 … 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389



左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Made for



Bluetooth®



HDMI



* 4 4 5 4 4 6 7 0 2 * (1)